令和5年度 「先導的大学改革推進委託事業」 高等専門学校卒業者のキャリアパス等に 関する調査研究

調査報告書

令和6年3月 株式会社 リベルタス・コンサルティング

本報告書は、文部科学省の大学改革推進委託費による 委託業務として、株式会社リベルタス・コンサルティン グが実施した令和5年度先導的大学改革推進委託事業 「高等専門学校卒業者のキャリアパス等に関する調査研 究」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載等には文部科学省の承認 手続きが必要です。

目次

第 1	章 調査概要	1
1-1	調査目的	1
1-2	調査の視点	1
1-3	調査内容	2
1-4	有識者会議の開催	2
第 2	章 高等専門学校へのアンケート調査	4
2-1	調査概要	4
2-2	本科生・専攻科生の就職について	5
2-3	学位について	16
2-4	進学について	17
2-5	学生の起業について	21
2-6	その他	23
第 3	章 企業へのアンケート調査	25
3-1	調査概要	25
3-2	高専卒社員の在籍状況について	27
3-3	採用状況について	31
3-4	高専生の処遇・評価について	42
3-5	昇格について	60
3-6	高専本科卒者と大卒者の比較	68
3-7	高専出身の大卒・院卒の採用について	72
第 4	章 卒業生へのアンケート調査	76
4-1	調査概要	76
4-2	本科卒業後の進路選択について	77
4-3	進学先の選択(専攻科と大学)	106
4-4	専攻科について	116
4-5	就職について	127
第 5	章 大学へのアンケート調査	140
5-1	調杏概要	140

5-2	高専からの編入・進学について	141
5-3	本科から編入してきた学生の進路・就職	143
5-4	専攻科から大学院に進学してきた学生の進路・就職	144
5-5	その他	145
第 6	章 まとめ	146
6-1	調査結果からみる高専卒業生のキャリアパスに関する現状	146
6-2	まとめ	151
第 7	章 参考資料	154
7-1	企業アンケート調査項目 (Web アンケート)	154
7-2	卒業生アンケート調査項目 (Web アンケート)	160
7-3	高等専門学校アンケート調査票	167
7-4	大学アンケート調査票	171

第1章 調査概要

本調査研究は、文部科学省からの委託を受けて実施したものである。調査概要は、以下のとおり。

1-1 調査目的

高等専門学校(以下、高専)は、5年一貫教育の高等教育機関として、我が国の産業を支える技術者の養成を担ってきた。近年、卒業後に大学への3年次編入学等で進学を希望する学生が増加しており、現在、卒業生の約6割は就職、約4割は進学という状況となっている。高専卒業者(以下、本科卒業者)は卒業時に学位を取得できず、学位を取得するためには、大学への3年次編入学や高専専攻科へ進学し、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による学位認定を受ける必要がある。

本科卒業生は大卒者と比較して専門的能力等が優れていると評価される声もあるが、就職時の初任給等は短大卒業程度と位置付けられ、大卒者より入社後の処遇等が低い傾向にあると言われている。その理由の一端として、高専は学位が取得できないからということも要因の一つと考えられるが、調査等で明らかとなっていない。今後、高等教育行政における高専の各種施策を講じるに当たり、高専生のキャリアパスや進路選択にあたっての要因等の現状を把握することを本調査研究の目的とする。

1-2 調査の視点

本調査研究では、就職後の高専卒業生と大卒者との処遇の差について、現状とその要因を明らかにしていく。特に、学位の有無が企業における給与の決定等に影響を与えているかどうかを詳しく分析する。

また、本科卒業後の進路(就職、大学への編入学、専攻科への進学)、専攻科卒業後の進路(就職、大学院への進学)を比較し、傾向や決定要因を明らかにする。

1-3 調査内容

高等専門学校、大学、企業、高専卒業生にご協力いただき、下記の調査を実施した。

調査名	対象
高等専門学校アンケート	全国の高等専門学校
企業アンケート	高専生の就職先企業
卒業生アンケート	令和4年度の高専卒業生(本科・専攻科)
大学アンケート	国立大学

1-4 有識者会議の開催

事業実施にあたり、調査項目、分析等についての検討を行うため、高専卒業生のキャリアパス 等について専門的知見を有するものによって構成される有識者会議を組織し、必要な助言を得 た。

開催概要、有識者委員は下記のとおり。

■有識者会議 開催概要■

回	時期	テーマ
		(1) 調査趣旨・内容について
第1回	令和5年10月2日	(2) アンケート調査について
		(3) その他
th o	Δ±10 Π 10 Π	(1) アンケート結果報告
第2回	令和6年1月16日	(2)ヒアリング対象の検討
## 9 E	Afr. 0 / 0 4 1	(1) 成果報告書(案)の検討
第3回	令和6年3月4日	(2) その他

■委員名簿(敬称略)■

後 藤 景 子 (国立大学法人奈良国立大学機構 奈良女子大学工学部 特任教授)

澤田一成(東京都立産業技術高等専門学校学生主事)

中 山 友 紀 (サレジオ工業高等専門学校 特任教授)

濱 中 義 隆 (国立教育政策研究所 高等教育研究部 部長)

本 江 哲 行 (独立行政法人国立高等専門学校機構 本部事務局理事長特別補佐)

矢 野 眞 和 (東京工業大学 名誉教授)

第2章 高等専門学校へのアンケート調査

2-1 調査概要

全国の高等専門学校(以降、高専という)にアンケートを実施し、高専生の進路・就職等に関するデータ収集を行った。

2-1-1 調査対象

全国の高等専門学校 57 校

2-1-2 調査方法

電子メールによる Excel 調査票の配付・回収

2-1-3 調査時期

令和5年11月27日(月)~令和5年12月15日(金)

2-1-4 回収状況

56件(回収率 98.2%)

2-2 本科生・専攻科生の就職について

2-2-1 本科生・専攻科生の卒業後の進路について

アンケートに回答した高等専門学校の令和4年度の本科卒業生の進路は、卒業生数の合計 9,805 人のうち、就職が56.2%、大学編入が24.9%、専攻科進学が15%となっている。専攻科卒業生については、専攻科卒業生の合計1,508人のうち、就職が66.9%、大学進学者が30.4%となっている。

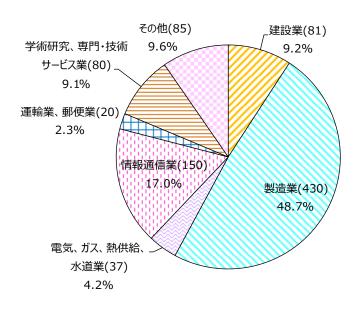
専攻科卒業生の進路 本科卒業生の進路(9,805人) (1,508人) その他 2.7% その他 3.9% 大学院進学者 専攻科進学者 30.4% 就職者 15.0% 66.9 % 就職者 大学編入者 56.2% 24.9%

図表 1 本科・専攻科卒業生進路 (n=56)

※n はアンケートに回答した学校数、グラフの括弧内の数字は各学校のアンケート回答に記載された卒業生数の合計値を表す。(以下同様)

2-2-2 就職先企業の業種(専攻科卒業生)

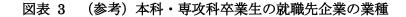
本アンケートにおいては、学校基本調査で把握していない専攻科の卒業生の就職先企業の業種について尋ねた。令和4年度専攻科卒業生の就職先企業の業種は、「製造業」が約5割となっている。

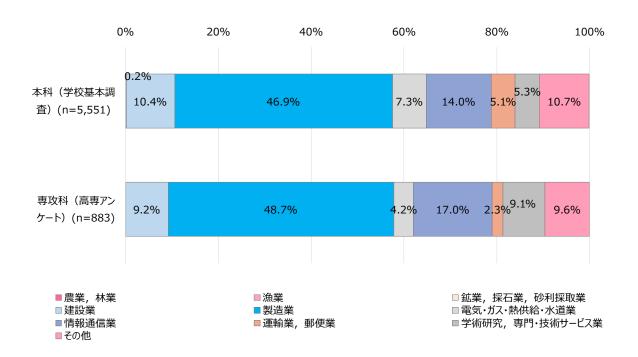


図表 2 専攻科生の就職先企業の業種 (n=50)

※nはアンケートに回答した学校数、グラフの括弧内の数字は各学校のアンケート回答に記載された卒業生数の合計値を表す。

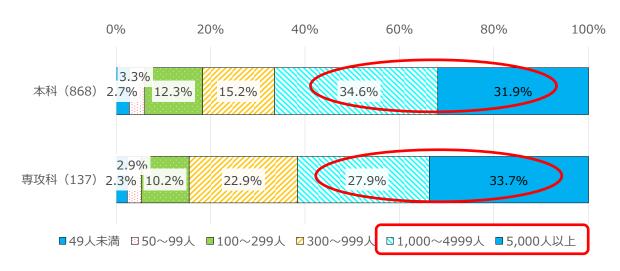
本調査における令和4年度専攻科卒業生の就職先企業と、学校基本調査における令和4年度 本科卒業生の就職先企業の業種を比較した。全体的に割合に大きな差はないが、専攻科は「情報 通信業(17.0%)」の割合が本科よりもやや高い。





2-2-3 就職先の規模

令和 4 年度卒業生の就職先の規模をみると、本科・専攻科の卒業生ともに 1,000 人以上の大企業の割合が 6 割を超える。専攻科卒業生は「300 人~999 人」規模の企業への就職の割合が 2 割強と本科卒業生よりも高い。なお、アンケート回答では本設問について無回答が本科・専攻科それぞれで 8 割を超えたため、無回答を除いた結果を掲載している。

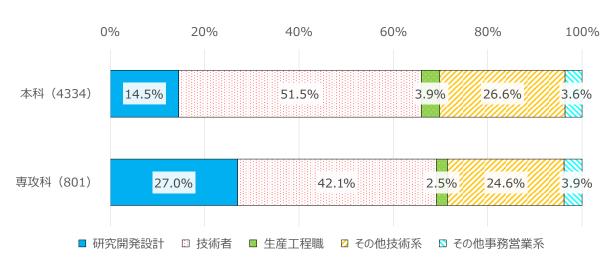


図表 4 本科卒業生 就職先の企業規模 (n=9)

※nはアンケートに回答した学校数、グラフの括弧内の数字は各学校のアンケート回答に記載された卒業生数の合計値を表す。

2-2-4 学生の就職先における職種別の人数

令和4年度の卒業生の就職先について、職種別の割合をみると、本科・専攻科の卒業生ともに「技術者」の割合が最も高く、それぞれ51.5%、42.1%である。「研究開発設計」は専攻科卒業生の割合が本科卒業生よりも高く、27.0%である。

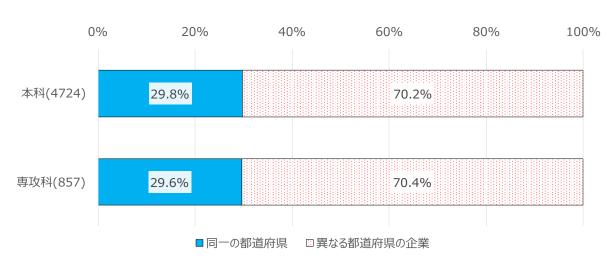


図表 5 本科・専攻科卒業生就職先 職種別割合 (n=47)

※nはアンケートに回答した学校数、グラフの括弧内の数字は各学校のアンケート回答に記載された卒業生数の合計値を表す。

2-2-5 学生の就職先企業の勤務地

令和4年度の本科・専攻科卒業生の就職先の勤務地は、卒業した高専のあった都道府県と「異なる都道府県の企業」がともに約7割である。



図表 6 本科卒業生 就職先の勤務地 (n=48)

※n はアンケートに回答した学校数、グラフの括弧内の数字は各学校のアンケート回答に記載された卒業生数の合計値を表す。

2-2-6 学校推薦で就職した人数

(n=51)

本科・専攻科	平均(人)
本科卒	77.6
専攻科卒	11.8

2-2-7 学校推薦で就職した学生の割合

(n=51)

本科・専攻科	割合
本科	78.8%
専攻科	64.9%

2-2-8 求人のあった企業数及び学生を推薦した企業数

(n=46)

求人・学校推薦	平均(社)
求人のあった企業	1550.4
学生を推薦した企業	96.2

就職者一人当たりの企業数

(n=53)

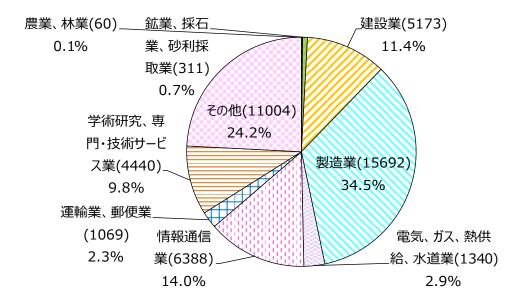
求人企業数/就職者数	合計数・割合
求人企業数合計	97036(社)
就職者数(本科・専攻科)合計	6254 (人)
1人あたりの企業数	15.5 (社)

※nはアンケートに回答した学校数を表す。

2-2-9 求人のあった企業数 (業種ごと)

※本科・専攻科の合計

図表 7 求人のあった企業数 (業種ごと) (n=53)

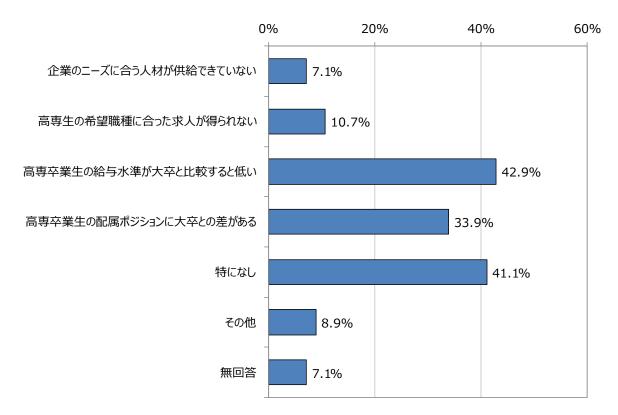


※nはアンケートに回答した学校数、グラフの括弧内の数字は各学校のアンケート回答に記載された企業数の合計値を表す。

2-2-10 学校推薦にあたっての課題 (実際に生じた事項)

学校推薦にあたっての課題として、学校側としては「高専卒業生の給与水準が大卒と比較する と低い(42.9%)」、「高専卒業生の配属ポジションに大卒との差がある(33.9%)」を挙げている。

また、「特になし」は約4割であり、学校推薦にあたっての課題がないと考える学校の割合も 高い。



図表 8 学校推薦にあたっての課題 (n=56)

※nはアンケートに回答した学校数を表す。

2-2-11 次世代産業分野のうち、具体的な就職に繋がっている例(自由記述)

次世代産業分野のうち具体的な就職に繋がっている例としては下記が挙げられる。

AI・IoT・デー	•	IT 技術 (AI 含む) に関して能力が高い 1~3名の学生が、メガベンチャ
タサイエンス		ーや外資コンサルに毎年就職している
分野		AI・IoT 分野には、コース再編により 2026 年度卒生からより多くの学生
		を輩出する方向で取り組んでおり、現在の在校生も同様に電子情報コー
		スの学生が、AI 分野に就職している
	•	異分野融合教育ならびに基礎科学としての理学の実践のための工学の統
		合教育を行っており、これらを必要とする多様な業種に就職している
ロボット・航	•	機械システムコースおよびメカトロニクスコース、都市環境コースの学
空機分野		生が、ロボット分野の企業に就職している
		機械システムコース及び電子情報コースの学生が、航空分野の企業に就
		職している
	•	高専ロボコン参加に向けて活動してきた学生が、大手産業用ロボットメ
		ーカーや各種装置メーカーに就職している
	•	Compass5.0 におけるロボット分野の拠点校であり、その人財育成の教
		育に力を入れていることもあり、毎年数名の学生がロボット関連企業に
		就職している
半導体・デジ	•	5 年の電気電子工学実験で半導体プロセス演習、卒業研究で半導体研究
タル産業分野		を行っており、地元の半導体メーカーの就職につながっている
	•	半導体に関する講義や講演、企業説明会等を実施し、JASM (TSMC) 等
		半導体関連企業への就職者が増加している
		CTFに参加していた学生が、企業のセキュリティー部門に就職した
健康・医療分	•	環境物質化学コースにおいて化学を研究した学生は、健康・医療分野の
野		企業に就職している

その他

- ・ 電気自動車の研究をした学生が、大手自動車メーカーに就職している 産学連携マッチングラボで研究に参加した学生が、その企業へ就職して いる
- ・ 産学連携マッチングラボは、地域企業の研究課題について複数教員による研究グループと企業研究者の双方が、ラボにおいて一定期間継続的に 共同研究に専念し課題解決を図るとともに、卒業研究の一環として学生 を積極的に研究に関与させることで、学生の研究力・プレゼンスの向上 を目的に設置

2-3 学位について

2-3-1 就職活動における学位がないことによる支障の有無

高専生の就職活動において、学位がないことによる支障の有無を聞くと、支障がないと回答した学校が約9割を占めた。

はい 12.5% いいえ 87.5%

図表 9 就職活動における学位がないことによる支障の有無(n=56)

※nはアンケートに回答した学校数を表す。

2-3-2 学位がないことによって生じた支障の事例

学位がないことによって生じた支障の事例は下記の通り。

大卒や専攻科卒のみが求人の対象となっていることが支障となった事例として挙げられている。

- ・ 支障ということではないが、大手企業の多くで修士号をベースでの採用であるのは事実で ある
- ・ 希望する企業への求人が、専攻科向け(学位者向け)のみ募集していることがある
- ・ 地方公務員試験に応募できない場合がある
- ・ 就職を希望する企業が大卒しか採用していない(高専卒の採用枠がない)
- ・ 就職時に希望職種に就けない (大卒と比較して希望職種に就くまでに時間がかかる)

2-4 進学について

2-4-1 本科卒業生の進学・就職に関する課題

本科卒業生の進学・就職に関する課題として、下記が挙げられた。

編入・進学に

(編入学試験に関する課題)

おける課題

- 学業と編入試験勉強の両立
- ・ 編入学試験に学力考査がある場合、本科の授業ではカバーしきれないこと。また個別に塾へ通うにも立地上難しい
- ・ 再編にともないカリキュラムが変更されて進学先の受験科目に対応できない内容がでてきた。(教えてない内容が場合によっては受験ででてくる)
- ・ 編入学試験対策を十分に行っていないのに進学を希望する学生がいる

(編入枠に関する課題)

- ・ 編入学の受入れ先は増えたが定員が少ないため狭き門となっている
- ・ 進学希望者が増えているのに対して、学生の進学希望先の編入枠が少ない (その他)
- ・ 中学卒業時にあまり進路選択について考えずに高専に入学した者は、高専 では進学分野の選択肢が限られてしまうので、工学分野以外に進路変更を 希望する学生が少ないながら存在する
- ・ 他大学への進学ではなく本校専攻科への進学の割合が高すぎる場合があること
- ・ 進学率が低い
- ・ 進学希望者が増えてきたこともあり、進路決定に向けた活動が長期化して いること、卒業までに進路が決定できず浪人する学生が増える傾向
- ・ 高専 5 年次に習得した科目が大学 3 年次編入において単位認定されないケース
- ・ 編入学後の単位認定が不足しているように感じる。大学での研究室配属に おいて編入学生が不利のないように配慮してもらいたい
- ・ 建築系は大学院まで行く傾向が強いので、本科卒業生は他高専、他大学へ の編入が必要になる

就職におけ・

本科卒業生は、大卒学生と何ら遜色ない、むしろ優秀であるとの意見を企

る課題		業からいただくが給与に差がついていることが多い
時期への課	•	編入学をする際に、場合によっては大学3年次の編入が出来ない
題	•	大学によって入学年次が異なる場合がある(2年次編入の大学がある)
	•	編入学後の3年生夏にはすぐにインターンシップ等の就職活動があり、大
		学院進学を考えているのでなければかなりスケジュール的に忙しい
海外·語学力	•	海外の大学を目指す場合は、日本の高専の制度の説明から始めて、単位認
等能力		定の審査をしてもらうこともあり、ひと手間かかる
	•	進学後に困らない程度の英語力(TOEIC のスコアなど)を獲得できてい
		るかどうか
	•	英語力が低い学生やコミュニケーション能力が不足する学生の大学進学
		へのサポートの仕方
人材不足·支	•	専門的に相談・助言するスタッフがいない
援への課題	•	就職関連のキャリア教育は企業の説明会を個別に開催されるなどある程
		度行ったりしているが、進学の方は学校としての取り組み・フォローはあ
		まり出来ていないと感じる
	•	大卒者として就職活動をするため、場合によっては多くの大学生同様、同
		時に複数の企業を受けなければならないため、就職活動自体が高専在学時
		より大変になることをあまり理解せずに、大学進学を望む家庭が多いと感
		じている。高専で就職する事のメリットが伝えきれていないことが課題と
		感じる

2-4-2 専攻科卒業生の進学・就職に関する課題

専攻科卒業生の進学・就職に関する課題として、下記が挙げられた。

	1	
進学における課題		経済的理由やその他の理由で就職を選ぶ学生が多く、大学院への
		進学を希望する学生がなかなか増えない
		大学院への推薦入学者の割合が低い
		専攻科全体で大学院進学者は約3割と低く感じている。元々大学
		院進学をイメージして専攻科に進学してくる学生が少ない上に、
		在学中に進学→就職に切り替える者もいる。専攻科生が大学院を
		知る機会が少ないことが原因だと考えられる。また,大学院の研
		究室単位でつながりがある研究室もそれほど多くは無く、学生は
		一から研究室訪問先を選定することになるなどハードルを感じ
		ているようである
就職における課題		特に研究職に就きたいという明確な目標のない学生にとっては、
		推薦で就職が決まるため大手の企業へ入りやすいこともあり、就
		職を選択してしまう
		就職活動を始める時期が遅いこと
能力への課題		英語力が低い学生やコミュニケーション能力が不足する学生の
		大学院進学へのサポートの仕方
		学会で見かける大学生と比較して高専生(専攻科生も含む)英語
		力、プレゼン力、文章を書く力は大学生より劣っているのではな
		いかと感じる。普段、大学生などと交流する機会が少ないためか
		大学生の多くの関心事を知らず、やや取り残されているような感
		じがする
学校・企業の課題		専門的に相談・助言するスタッフがいない
		企業が専攻科に対しての周知が少ない
		専攻科での研究領域とマッチする、希望大学院とのパイプがない
		こと

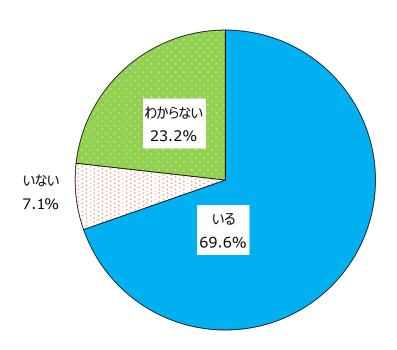
その他	分野的に特に課題は感じない
	優良な大学院との提携もできており、特に課題は感じない

2-5 学生の起業について

2-5-1 在校生または卒業生で起業した人の有無

在校生または卒業生でこれまでに起業した人の有無を聞くと、「いる」が約7割を占めた。

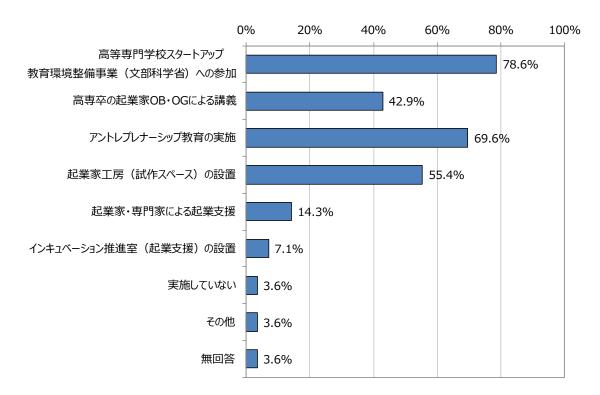
図表 10 在校生または卒業生で起業した人の有無(n=56)



※nはアンケートに回答した学校数を表す。

2-5-2 実施している起業に対する支援等

起業に関する支援として学校が実施しているのは「高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業(文部科学省)への参加」が約8割を占める。また、「アントレプレナーシップ教育の実施」を行っている学校も約7割と高い。



図表 11 実施している起業に対する支援等(n=56)

※nはアンケートに回答した学校数を表す。

2-6 その他

その他、高専生のキャリアパスに関する意見としては下記が挙げられた。高専卒と大卒との差は、改善されてきてはいるものの、依然として待遇における差があり、学校側としては課題視している。

大卒との差 この数年でかなり改善されてきてはいるが、大卒者とのキャリアパスとの 差がある企業がまだまだあることが課題と感じる 実力があっても、昇進が見込めない等の待遇差は早期離職につながりかね ず、卒業生、企業の双方にとってマイナスであると考える スキルでは大学生に負けていないので、新入社員は同じ給与になるように 働きかけてほしい 本科卒業生は、学歴ではなく実力で大学卒業生と比較してほしい 専攻科修了生は大学卒業生と同等だというアピールをもっと行う必要があ る 本科卒の学生について、大学卒学生との給与差がある 企業からの高専生の需要が高まっていることを感じますが、給与面や職種 (ポジション) などに大卒の学生との差があるのが現状です。実際に学歴 としては差があるのですが、より専門的なところを5年間または7年間学 んでいるという点で、もっと採用時に給与などの面で評価されても良いの ではないかと考えます 学校側にお 学生のキャリアパスに関する相談員の配置が必要である 卒業後のキャリアパスを把握するのが難しく、教員と連絡が取れる卒業生 ける課題 を介した情報収集になっている 卒業後のキャリアについては個人情報に属することになるため(とくに就 職の場合)、卒業後に各高専での情報収集は限界があり、なかなか全体的な 情報収集は困難になっている。高専生を採用する企業から文部科学省等へ の情報収集のルートがあることが望ましいと言える その他 求人のスタート時期がどんどん前倒しになってきているため、10代の高専 生がしっかりと自分のキャリアパスを考える時間が無くなってきている

・ 近頃の世相の変化が激しく、キャリアパス自体も変化し続けているため各 種関連業界の近況をキャリアパス視点から説明できる方の講演会などが実 施できたら助かります

第3章 企業へのアンケート調査

3-1 調査概要

3-1-1 調査対象

高等専門学校(以降、高専という)を最終学歴とした人材を採用した企業を国立高等専門学校 機構及び全国の高専ホームページから抽出

3-1-2 調査方法

WEB アンケートの URL・二次元コードを記載した調査依頼文書を作成し、対象企業へ郵送で送付

URL・二次元コードよりアクセスし WEB アンケートへ回答

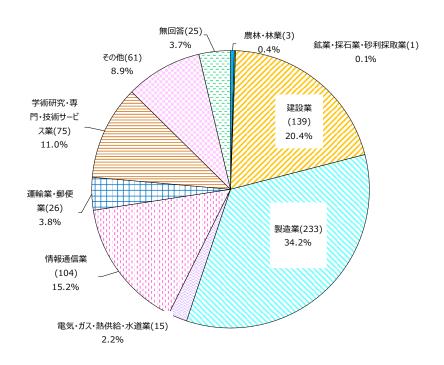
3-1-3 調査期間

令和5年11月29日(水)~令和5年12月15日(金)

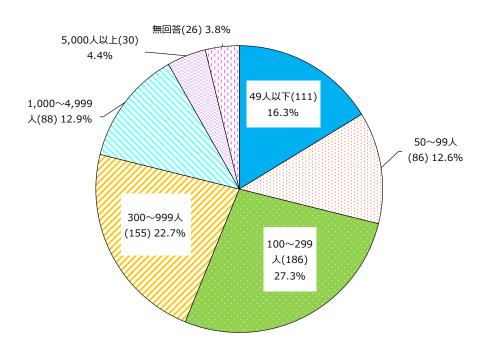
3-1-4 回収状況

配付数	2,994 件
回収数	682 件
回収率	22.8%

図表 12 業種



図表 13 従業員数



3-2 高専卒社員の在籍状況について

3-2-1 在籍人数

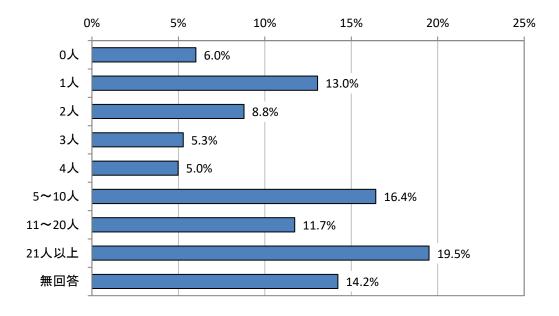
高専卒の社員の在籍状況の平均人数をみると、本科卒の社員は 27.2 人、専攻科卒は 3.2 人である。高専卒社員(本科卒・専攻科卒合計)の人数の分布は、「21 人以上」在籍している企業が全体の約 2 割を占める。

図表 14 高専卒社員の在籍人数(平均)

(n=585)

高専卒社員	平均(人)
本科卒	27.2
専攻科卒	3.2

図表 15 高専卒社員在籍人数の分布 (本科卒・専攻科卒合計) (n=682)



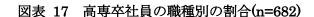
図表 16 業種・規模別 高専卒社員在籍人数

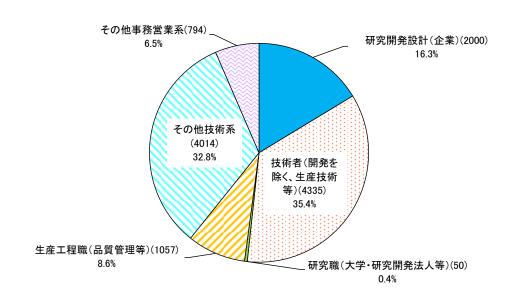
	n	本科卒 (人)	専攻科卒 (人)
製造業・300 人未満	107	5.9	0.9
製造業・300~1000 人未満	63	17.3	3.3
製造業・1000 人以上	32	147.2	17.8
非製造業・300 人未満	256	4.9	0.8
非製造業・300~1000 人未満	73	17.8	2.9
非製造業・1000 人以上	53	130.9	10.6

3-2-2 職種

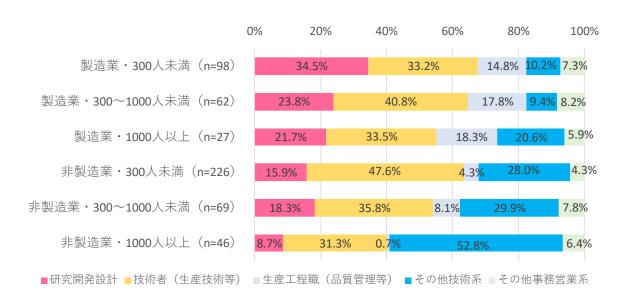
アンケートに回答した企業における高専卒業生の職種をみると、「技術者(開発を除く、生産 技術等)」と「その他技術系」が3割を超える。

業種・規模別では、製造業、従業員規模が小さいほど「研究開発設計」の割合が高い。





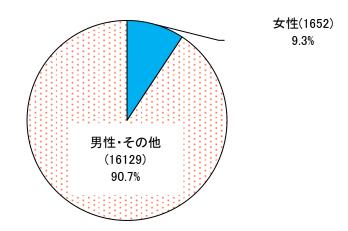
図表 18 業種・規模別 高専卒社員の職種別の割合



3-2-3 女性の総人数

高専卒社員に占める女性の割合は、高専卒社員全体の約1割である。

図表 19 高専卒社員に占める女性の割合



3-3 採用状況について

3-3-1 採用人数

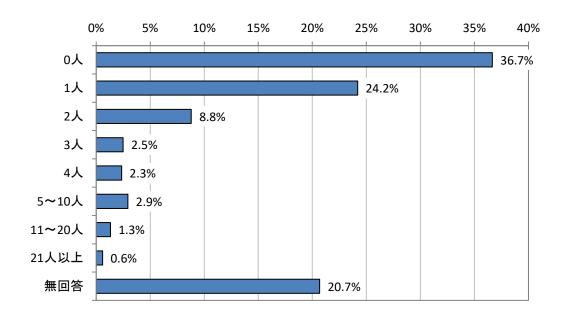
企業の令和 5 年 4 月の採用人数の平均をみると、高専本科卒者は 3.9 人、高専専攻科卒者は 0.3 人である。高専卒業生の採用人数の分布は、本科卒・専攻科卒の合計で「0 人」が 36.7%、「1 人」が 24.2%、「2 人」が 8.8%となっている。

図表 20 最終学歴別の令和5年4月採用人数(平均値)

(n=541)

最終学歴	平均(人)
高専本科卒者	3.9
高専専攻科卒者	0.3
大学卒者	16.1
大学院(修士・博士)修了者	2.8
その他	14.3

図表 21 令和5年4月 高専卒業生採用人数(本科卒・専攻科卒合計)



高専卒業生採用人数別の高専卒社員の在籍人数をみる。採用人数が3名以上の企業では、在籍人数も5名以上となっており、定期的な採用が行われていることが伺える。

図表 22 高専卒業生採用人数別 高専卒社員の在籍人数(本科卒・専攻科卒合計)

在籍人数採用人数	全	体	0人		1人	2人		3人		4人		5~	~10人	11	~20人	21	人以上	無[回答
全体		682	,	1	89		60	-	36	-	34		112		80	_	133		97
主体	,			- 1		,		8		1		,		,		,			
	(100.0%)	(6.09	-1	(13.0%)	(8.8%)	(5.3%)		5.0%)	(16.4%)	(11.7%)	(19.5%)	(14.2%)
0人		250		24	45		31		21	1	18		46		27		23		15
	(100.0%)	(9.69	6)	(18.0%)	(12.4%)	(8.4%)	(7.2%)	(18.4%)	(10.8%)	(9.2%)	(6.0%)
1人		165		2	29		12		10		9		37		30		31		5
	(100.0%)	(1.29	6)	(17.6%)	(7.3%)	(6.1%)	(5.5%)	(22.4%)	(18.2%)	(18.8%)	(3.0%)
2人		60		0	0		7		0		1		10		14		21		7
	(100.0%)	(0.09	6)	(0.0%)	(11.7%)	(0.0%)	(1.7%)	(16.7%)	(23.3%)	(35.0%)	(11.7%)
3人		17		0	0		0		0		0		3		2	<u> </u>	11		1
	(100.0%)	(0.09	6)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(17.6%)	(11.8%)	(64.7%)	(5.9%)
4人	-	16		0	0		0		0		0		1		1		14		0
	(100.0%)	(0.09	6)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(6.3%)	(6.3%)	(87.5%)	(0.0%)
5~10人		20	***************************************	0	0		0	m	0		0		2		4	l	14		0
	(100.0%)	(0.09	6)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(10.0%)	(20.0%)	(70.0%)	(0.0%)
11~20人		9		0	0		0		0		0		0		0	<u> </u>	8		1
	(100.0%)	(0.09	6)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(88.9%)	(11.1%)
21人以上		3		0	0	<u> </u>	0	Г	0		0		0		0	<u> </u>	3		0
	(100.0%)	(0.09	6)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)	(0.0%)
無回答	 	142	1	.5	15		10		5		6		13		2	l	8		68
	(100.0%)	(10.6%	6)	(10.6%)	(7.0%)	(3.5%)	(4.2%)	(9.2%)	(1.4%)	(5.6%)	(47.9%)

上記の結果を踏まえて、高専卒業生の年間採用人数と在籍人数から、採用方針を以下のよう に分類した。

	採用人数	在籍人数
不定期採用	0-2 名	5 名未満
定期少数採用	0-2 名	5名以上
定期採用	3名以上	-

業種・規模別 高専卒社員採用方針をみると、製造業、非製造業ともに 300 人未満の企業では、「不定期採用 (採用 0-2 名、人数 5 名未満)」の割合が 5 割以上と高い。

製造業では、300人以上の企業では「定期少数採用(採用 0-2 名、人数 5 名以上)」の割合が6~7割と高い。一方で、「定期採用(採用 3 名以上)」は、1000人以上の企業でも36.7%にとどまっている。

非製造業では、従業員規模が大きくなるほど採用人数も増え、1000 人以上の企業では 52.1%が「定期採用 (採用 3 名以上)」である。

図表 23 業種・規模別 高専卒社員採用方針

	全*	体	(技	采用0-2 人数5名	用	期少数採 (採用0-2 人数5名 上)		採用
全体		513		209		238		66
	(100.0%)	(40.7%)	(46.4%)	(12.9%)
製造業・300人未満		93		49		42		2
	(100.0%)	(52.7%)	(45.2%)	(2.2%)
製造業・300~1000人未満		59		11		43		5
	(100.0%)	(18.6%)	(72.9%)	(8.5%)
製造業・1000人以上		30		1		18		11
	(100.0%)	(3.3%)	(60.0%)	(36.7%)
非製造業・300人未満		212		126		75		11
	(100.0%)	(59.4%)	(35.4%)	(5.2%)
非製造業・300~1000人未満		71		19		40		12
	(100.0%)	(26.8%)	(56.3%)	(16.9%)
非製造業・1000人以上		48		3		20		25
	(100.0%)	(6.3%)	(41.7%)	(52.1%)

【採用について(ヒアリング調査結果より)】

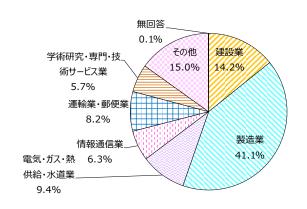
- ・現在の高専卒社員は役員以外に 2 名。現在在籍している高専卒社員は、関わりのある高専の先生から紹介をしてもらい、数か月~数年のインターン生を経て入社している。高専生に限らず新卒採用は紹介が中心。(製造業・49 人以下)
- ・10 年ほど前までは特定の高専の研究室とつながりがあり、定期的な入社があったが、現在は 100%自由応募形式。ほとんどが本科生の採用。(製造業・300~999 人)
- ・学校経由のエントリーもあるが、近年は一般の求人媒体へ掲載する中で、高専生のエントリーがあり採用するケースがほとんど。高専生は積極的に採用したいと考えているが、採用数は定めていない。(建設業・1,000~4,999 人)
- ・社員の約6割が地元の土木系高専出身。高専生は現場作業を含むマルチな業務を遂行できると考え、高専生の採用を強化している。地域の高専に求人募集を出し、エントリーを希望する学生は学校に申し出ている。(建設業・50~99人)

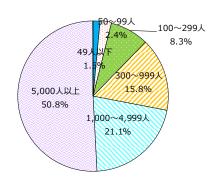
企業アンケートの回答をみる際に気を付けなければならないのは、高専卒業生が 100 名いる 企業も、1名の企業も、回答では同じ1票として扱われていることである。1社1社の企業戦略 の総体としてのアンケート結果をみる分には問題がないが、高専卒業生の雇用先の状況を把握 する目的としてアンケート結果をみる場合、高専卒業生が多く就職している企業の結果を過小評価することになる。

そこで、本報告書では、高専卒業生の社員数を母数としたウエイトバック集計も同時に行い、 高専卒業生の雇用先が、どのような処遇等の状況なのかをみる。

ウエイトバック集計後の業種、従業員規模の分布は、下記の通り。

図表 24 業種・従業員規模 (ウエイトバック集計後)





3-3-2 高専卒業生の採用意向

☑無回答

■採用の意向はない

回答企業の高専卒業生の採用意向をみると、6 割弱の企業が(ウエイトありの場合は 8 割弱が)採用したいと回答している。

(ウエイトなし) (ウエイトあり) 0% 20% 40% 60% 80% 0% 20% 40% 60% 80% 100% 100% 0.7% 9.5% 本科卒者 57.3% 本科卒 78.5% 16.4% 2.1% 31.1% 1 /// 4.4% 9.2% P 54.3% 80.0% 専攻科卒者 専攻科卒 17.790.8% 34.0% 2.5% // ■採用したい □良い人材がいれば採用したい ■採用したい □良い人材がいれば採用したい

図表 25 高専卒業生の採用意向 (n=656)

図表 26 業種・規模別 高専卒業生の採用意向 (無回答除く)

■採用の意向はない

☑無回答

	全任	′本	採	用したい	いっ	い人材が れば採用 たい		用の意向ない
全体		656		391		210		14
	(100.0%)	(59.6%)	(32.0%)	(2.1%)
製造業・300人未満		110		70		39		1
	(100.0%)	(63.6%)	(35.5%)	(0.9%)
製造業・300~1000人未満		69		49		20		0
	(100.0%)	(71.0%)	(29.0%)	(0.0%)
製造業・1000人以上		38		24		13		1
	(100.0%)	(63.2%)	(34.2%)	(2.6%)
非製造業・300人未満		263		155		97		11
	(100.0%)	(58.9%)	(36.9%)	(4.2%)
非製造業・300~1000人未満		77		49		27		1
	(100.0%)	(63.6%)	(35.1%)	(1.3%)
非製造業・1000人以上		58		44		14		0
	(100.0%)	(75.9%)	(24.1%)	(0.0%)

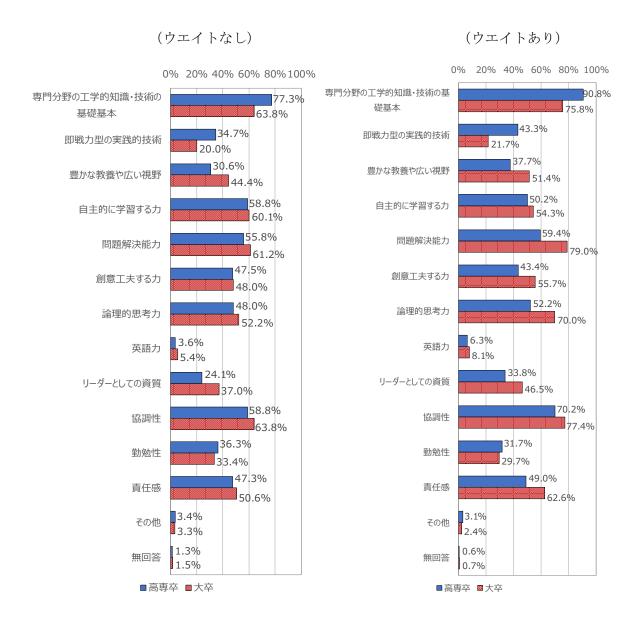
図表 27 採用方針別 高専卒業生の採用意向

	全(全体 打		用したい	l	ハれば採用 ▮	採用の意向はない	無回答
全体		514		323		178	12	1
	(100.0%)	(62.8%)	((34.6%)	(2.3%)	(0.2%)
不定期採用		209		102		100	7	0
(採用0-2名、人数5名未満)	(100.0%)	(48.8%)	((47.8%)	(3.3%)	(0.0%)
定期少数採用		239	********	165		68	5	1
(採用0-2名、人数5名以上)	(100.0%)	(69.0%)	((28.5%)	(2.1%)	(0.4%)
定期採用		66		56		10	0	0
(採用3名以上)	(100.0%)	(84.8%)	((15.2%)	(0.0%)	(0.0%)

3-3-3 採用にあたって重視する点

企業の採用にあたって重視する点について、大卒と高専卒の比較をした。その結果、大きな傾向は、大卒と高専卒で同様である。高専卒は、「専門分野の工学的知識・技術の基礎基本」「即戦力型の実践的技術」を重視する割合が大卒より高く、大卒は「問題解決能力」「論理的思考力」等を重視する割合が高専卒より高い。

図表 28 採用にあたって重視する点 (大卒と高専卒の比較) (n=611)



業種・規模別に高専卒の採用にあたって重視する点についてみると、製造業で、従業員規模が大きくなるほど、重視する項目が多い。特に、製造業では「即戦力型の実践的技術」を重視する割合が高い。

図表 29 業種・規模別 採用にあたって重視する点(高専卒)

			専門	月分野の																							
	全体		工学	的知	即戦に	力型の	豊かな教養	自	主的に学	問題解決能	倉	削意工夫す	論理	里的思考	英語:		リー	-ダーと	協調性	#1.4	边性	責任	ratio	その	/sh	無回	炊
	土坪	•	識・	技術の	実践的	的技術	や広い視野	漝-	する力	カ	1	5力	カ		火品	/J	して	の資質	が可し土	まリカ	四土	貝口	2EX	~ 0)	TE	無凹	
			基磷	基基本																							
全体		608		470		212	187		357	33	9	288		291		22		147	359		222		287		21		7
	(5.28)	(77.3%)	(:	34.9%)	(30.8%)	(58.7%)	(55.8%) ((47.4%)	(47.9%)	(3.6%)	(24.2%)	(59.0%)	(36.5%)	(47.2%)	(3.5%)	(1.2%)
製造業・		109		87		45	28		61	6	5	61		45		5		18	59		32		50		1		2
300人未満	(5.13)	(79.8%)	(4	41.3%)	(25.7%)	(56.0%)	(59.6%) ((56.0%)	(41.3%)	(4.6%)	(16.5%)	(54.1%)	(29.4%)	(45.9%)	(0.9%)	(1.8%)
製造業・		69		56		30	20		40	4:	3	33		39		2		18	46		20		27		1		1
300~1000人未満	(5.45)	(81.2%)	(4	43.5%)	(29.0%)	(58.0%)	(62.3%) ((47.8%)	(56.5%)	(2.9%)	(26.1%)	(66.7%)	(29.0%)	(39.1%)	(1.4%)	(1.4%)
製造業・		37		31		15	17		23	2	4	20		27		7		15	25		19		22		2		1
1000人以上	(6.70)	(83.8%)	(4	40.5%)	(45.9%)	(62.2%)	(64.9%) ((54.1%)	(73.0%)	(18.9%)	(40.5%)	(67.6%)	(51.4%)	(59.5%)	(5.4%)	(2.7%)
非製造業・		258		188		85	73		158	12	6	117		111		5		54	136		100		121		9		2
300人未満	(4.98)	(72.9%)	(:	32.9%)	(28.3%)	(61.2%)	(48.8%) ((45.3%)	(43.0%)	(1.9%)	(20.9%)	(52.7%)	(38.8%)	(46.9%)	(3.5%)	(0.8%)
非製造業・		76		63		21	25		43	4:	8	33		36		1		24	51		30		36		3		0
300~1000人未満	(5.45)	(82.9%)	(2	27.6%)	(32.9%)	(56.6%)	(63.2%) ((43.4%)	(47.4%)	(1.3%)	(31.6%)	(67.1%)	(39.5%)	(47.4%)	(3.9%)	(0.0%)
非製造業・		59		45		16	24		32	3:	3	24		33		2		18	42		21		31		5		1
1000人以上	(5.54)	(76.3%)	(2	27.1%)	(40.7%)	(54.2%)	(55.9%) ((40.7%)	(55.9%)	(3.4%)	(30.5%)	(71.2%)	(35.6%)	(52.5%)	(8.5%)	(1.7%)

採用方針別にみると、採用数が多いほど「協調性」「豊かな教養や広い視野」の割合が高くなる。

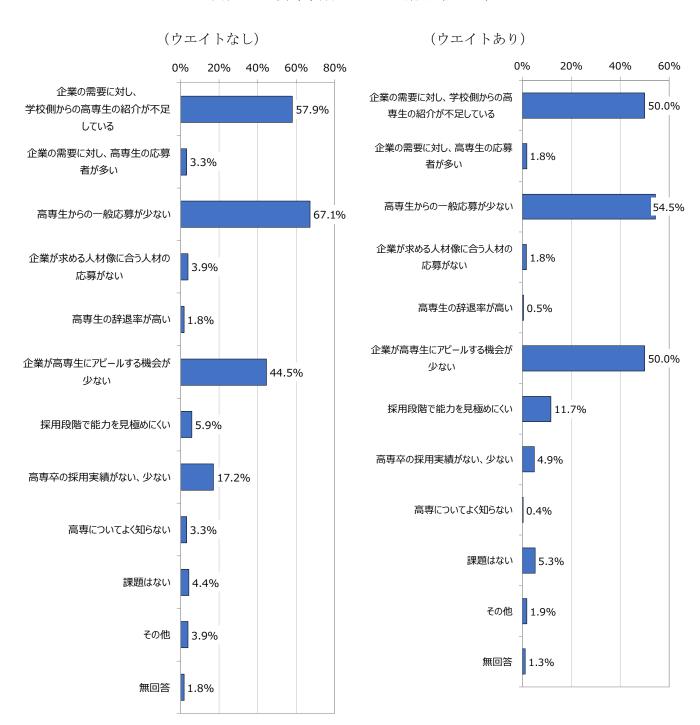
図表 30 採用方針別 採用にあたって重視する点(高専卒)

	全体			即戦力型の 実践的技術				創意工夫す る力	論理的思考 力	英語力	リーダーと しての資質	協調性	勤勉性	責任感	その他	無回答
全体		507	403	180	156	302	291	246	246	17	130	302	181	. 244	16	2
	(5.36)	(79.5%)	(35.5%)	(30.8%)	(59.6%)	(57.4%)	(48.5%)	(48.5%)	(3.4%)	(25.6%)	(59.6%)	(35.7%)	(48.1%)	(3.2%)	(0.4%)
不定期採用		204	154	74	58	120	111	99	82	4	46	110	67	87	4	0
(採用0-2名、人数5名未満)	(.	4.98)	(75.5%)	(36.3%)	(28.4%)	(58.8%)	(54.4%)	(48.5%)	(40.2%)	(2.0%)	(22.5%)	(53.9%)	(32.8%)	(42.6%)	(2.0%)	(0.0%)
定期少数採用		237	195	86	73	140	143	117	128	9	65	147	90	126	8	2
(採用0-2名、人数5名以上)	(5.61)	(82.3%)	(36.3%)	(30.8%)	(59.1%)	(60.3%)	(49.4%)	(54.0%)	(3.8%)	(27.4%)	(62.0%)	(38.0%)	(53.2%)	(3.4%)	(0.8%)
定期採用		66	54	20	25	42	37	30	36	4	19	45	24	31	4	0
(採用3名以上)	(5.62)	(81.8%)	(30.3%)	(37.9%)	(63.6%)	(56.1%)	(45.5%)	(54.5%)	(6.1%)	(28.8%)	(68.2%)	(36.4%)	(47.0%)	(6.1%)	(0.0%)

3-3-4 高専卒採用における課題

高専卒採用における課題をみると、「高専生からの一般応募が少ない」「企業の需要に対し、学校側からの高専生の紹介が不足している」「企業が高専生にアピールする機会が少ない」を課題 視する企業の割合が高い。

図表 31 高専卒採用における課題 (n=611)



業種・規模別にみると、製造業・300~1000人未満企業において、「高専生からの一般応募が少ない」「企業の需要に対し、学校側からの高専生の紹介が不足している」「企業が高専生にアピールする機会が少ない」など割合が高い。

図表 32 業種・規模別 高専卒採用における課題

	全体		企業の需要 に対し、学校側からの 高専生の紹介が不足し ている	企業の需 に対し、 専生の応	高募	高専生から の一般応募 が少ない		高専生の辞退率が高い	生ル	業が高専 にアピー する機会 少ない	採用段階で 能力を見極 めにくい		てよく知ら	課題はない	その他	無回答
全体		608	35	4	20	410	24	11		272	36	103	20	27	24	10
	(2.16)	(58.2%) (3.3	3%)	(67.4%)	(3.9%)	(1.8%)	(44.7%)	(5.9%)	(16.9%)	(3.3%)	(4.4%)	(3.9%)	(1.6%)
製造業・		109	7	2	2	63	4	C		48	10	18	1	5	2	2
300人未満	(2.08)	(66.1%) (1.8	3%)	(57.8%)	(3.7%)	(0.0%)	(44.0%)	(9.2%)	(16.5%)	(0.9%)	(4.6%)	(1.8%)	(1.8%)
製造業・		69	5	ס	2	51	4	2		40	3	13	3	0	4	1
300~1000人未満	(2.51)	(72.5%) (2.9	9%)	(73.9%)	(5.8%)	(2.9%)	(58.0%)	(4.3%)	(18.8%)	(4.3%)	(0.0%)	(5.8%)	(1.4%)
製造業・		37	1	3	0	21	4	C		21	3	3	0	3	0	2
1000人以上	(2.03)	(48.6%	0.0)%)	(56.8%)	(10.8%)	(0.0%)	(56.8%)	(8.1%)	(8.1%)	(0.0%)	(8.1%)	(0.0%)	(5.4%)
非製造業・		258	13	3	11	174	11	7		104	20	45	11	10	13	2
300人未満	(2.10)	(51.6%) (4.3	3%)	(67.4%)	(4.3%)	(2.7%)	(40.3%)	(7.8%)	(17.4%)	(4.3%)	(3.9%)	(5.0%)	(0.8%)
非製造業・		76	4	7	3	59	0	2		32	0	15	5	5	4	1
300~1000人未満	(2.28)	(61.8%) (3.9)%)	(77.6%)	(0.0%)	(2.6%)	(42.1%)	(0.0%)	(19.7%)	(6.6%)	(6.6%)	(5.3%)	(1.3%)
非製造業・		59	3	4	2	42	1	C		27	0	9	0	4	1	2
1000人以上	(2.07)	(57.6%) (3.4	(%)	(71.2%)	(1.7%)	(0.0%)	(45.8%)	(0.0%)	(15.3%)	(0.0%)	(6.8%)	(1.7%)	(3.4%)

採用方針別にみると、「不定期採用」では「高専卒の採用実績がない、少ない」が 25.5%と他より割合が高い。

図表 33 採用方針別 高専卒採用における課題

	全体	校側からの	企業の需要 に対し、高 専生の応募	高専生から の一般応募	企業が求め る人材像に 合う人材の 応募がない	高専生の辞 退率が高い		採用段階で 能力を見極 めにくい	高専卒の採 用実績がな い、少ない	てよく知ら	課題はない	その他	無回答
全体	507	299	18	350	19	10	241	24	82	12	24	18	5
	(2.17)	(59.0%)	(3.6%)	(69.0%)	(3.7%)	(2.0%)	(47.5%)	(4.7%)	(16.2%)	(2.4%)	(4.7%)	(3.6%)	(1.0%)
不定期採用	204	107	10	145	6	5	98	12	52	9	9	8	2
(採用0-2名、人数5名未満)	(2.27)	(52.5%)	(4.9%)	(71.1%)	(2.9%)	(2.5%)	(48.0%)	(5.9%)	(25.5%)	(4.4%)	(4.4%)	(3.9%)	(1.0%)
定期少数採用	237	150	8	170	9	5	109	11	29	3	7	9	2
(採用0-2名、人数5名以上)	(2.16)	(63.3%)	(3.4%)	(71.7%)	(3.8%)	(2.1%)	(46.0%)	(4.6%)	(12.2%)	(1.3%)	(3.0%)	(3.8%)	(0.8%)
定期採用	66	42	. 0	35	4	0	34	1	1	0	8	1	1
(採用3名以上)	(1.92)	(63.6%)	(0.0%)	(53.0%)	(6.1%)	(0.0%)	(51.5%)	(1.5%)	(1.5%)	(0.0%)	(12.1%)	(1.5%)	(1.5%)

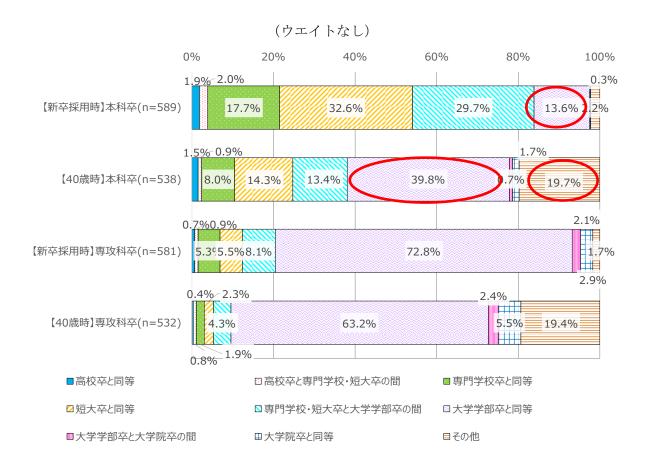
3-4 高専生の処遇・評価について

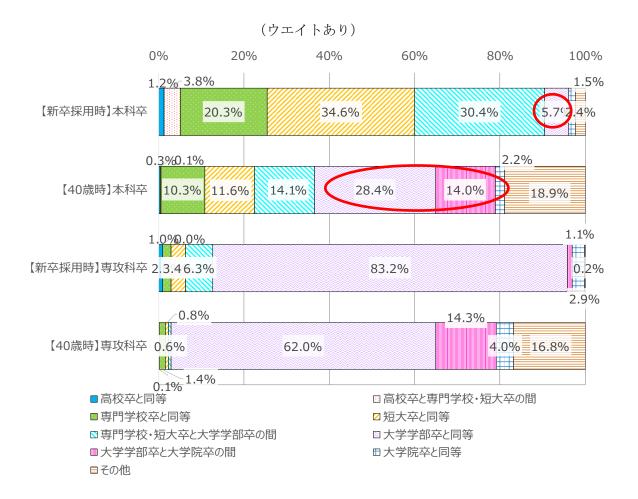
3-4-1 平均的な給与水準

本科卒については、ウエイトなしの場合、新卒時は「大学学部卒と同等」以上の水準の企業は、15%弱(ウエイトありで 5.7%)に留まるが、40歳時には約4割に増加する。また、約2割が「その他」であり、その内容をみると多くが、「学歴は初任給だけで能力主義の為」「能力・実務経験による」「本人の能力によるもので学歴の差はない」といった回答となっている。

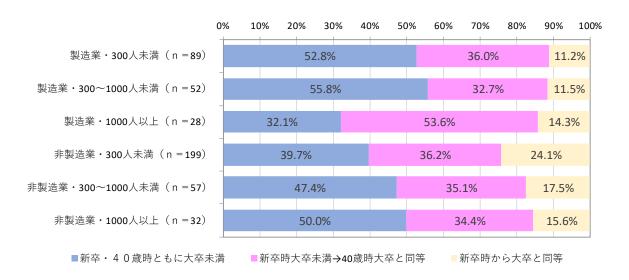
専科卒については、ウエイトなしの場合、新卒時から 7 割以上の企業が「大学学部卒と同等」 の水準としている。

図表 34 平均的な給与水準【本科・専攻科】 (新卒時・40歳時)



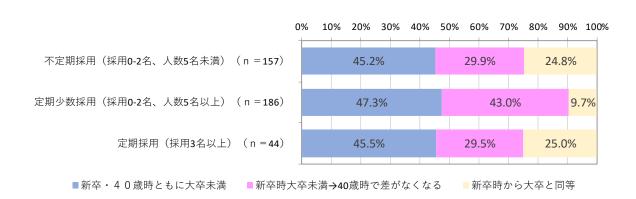


業種・規模別に本科卒の給与水準をみると、製造業では 1000 人以上の企業では、5 割以上が「新卒時大卒未満→40 歳時大卒と同等」となっている。一方で、製造業 1000 人未満の企業は、5 割以上が「新卒・40 歳時ともに大卒未満」の給与水準となっている。



図表 35 業種・規模別 平均的な給与水準【本科】

採用方針別では、「定期少数採用」の企業において、「新卒時大卒未満→40歳時大卒と同等」の割合が4割以上と他より高く、「不定期採用」「定期採用」の企業では、「新卒時から大卒と同等」の企業が25%程度となっている。

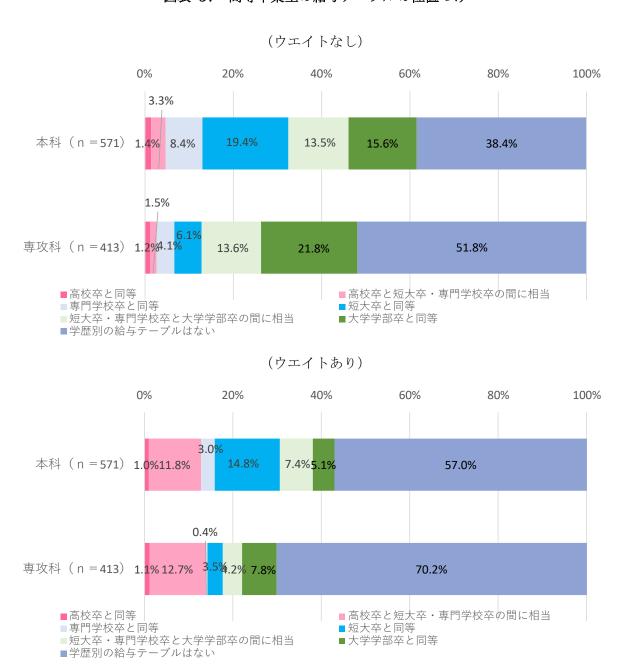


図表 36 採用方針別 平均的な給与水準【本科】

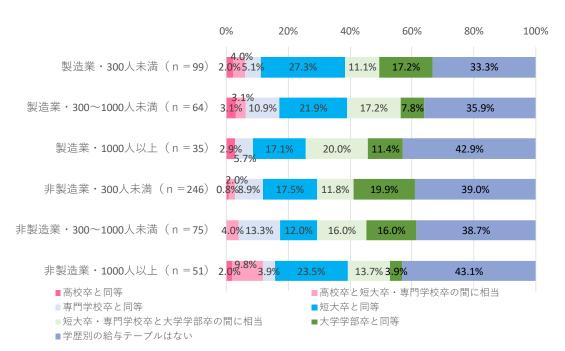
3-4-2 高専卒業生の給与テーブルの位置づけ

高専卒業生の給与テーブルについては、ウエイトなしの場合、本科では4割強が、専攻科では 2割強が、大学より低い給与テーブルとなっている。一方で、本科では4割弱が、専攻科では5 割強が「学歴別の給与テーブルは存在しない」と回答している。

図表 37 高専卒業生の給与テーブルの位置づけ

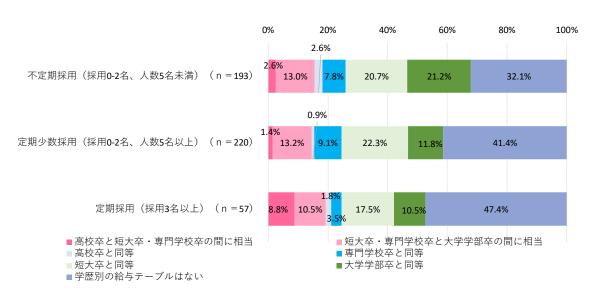


業種・規模別にみると、製造業・300~1000 人未満の企業では、高専卒業生を「大学学部卒未満」としている割合が5割を超え高い。また、非製造業・1000 人以上でも、「大学学部卒未満」の割合が5割を超えているが、「学歴別の給与テーブルはない」割合も4割を超えている。



図表 38 業種・規模別 高専卒業生の給与テーブルの位置づけ【本科】

採用方針別では、定期採用の企業では、「学歴別の給与テーブルはない」の割合が5割近くと 高い。



図表 39 採用方針別 高専卒業生の給与テーブルの位置づけ【本科】

回答した給与テーブルとなっている理由として、下記が挙げられた。

一律のテーブ	30歳前半までは学歴による給与テーブルがある	大学学部卒と同等
ル、入社後能力	がそれ以降は実力次第	
成果給に変わる	初任給は労働市場に倣って学歴で基本給に差をつ	大学学部卒と同等
	けているが、3~5年程度経過すると個人の能力差	
	によって学歴問わず平等に評価すべき状況になっ	
	てくる	
	本科の場合、学歴が大卒者より2年短いため、その	短大卒と同等または
	間のみ別テーブルとするが、それ以降は大卒と同じ	大学学部卒と同等
	テーブルを使用している	
	年齢給部分が20歳スタートであれば短大卒、専門	短大卒と同等または
	学校卒と同等である為。但し、職能給は短大・専門	大学学部卒と同等
	学校卒に比べると高専本科卒は 2 万円以上上に設	
	定している	
	能力給を採用しており、採用時は、能力不明のため、	短大卒と同等または
	最終学歴で仮査定としている	学歴別の給与テーブ
		ルはない
新卒時から入社	社内規程上、高専・専門・短大卒が同じテーブルの	短大卒と同等
後も同じテーブ	ため	
ル	学んできた年数は同じな為、学歴経験年数が同じな	短大卒と同等または
	ため	大学学部卒と同等
	高専への採用アプローチを始めたのが近年であり、	専門学校卒と同等
	過去の採用実績がないため、専門学校卒テーブルに	
	当てはめて制度適用を行ったから	
給与テーブルは	高専卒の方は、大卒同様技術職についているため	大学学部卒と同等
なく、能力によ		
る評価	比較的長期のインターンを行い採用しているため、	大学学部卒と同等
	優秀であれば大卒と同じ給与水準からスタートし	

	ている	
	大学学部卒と同等以上の技術力があると評価して	大学学部卒と同等
	いる	
	学部卒や院卒と同様の給与基準が設定されている、	大学学部卒と同等
	現在同ポジションでは高専卒の人材が活躍してお	
	り、将来のリーダーとしての期待があるため	
	システム開発会社であり、業務に必要な能力を大学	大学学部卒と同等
	学部卒と同等以上有している高専卒者が多いため	
	(大学学部卒と同等)	
	業績評価制度を導入し、学歴ではなく業績や姿勢に	学歴別の給与テーブ
	て評価をしているため	ルはない
	職等級ごとの 70 段階給与テーブル。入社時に職等	学歴別の給与テーブ
	級と段階が決まり、職等級と段階の上がり方は最終	ルはない
	学歴に依存しない	
	技術職であるため、基本給は歩合やインセンティブ	学歴別の給与テーブ
	ではなく、定年まで昇給が続くテーブルで設定し、	ルはない
	素行や成績についてはボーナスでの査定を行う	
	学歴でなく入社後のスキル・成果に応じた給与・昇	学歴別の給与テーブ
	格基準、人事評価制度の導入を検討している為	ルはない
	給与テーブルは年齢をベースに設定しており、資格	学歴別の給与テーブ
	保有者等は別途手当支給	ルはない
その他	スキル・能力的に区別をする必要が無いため	大学学部卒と同等
	卒業学校種別によって格差をつけていない為	大学学部卒と同等
	音響効果という特殊な職業のため、ほとんどの新入	大学学部卒と同等
	社員が「0」から基礎を学ぶ必要がある。そのため、	
	大卒も高専卒も同じスタートラインでキャリアを	
	スタートするため	

採用人数自体が少ない	専門学校卒と同等ま
	たは
	大学学部卒と同等
能力を見極める情報が乏しく、学校在籍年数に合わ	専門学校卒と同等ま
せている	たは
	大学学部卒と同等
これまでの採用実績がないため	専門学校卒と同等
全員同一の給与テーブルを使っている	学歴別の給与テーブ
	ルはない

【給与テーブルについて(ヒアリング調査結果より)】

- ・新卒採用時、本科卒は短大卒、専攻科卒は大学学部卒と同等としている。初任給は学習年数で判断している。エントリーは学修歴によって異なるが、入社後の伸び次第で評価・成果は大きく変化する。この運用は長い期間変わっていない。(製造業・300~999 人)
- ・初任給は自治体の公務員初任給額に合わせて設定しているが、学歴による給与差は入社時のみ。昇給はベースとなる規定があり、プラス個人能力査定で差が生じる。30代以上は取得している資格など能力で差がつく。(建設業・50~99人)
- ・初任給は学修歴で大卒と差があるが、入社後は当人の努力次第で給与へ反映する。入社後は大卒者のテーブルに追いつく。(建設業・1,000~4,999 人)

3-4-3 大卒者と高専本科卒者の給与平均の差

大卒者と高専本科卒者の給与平均の差について聞いたところ、約5割の企業が差は「ない」と 回答しており、3割強の企業が「大卒者の方が高い」と回答している。

(ウエイトなし) 0% 20% 80% 40% 60% 100% 0.7% 54.0% 10.5% 34.8% ■ある(大卒者のほうが高い) ■ある(高専本科卒者のほうが高い) ■ない ■その他 (ウエイトあり) 40% 80% 0% 20% 60% 100% 18.4% 33.4% 0.7% 47.5% ■ある(大卒者のほうが高い) ■ある(高専本科卒者のほうが高い) ■ない ■その他

図表 40 大卒者と高専本科卒者の給与平均の差 (n=541)

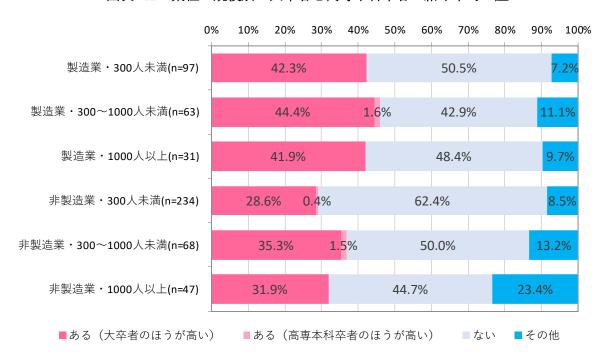
大卒者と高専本科卒者の給与平均の差について、その他の回答としては下記が挙げられた。

入社時のみ	•	入社時に差はあるが、その後は成果・能力によって異なる
大卒者の方	•	入社歴が浅いうちは入社時の差が残るため大卒の方が高い
が高い	•	2年目までは大卒の方が高い
	•	入社時のみ大卒が高いが、昇給は本人能力により大卒を上回る
大卒者と同	•	2023年3月の給与規定改定後からは同等、それまでは大卒のほうが優位
等または高	•	採用実績はないが、実践的な経験を考慮すれば、大卒と同等で良いと考え
V		5
	•	役割と成果によって差異がある。高専生の方が実務経験を多く積むため、
		高くなる傾向はある
	•	20代は、高専卒者は即戦力の為、大卒者より高い傾向。その後は個人差あ

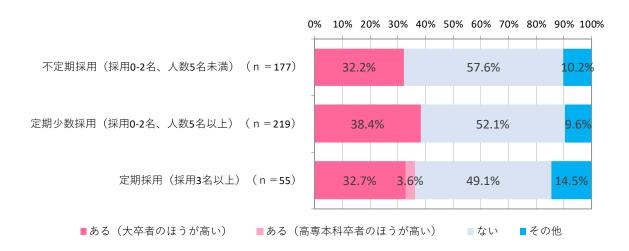
		ŋ
勤続年数に	•	入社後7~8年間は職能型を運用し、その後は職務型(JOB型)
よる変化	•	初任給には差があるが、20代半ばで大卒に追いつく
		30 代前半までは学歴による初任給が影響し、それ以降は実力、評価を重要
		視
		入社当初は違いがあるが、30歳近くから評価の影響が大きくなる
	•	入社当初は大卒者のほうが高いが、昇給に伴い平均の差はなくなる設計
		30歳以降はほぼ無い
	•	勤続年数が増えると差はなくなっていく

業種・規模別にみると、製造業では4割の企業が「大卒者の方が高い」と回答している割合が高い。一方で、非製造業・300人未満では、6割以上の企業が差は「ない」と回答している。 採用方針別では、大きな差はみられない。

図表 41 業種・規模別 大卒者と高専本科卒者の給与平均の差

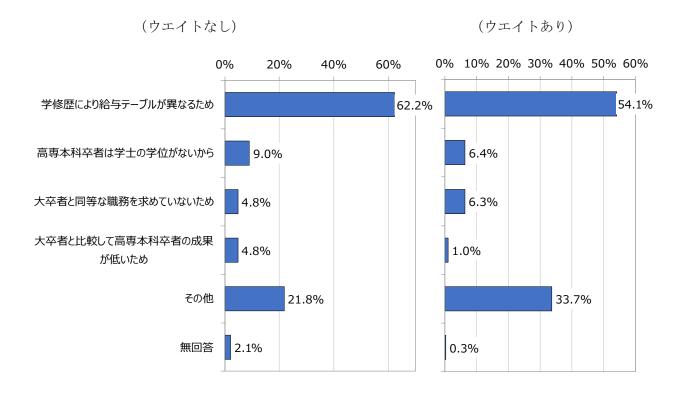


図表 42 採用方針別 大卒者と高専本科卒者の給与平均の差



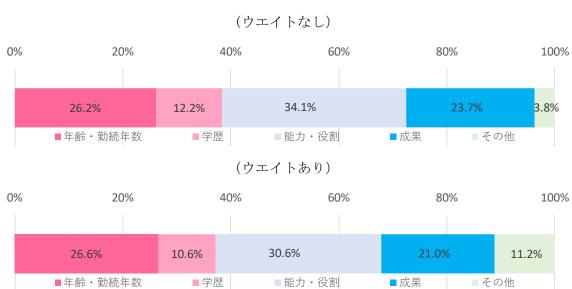
大卒者と比較して高専本科卒者の給与が低い理由としては、半数以上の企業が「学修歴により 給与テーブルが異なるため」をあげている。

図表 43 大卒者と比較して高専本科卒者の給与が低い理由 (n=188:「大卒者のほうが給与が高い」企業)



3-4-4 給与を決める要素

企業の給与を決める要素について、全体を 100% とした場合の構成比率についてきいた。その結果、ウエイトなしでは、年齢・勤続年数が 26.2%、学歴が 12.2%、能力・役職が 34.1%、成果が 23.7% となっている。



図表 44 給与を決める要素 (n=485)

業種・規模別では、製造業・300人未満の企業で、学歴の割合が17.8%と他と比べて高い。

0% 20% 40% 60% 80% 100% 製造業・300人未満 (n = 94) 27.7% 17.8% 29.2% 22.4% 2.9% 製造業・300~1000人未満 (n = 52) 24.4% 12.1% 35.3% 24.4% 3.8% 製造業・1000人以上 (n = 20) 23.2% 9.3% 40.4% 26.4% 0.8% 25.1% 10.9% 非製造業・300人未満(n = 225) 35.7% 24.3% 4.0% 非製造業・300~1000人未満 (n = 58) 30.7% 12.3% 31.2% 21.8% 4.1%

26.1% 7.7%

■能力・役割

36.3%

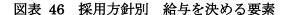
■成果

24.0%

■その他

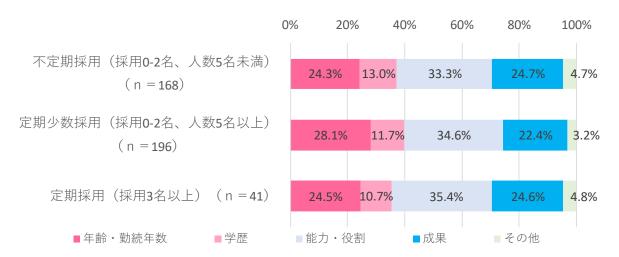
5.9%

図表 45 業種・規模別 給与を決める要素



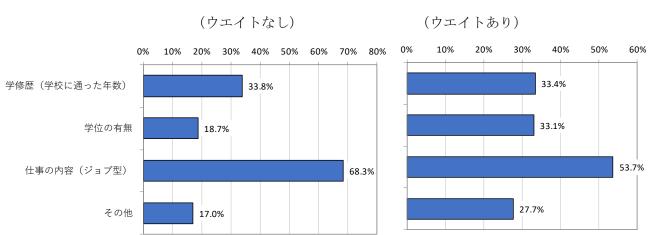
非製造業・1000人以上 (n=36)

■年齢・勤続年数 ■学歴



3-4-5 給与テーブルに考慮される要素

給与テーブルに考慮される要素として、「仕事の内容(ジョブ型)」の割合が高い。「学位の有無」について考慮している企業は、ウエイトなしで18.7%(ウエイトありで33.1%)となっている。



図表 47 給与テーブルに考慮される要素 (n=470:複数回答)

給与テーブルに考慮される要素について、その他の回答としては下記が挙げられた。

/ t - //s t - mb/ -/		No. Pathil
個人の能力、職務の	•	グレード制
実績等	•	職務遂行能力、協調性
	•	等級と役割、考課
	•	前年度の個人目標に対する評価
	•	目標管理によるプロセスと評価
	•	仕事における成果
	•	努力成果・お客様評価
	•	リーダーシップ、マネジメント能力
	•	会社への貢献
	•	行動評価
	•	成果、継続年数、役職
	•	プロセス、自己啓発等
	•	コミット範囲、業務遂行力、チャレンジ、改善、チームワーク、
		育成、技術力
職務内容、資格への	•	職務範囲
考慮	•	保有資格、業務に資する資格の取得
学歴から個人評価へ	•	年次の浅い時期のみ学位の有無を見るが、一定の役割資格以上は
		評価による
		入社時の初任給は学歴により差があるが、入社後は一律の職能資
		格制度、目標管理制度を運用している
その他	•	考慮無し

業種・規模別にみると、製造業・1000人以上の企業において、「学位の有無」を考慮する割合が32.0%と高い。

採用方針別では、定期少数採用の企業において、「学位の有無」を考慮する割合が 22.2% となっている。

図表 48 業種・規模別 給与テーブルに考慮される要素

			学值	 逐歴(学			仕事	事の内容				
	全体		校に	こ通った	学化	立の有無	()	^ブ ョブ	その	の他	無	回答
			年数	文)			型)					
全体		470		159		88		321		80		186
	(1.38)	(33.8%)	(18.7%)	(68.3%)	(17.0%)	(39.6%)
製造業・		88		30		16		67		10		25
300人未満	(1.40)	(34.1%)	(18.2%)	(76.1%)	(11.4%)	(28.4%)
製造業・		56		22		16		34		10		15
300~1000人未満	(1.46)	(39.3%)	(28.6%)	(60.7%)	(17.9%)	(26.8%)
製造業・		25		13		8		13		2		24
1000人以上	(1.44)	(52.0%)	(32.0%)	(52.0%)	(8.0%)	(96.0%)
非製造業・		207		63		28		158		34		63
300人未満	(1.37)	(30.4%)	(13.5%)	(76.3%)	(16.4%)	(30.4%)
非製造業・		53		20		13		26		12		31
300~1000人未満	(1.34)	(37.7%)	(24.5%)	(49.1%)	(22.6%)	(58.5%)
非製造業・		41		11		7		23		12		28
1000人以上	(1.29)	(26.8%)	(17.1%)	(56.1%)	(29.3%)	(68.3%)

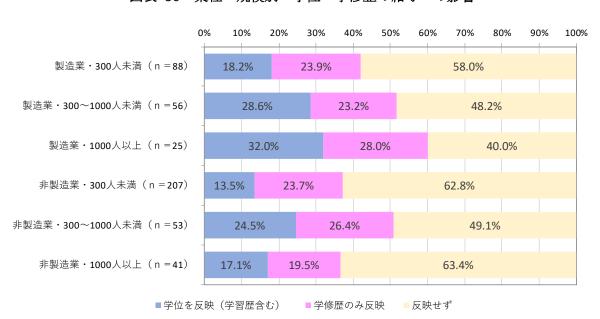
図表 49 採用方針別 給与テーブルに考慮される要素

			学修	多歴 (学			仕事	の内容				
	全体		校に	こ通った	学化	位の有無	(シ	゚゙ョブ	その	の他	無回	回答
			年数	牧)			型)					
全体		392		138		70		267		71		122
	(1.39)	(35.2%)	(17.9%)	(68.1%)	(18.1%)	(31.1%)
不定期採用		164		60		23		122		24		45
(採用0-2名、人数5名未満)	(1.40)	(36.6%)	(14.0%)	(74.4%)	(14.6%)	(27.4%)
定期少数採用		185		64		41		123		37		54
(採用0-2名、人数5名以上)	(1.43)	(34.6%)	(22.2%)	(66.5%)	(20.0%)	(29.2%)
定期採用		43		14		6		22		10		23
(採用3名以上)	(1.21)	(32.6%)	(14.0%)	(51.2%)	(23.3%)	(53.5%)

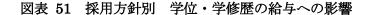
3-4-6 給与決定要素と給与額との関係

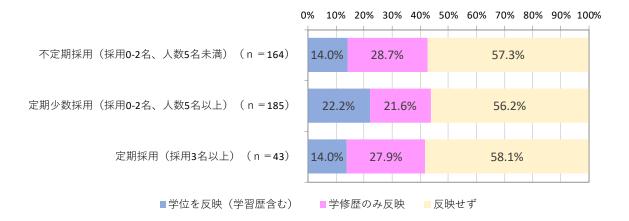
給与決定要素によって、高専卒業者の給与にどのような影響があるかをみる。給与決定要素により「学位を反映(学修歴含む場合あり)」「学修歴のみ反映(学位は含まず)」「反映せず」の3つに分類し、高専卒業者の給与の差をみた。

なお、属性別にみると、製造業、特に従業員規模が大きい企業において、学位、あるいは学 修歴を給与に反映している割合が高い。高専卒業生の採用方針別では、大きな影響はみられな い。



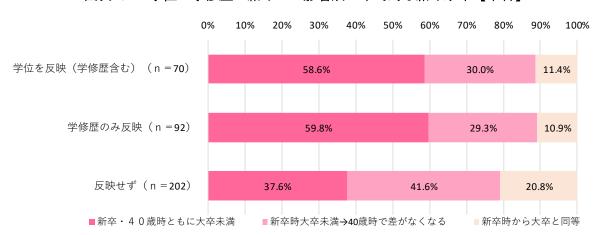
図表 50 業種・規模別 学位・学修歴の給与への影響





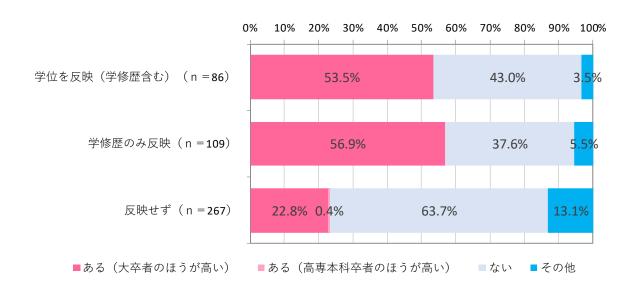
給与決定要素と高専本科卒業生の給与の関係をみると、「学位」あるいは「学修歴」を含んでいる企業は、6割近くが「新卒・40歳時ともに大卒未満」となっている。一方で、学位・学修歴が反映されていない企業は、「新卒・40歳時ともに大卒未満」の割合は4割弱である。

また、「学位」あるいは「学修歴」を含んでいる企業は、5割以上が大卒者と高専本科卒者の 給与平均の差が「ある(大卒者の方が高い)」と回答している。一方で、学位・学修歴が反映さ れていない企業では、2割程度にとどまる。



図表 52 学位・学修歴の給与への影響別 平均的な給与水準【本科】

図表 53 学位・学修歴の給与への影響別 大卒者と高専本科卒者の給与平均の差

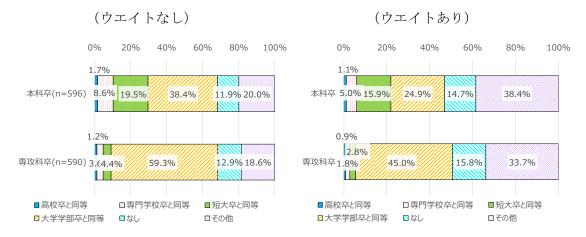


3-5 昇格について

3-5-1 昇格基準

昇格基準についてみると、本科卒は大卒未満(高校卒と同等、専門学校卒と同等、短大卒と同等)の割合がウエイトなしで約3割(ウエイトありで22.0%)となっている。

図表 54 昇格基準



図表 55 業種・規模別 昇格基準【本科】

	个	全体		交卒と同	専門	門学校卒	短:	大卒と同	J	大学学部卒	なし		7	の他
	エ	个	等		と同	司等	等		٤	∠同等	'A L	•	,	عا ره
全体		595		10		51		116		228		71		119
	(100.0%)	(1.7%)	(8.6%)	(19.5%)	((38.3%)	(11.9%)	(20.0%)
製造業・		108		4		8		28		39		14		15
300人未満	(100.0%)	(3.7%)	(7.4%)	(25.9%)	((36.1%)	(13.0%)	(13.9%)
製造業・		69		3		6		15	Γ	24		9		12
300~1000人未満	(100.0%)	(4.3%)	(8.7%)	(21.7%)	((34.8%)	(13.0%)	(17.4%)
製造業・		38		1		2		6		15		5		9
1000人以上	(100.0%)	(2.6%)	(5.3%)	(15.8%)	((39.5%)	(13.2%)	(23.7%)
非製造業・		255		2		21		47		103		30		52
300人未満	(100.0%)	(0.8%)	(8.2%)	(18.4%)	((40.4%)	(11.8%)	(20.4%)
非製造業・		72		0		11		11		33		5		12
300~1000人未満	(100.0%)	(0.0%)	(15.3%)	(15.3%)	((45.8%)	(6.9%)	(16.7%)
非製造業・		53		0		3		9		14		8		19
1000人以上	(100.0%)	(0.0%)	(5.7%)	(17.0%)	((26.4%)	(15.1%)	(35.8%)

図表 56 採用方針別 昇格基準【本科】

	<u></u>	全体		交卒と同	専門学校卒	短大卒と同		大学学部卒		なし		20	の他
	土				と同等		等		と同等	なし		-ر ر	/기B
全体		499		7	41	-	100		197		53		101
	(100.0%)	(1.4%)	(8.2%)	(20.0%)	((39.5%)	(10.6%)	(20.2%)
不定期採用		201		3	16	monmon	33		94		21		34
(採用0-2名、人数5名未満)	(100.0%)	(1.5%)	(8.0%)	(16.4%)	((46.8%)	(10.4%)	(16.9%)
定期少数採用		235		3	23		55	Γ	81		24		49
(採用0-2名、人数5名以上)	(100.0%)	(1.3%)	(9.8%)	(23.4%)	((34.5%)	(10.2%)	(20.9%)
定期採用		63		1	2		12		22		8		18
(採用3名以上)	(100.0%)	(1.6%)	(3.2%)	(19.0%)	((34.9%)	(12.7%)	(28.6%)

3-5-2 昇格を決定する上で考慮される要素

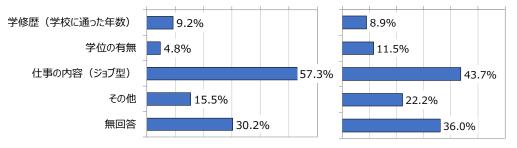
昇格を決定する上では、「学位の有無」を考慮する企業の割合は少ない。

図表 57 昇格に考慮される要素(n=682)

(ウエイトなし)

(ウエイトあり)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%



昇格決定時に考慮される事柄について、その他の回答としては下記が挙げられた。

		一一 フィー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
個人の能力、職務の	•	実績、社内評価
実績等	•	自己研鑽、主体性、リーダーシップ
	•	問題解決能力
		仕事の正確性
	•	成果や業績、能力の発揮度合い、取り組み姿勢
	•	努力成果・お客様評価
	•	評価制度による評価結果
	•	活動実績による評価
		上位級に期待される能力
		能力、パフォーマンス
	•	目標設定の達成具合
	•	目標管理によるプロセスと成果
	•	人柄、人間性、協調性
	•	コミット範囲、業務遂行力、チャレンジ、改善、チームワーク
	•	育成、技術力
職務内容、資格への	•	保有資格、業務に資する資格の取得
考慮	•	資格取得状況と個人の業績
	•	人に教えられるぐらいの豊富なスキルを持っている
勤続年数、社内交友	•	勤続年数
関係	•	部署内での職員間の関係性
	•	役職に見合う人物か否か
	•	会社への貢献
その他	•	入社時の初任給は学歴により差があるが、入社後は一律の職能資
		格制度、目標管理制度を運用している
	•	初任給の差は学歴によってあるが、30歳到達時で追いつける設定
		になっている、主任になるための資格要件はあるが、そこからは
		本人次第
	٠	考慮無し

図表 58 業種・規模別 昇格に考慮される要素

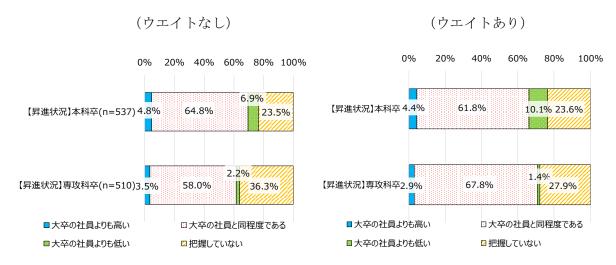
			学修	多歴 (学			仕	事の内容		
	全体		校に	こ通った	学化	位の有無	(ジョブ	そ	の他
			年数	汝)			型))		
全体		476		63		33		391		106
	(1.25)	(13.2%)	(6.9%)	(82.1%)	(22.3%)
製造業・		93		14		8		76		16
300人未満	(1.23)	(15.1%)	(8.6%)	(81.7%)	(17.2%)
製造業・		55		9		4		43		12
300~1000人未満	(1.24)	(16.4%)	(7.3%)	(78.2%)	(21.8%)
製造業・		25		5		2		20		7
1000人以上	(1.36)	(20.0%)	(8.0%)	(80.0%)	(28.0%)
非製造業・		212		23		12		188		39
300人未満	(1.24)	(10.8%)	(5.7%)	(88.7%)	(18.4%)
非製造業・		52		8		5		38	***********	16
300~1000人未満	(1.29)	(15.4%)	(9.6%)	(73.1%)	(30.8%)
非製造業・		39		4		2		26		16
1000人以上	(1.23)	(10.3%)	(5.1%)	(66.7%)	(41.0%)

図表 59 採用方針別 昇格に考慮される要素

			学化	修歴(学			仕事	の内容		
	全体		校(に通った	学位	立の有無	(シ	^ブ ョブ	そ(の他
			年	数)			型)			
全体		396		57		27		325		87
	(1.25)	(14.4%)	(6.8%)	(82.1%)	(22.0%)
不定期採用		161		26		8		146		23
(採用0-2名、人数5名未満)	(1.26)	(16.1%)	(5.0%)	(90.7%)	(14.3%)
定期少数採用		191		25		15		149		52
(採用0-2名、人数5名以上)	(1.26)	(13.1%)	(7.9%)	(78.0%)	(27.2%)
定期採用		44	transmin	6		4		30		12
(採用3名以上)	(1.18)	(13.6%)	(9.1%)	(68.2%)	(27.3%)

3-5-3 昇進状況

昇進状況について大卒の社員と比較してみると、「大卒の社員と同等である」割合が本科卒で 半数近い。



図表 60 業種・規模別 昇進状況【本科】

	全(体		≤の社員 りも高い	٤	大卒の社員 と同程度で ある		卒の社員 りも低い	•	
全体		535		26	-	346		37		126
	(100.0%)	(4.9%)		(64.7%)	(6.9%)	(23.6%)
製造業・		96		6		58		8		24
300人未満	(100.0%)	(6.3%)	-	(60.4%)	(8.3%)	(25.0%)
製造業・		62		2		46		3		11
300~1000人未満	(100.0%)	(3.2%)	-	(74.2%)	(4.8%)	(17.7%)
製造業・		34		1		22		5		6
1000人以上	(100.0%)	(2.9%)	-	(64.7%)	(14.7%)	(17.6%)
非製造業・		229		13		145		14		57
300人未満	(100.0%)	(5.7%)	-	(63.3%)	(6.1%)	(24.9%)
非製造業・		66		2		46		2		16
300~1000人未満	(100.0%)	(3.0%)	-	(69.7%)	(3.0%)	(24.2%)
非製造業・		48		2		29		5		12
1000人以上	(100.0%)	(4.2%)		(60.4%)	(10.4%)	(25.0%)

図表 61 採用方針別 昇進状況【本科】

	全'	体		卒の社員 りも高い	ح	で卒の社員 ご同程度で うる		卒の社員りも低い		
全体		455		23		294		34		104
	(100.0%)	(5.1%)	(64.6%)	(7.5%)	(22.9%)
不定期採用		178		4		100		10		64
(採用0-2名、人数5名未満)	(100.0%)	(2.2%)	(56.2%)	(5.6%)	(36.0%)
定期少数採用		220		14		156		18		32
(採用0-2名、人数5名以上)	(100.0%)	(6.4%)	(70.9%)	(8.2%)	(14.5%)
定期採用		57		5		38		6		8
(採用3名以上)	(100.0%)	(8.8%)	(66.7%)	(10.5%)	(14.0%)

3-5-4 定着率

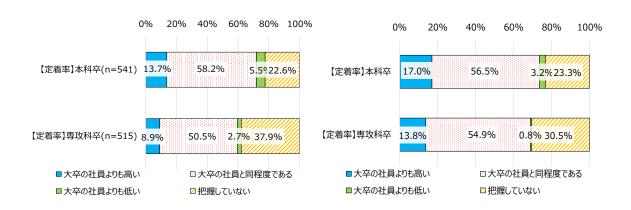
定着率をみると、「大卒の社員と同等である」割合が本科卒で5割を超える。

図表 62 定着率

(ウエイトあり)

【定着率】

(ウエイトなし)



図表 63 業種・規模別 定着率【本科】

	全1	体		をの社員 りも高い	-	大卒の社員 と同程度で ある		卒の社員 りも低い		
全体		514		46	-	259		14		195
	(100.0%)	(8.9%)	-	(50.4%)	(2.7%)	(37.9%)
製造業・		90		10		41		3		36
300人未満	(100.0%)	(11.1%)	-	(45.6%)	(3.3%)	(40.0%)
製造業・		58		11		27		1		19
300~1000人未満	(100.0%)	(19.0%)		(46.6%)	(1.7%)	(32.8%)
製造業・		34		3		20		0		11
1000人以上	(100.0%)	(8.8%)	-	(58.8%)	(0.0%)	(32.4%)
非製造業・		222		12	-	115		7		88
300人未満	(100.0%)	(5.4%)	-	(51.8%)	(3.2%)	(39.6%)
非製造業・		65		6	-	34		2		23
300~1000人未満	(100.0%)	(9.2%)	-	(52.3%)	(3.1%)	(35.4%)
非製造業・		45		4	-	22		1		18
1000人以上	(100.0%)	(8.9%)	-	(48.9%)	(2.2%)	(40.0%)

図表 64 採用方針別 定着率【本科】

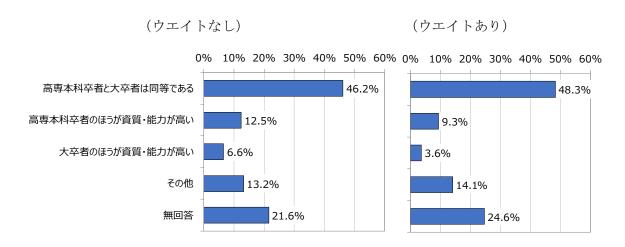
	全位	体		卒の社員 りも高い		同程度で		卒の社員りも低い	把: な	握していい
全体		456		67		267		25		97
	(100.0%)	(14.7%)	(58.6%)	(5.5%)	(21.3%)
不定期採用		179		10		99		10		60
(採用0-2名、人数5名未満)	(100.0%)	(5.6%)	(55.3%)	(5.6%)	(33.5%)
定期少数採用		220		42		137		14		27
(採用0-2名、人数5名以上)	(100.0%)	(19.1%)	(62.3%)	(6.4%)	(12.3%)
定期採用		57		15		31		1		10
(採用3名以上)	(100.0%)	(26.3%)	(54.4%)	(1.8%)	(17.5%)

3-6 高専本科卒者と大卒者の比較

3-6-1 高専本科卒者と大卒者の資質・能力の比較

高専本科卒者と大卒者の資質・能力を比較すると、「高専本科卒者と大卒者は同等である」と 回答した企業の割合が半数近い。

図表 65 高専本科卒者と大卒者の能力・資質の比較 (n=682)



図表 66 業種・規模別 高専本科卒者と大卒者の資質・能力の比較

	全'	全体		者と大卒者 は同等であ		高専本科卒 者のほうが 資質・能力 が高い		大卒者のほ うが資質・ 能力が高い		の他
全体		532		313		84		45		90
	(100.0%)	(58.8%)	(15.8%)	(8.5%)	(16.9%)
製造業・		96		46		24		12		14
300人未満	(100.0%)	(47.9%)	(25.0%)	(12.5%)	(14.6%)
製造業・		62		40		10		4		8
300~1000人未満	(100.0%)	(64.5%)	(16.1%)	(6.5%)	(12.9%)
製造業・		35		23		2		3		7
1000人以上	(100.0%)	(65.7%)	(5.7%)	(8.6%)	(20.0%)
非製造業・		229		132		35		17		45
300人未満	(100.0%)	(57.6%)	(15.3%)	(7.4%)	(19.7%)
非製造業・		65		41		7		7		10
300~1000人未満	(100.0%)	(63.1%)	(10.8%)	(10.8%)	(15.4%)
非製造業・		45		31		6		2		6
1000人以上	(100.0%)	(68.9%)	(13.3%)	(4.4%)	(13.3%)

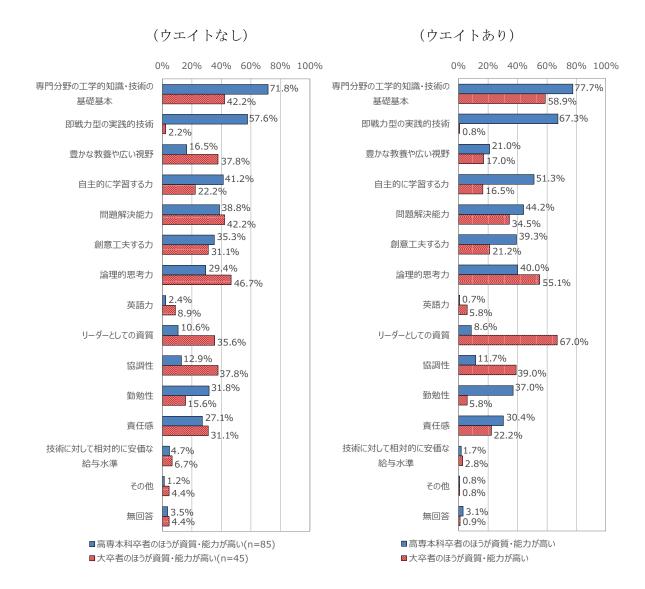
図表 67 採用方針別 高専本科卒者と大卒者の資質・能力の比較

	全 [,]	全体			者のほうが 資質・能力 が高い		大卒者のほうが うが資質・ 能力が高い		その他	
全体		450		265		78		35		72
	(100.0%)	(58.9%)	(17.3%)	(7.8%)	(16.0%)
不定期採用		175		96		28		12		39
(採用0-2名、人数5名未満)	(100.0%)	(54.9%)	(16.0%)	(6.9%)	(22.3%)
定期少数採用		219		133		40		21		25
(採用0-2名、人数5名以上)	(100.0%)	(60.7%)	(18.3%)	(9.6%)	(11.4%)
定期採用		56		36		10		2		8
(採用3名以上)	(100.0%)	(64.3%)	(17.9%)	(3.6%)	(14.3%)

3-6-2 ・高専本科卒者/大卒者のほうが資質・能力が高い理由

高専本科卒者・大卒者の資質・能力について比較すると、「専門分野の工学的知識・技術の基礎 基本」「即戦力型の実践的技術」は高専卒のほうが優れているとする割合が高い。

図表 68 高専本科卒者/大卒者のほうが資質・能力が高い理由



【高専本科卒・大卒者の資質・能力について(ヒアリング調査結果より)】

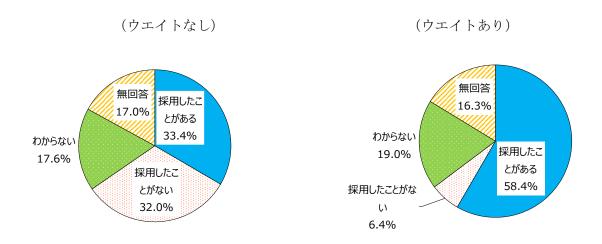
- ・高専卒社員は積極性や知識の豊富さを感じており、一般的な大学生より高いと感じる。高専生は手を動かして物を作ることを学校で経験していることから、飲み込みが早い印象である。(製造業・49人以下)
- ・高専卒社員はマネジメント能力・部下・後輩の育成に長けており、その結果、部下・後輩も優秀な人材が揃っている。大卒社員と比較すると、研究内容のクオリティが高い印象。在籍している高専出身者はゼミ長やリーダーを担ってきた人材が多く、コミュニケーション力も含めて、研究室での経験を生かして業務に取り組んでいる。(製造業・300~999 人)
- ・高専生は専門的な学習をしてきているので、専門知識は大学生よりも持っている印象。大学生は自由度が 人により違うので様々なタイプがいるが、高専生は高校生との間の年代で、純粋さ・真面目さも残っており優秀 なので好印象を持っている。(建設業・1,000~4,999 人)
- ・高専生は 16 歳頃から学校へ通いながらアルバイトをするので、コミュニケーション能力が若干優れている印象がある。(建設業・50~99 人)

3-7 高専出身の大卒・院卒の採用について

3-7-1 採用有無

高専出身の大卒・院卒の採用有無をみると、ウエイトなしでは「採用したことがある」「採用したことがない」ともに約3割となっている。

図表 69 採用有無 (n=682)



図表 70 業種・規模別 高専出身の大卒・院卒の採用

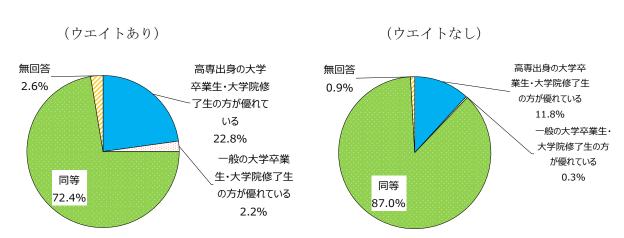
	全体			用したこ がある		用したこ がない	わ	からない
A //	_	= 0.4	_		C /		_	
全体		564		228		216		120
	(100.0%)	(40.4%)	(38.3%)	(21.3%)
製造業・		98		32		49		17
300人未満	(100.0%)	(32.7%)	(50.0%)	(17.3%)
製造業・		63		32		14		17
300~1000人未満	(100.0%)	(50.8%)	(22.2%)	(27.0%)
製造業・		38		31		1		6
1000人以上	(100.0%)	(81.6%)	(2.6%)	(15.8%)
非製造業・		241		65		140		36
300人未満	(100.0%)	(27.0%)	(58.1%)	(14.9%)
非製造業・		70		34		9		27
300~1000人未満	(100.0%)	(48.6%)	(12.9%)	(38.6%)
非製造業・		54		34		3		17
1000人以上	(100.0%)	(63.0%)	(5.6%)	(31.5%)

図表 71 採用方針別 高専出身の大卒・院卒の採用

		/	採	用したこ	採	用したこ	to	からない
	王1	4	とがある		とがない		1)	かりない
全体		469		192		175		102
	(100.0%)	(40.9%)	(37.3%)	(21.7%)
不定期採用		185		48		106		31
(採用0-2名、人数5名未満)	(100.0%)	(25.9%)	(57.3%)	(16.8%)
定期少数採用		222		107		59		56
(採用0-2名、人数5名以上)	(100.0%)	(48.2%)	(26.6%)	(25.2%)
定期採用		62		37		10		15
(採用3名以上)	(100.0%)	(59.7%)	(16.1%)	(24.2%)

3-7-2 高専出身の大卒・院卒を一般と比較した場合

高専出身の大卒と院卒の資質・能力を一般と比較した場合、「同等」と考える企業の割合が7割以上と高い。「高専出身の大学卒業生・大学院修了生の方が優れている」と考える割合は約2割である。



図表 72 高専出身の大卒と院卒の比較 (n=228)

【ヒアリング調査結果より】

・大学生は資質にばらつきがある印象だが、その点で高専を経て大学に編入した学生は、一定水準の質が保たれている印象。社会人基礎力も身についており、採用する側としては安心感がある。(製造業・1,000~4,999 人)

図表 73 業種・規模別 高専出身大卒・院卒と一般の大卒・院卒の比較

	全体		高専出身の で学卒業 ミ・大学院 多了生の方 で優れてい	卒 学 の	般の大学 業生・大 院修了生 方が優れ いる	同	等
全体	222	2	52		5		165
	(100.0%)	(23.4%)	(2.3%)	(74.3%)
製造業・	31		6		2		23
300人未満	(100.0%)	(19.4%)	(6.5%)	(74.2%)
製造業・	31		12		0		19
300~1000人未満	(100.0%)	(38.7%)	(0.0%)	(61.3%)
製造業・	30)	5		1		24
1000人以上	(100.0%)	(16.7%)	(3.3%)	(80.0%)
非製造業・	65	5	10		2		53
300人未満	(100.0%)	(15.4%)	(3.1%)	(81.5%)
非製造業・	32	2	14		0		18
300~1000人未満	(100.0%)	(43.8%)	(0.0%)	(56.3%)
非製造業・	33	3	5		0		28
1000人以上	(100.0%)	(15.2%)	(0.0%)	(84.8%)

図表 74 採用方針別 高専出身大卒・院卒と一般の大卒・院卒の比較

	全1	字体 :		専出身の 学卒業 ・大学院 了生の方 優れてい	一般の大学 卒業生・大 学院修了生 の方が優れ ている		同等	等
全体		189		46		4		139
	(100.0%)	(24.3%)	(2.1%)	(73.5%)
不定期採用		47		10		1		36
(採用0-2名、人数5名未満)	(100.0%)	(21.3%)	(2.1%)	(76.6%)
定期少数採用		107		29		2		76
(採用0-2名、人数5名以上)	(100.0%)	(27.1%)	(1.9%)	(71.0%)
定期採用		35		7		1		27
(採用3名以上)	(100.0%)	(20.0%)	(2.9%)	(77.1%)

第4章 卒業生へのアンケート調査

4-1 調査概要

全国の高等専門学校の令和 4 年度卒業生にアンケートを実施し、高専生の進路・就職等に関するデータ収集を行った。

4-1-1 調査対象

全国の高専の令和4年度卒業生

4-1-2 調査方法

WEB アンケートの URL・二次元コードを記載した調査依頼文書を作成し、全国の高専へ令和4年度卒業生全員へ配付を依頼。

卒業生は URL・二次元コードよりアクセスし WEB アンケートへ回答。

高専から卒業生への全員配付が難しい場合は、進路について下記を対象に含め、学科・専攻 科それぞれ10名以上への配付を依頼。

- ・ 本科卒は、学科別に企業等就職、大学進学、専攻科進学の全て
- ・ 専攻科は、学科別に企業等就職、大学院進学の両方

4-1-3 調査時期

令和5年11月27日(月)~令和5年12月15日(金)

4-1-4 回収状況

卒業生への	57 校(令和 5 年設立神山まるごと高等専門学
配付依頼学校数	校を除く全高専)
上記のうち、 卒業生からの有効回答を得られた学校数	36 校
卒業生の有効回答数	788 件

4-2 本科卒業後の進路選択について

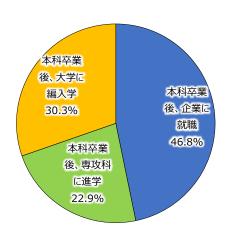
本科卒業後1年目の卒業生への調査から、本科卒業後の進路選択の要因について分析を行う。

4-2-1 概要

卒業生アンケートに回答した高専本科卒業生1年目の進路は、「企業に就職」した割合が46.8%、「専攻科に進学」が22.9%、「大学に編入学」が30.3%である。

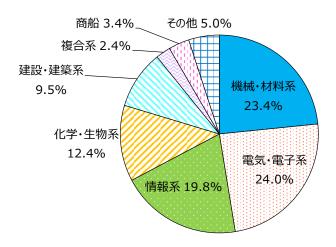
アンケート回答者として、専攻科生(本科卒業後に専攻科に進学)の割合が高いため、本科卒 業後の進路における専攻科に進学した割合も高くなっていることに留意が必要である。

図表 75 本科卒業後の進路 (n=620)



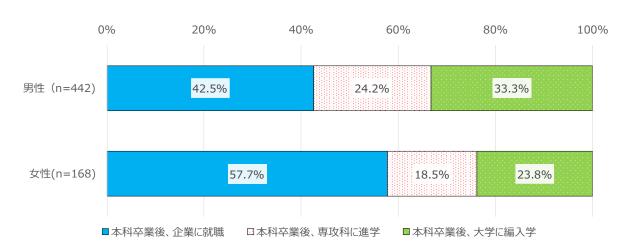
所属していた学科系統は「電気・電子系」が24.0%、「機械・材料系」が23.4%である。

図表 76 所属していた学科系統(n=620)

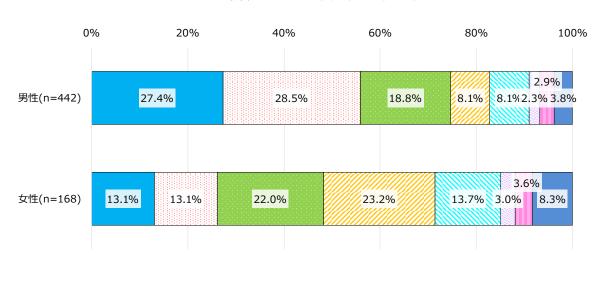


性別でみると、女性のほうが「本科卒業後、企業に就職」した割合が57.7%と高い。

図表 77 本科卒業後の進路(性別)

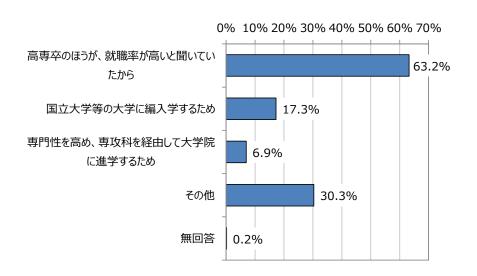


図表 78 所属していた学科系統(性別)



4-2-2 中学校卒業後の進路で高専を選択した理由

中学校卒業後の進路として高専を選択した理由は、「高専卒のほうが、就職率が高いと聞いていたから」の割合が6割強と高い。高専選択時の理由として「国立大学等の大学に編入学するため」をあげているのは17.3%、「専門性を高め、専攻科を経由して大学院に進学するため」をあげているのは6.9%となっている。



図表 79 高専選択の理由(複数回答)(n=620)

高専を選択した理由について、「大学編入のため」「専攻科から大学院に行くため」「大学編入 または専攻科から大学院に進学するため」「どちらでもない」に分類したところ、「大学編入のため」に高専に入学した生徒も、「専攻科から大学院に行くため」に高専に入学した生徒も、いずれも 6 割が入学時に想定していた進路に進学している。なお、「専攻科から大学院に行くため」に高専に入学した生徒で、専攻科に進まなかった場合、そのほとんどが大学に進学している。

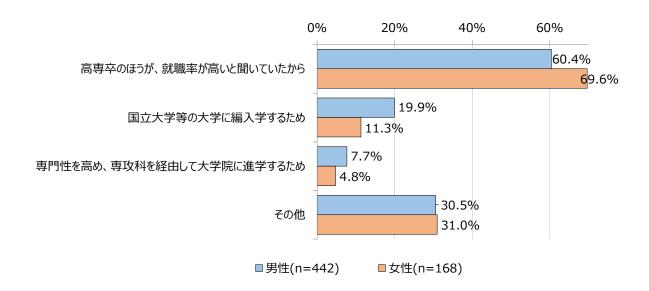
また、入学時に卒業後の進学を考えていなかった「どちらでもない」は、55%が卒業後に企業に就職している。

図表 80 高専選択の理由×本科卒業後の進路

		1)2	太科卒業	(2)2	太科卒業	(3)2	 太科卒業
	全体	\sim	企業に就	_			大学に編
		職		進	学	入	学
全体	620		290		142		188
	(100.0%)	(46.8%)	(22.9%)	(30.3%)
大学編入のため	93		19		18		56
	(100.0%)	(20.4%)	(19.4%)	(60.2%)
専攻科から大学院に行くため	29		2		18		9
	(100.0%)	(6.9%)	(62.1%)	(31.0%)
大学編入または専攻科から大学							
院に進学するため	14		1		7		6
	(100.0%)	(7.1%)	(50.0%)	(42.9%)
どちらでもない	484		268		99		117
	(100.0%)	(55.4%)	(20.5%)	(24.2%)

性別でみると女性のほうが「高専卒のほうが、就職率が高いと聞いていたから」を理由としている割合が男性よりもやや高い。

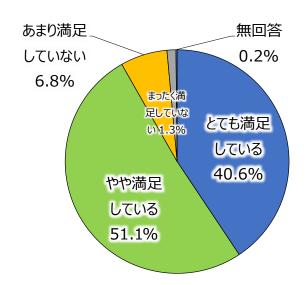
図表 81 髙専選択の理由(複数回答) (性別)



4-2-3 高専本科時代の教育・学生生活の満足度

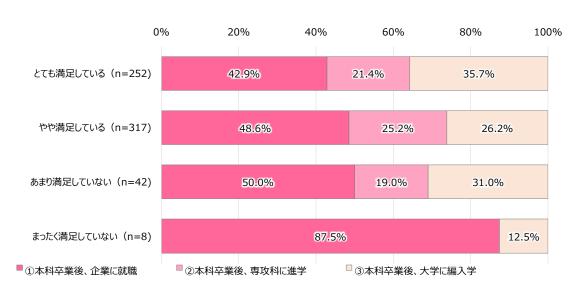
本科卒業後1年目の卒業生の高専本科時代の教育・学生生活の満足度をみると、「とても満足している」+「やや満足している」の割合は約9割である。性別では、男女ともに満足度は約9割と高い。

満足度別の進路をみると、若干ではあるが「とても満足している」「やや満足している」卒業 生の方が進学(大学、専攻科)している割合が高い。

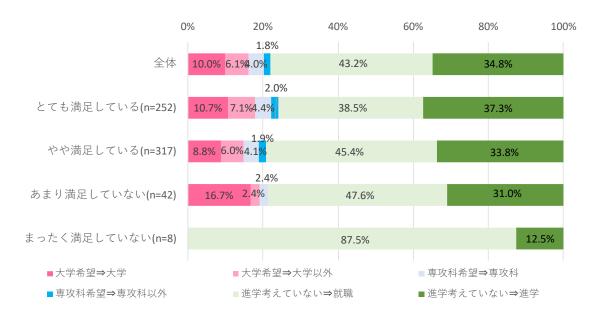


図表 82 高専本科時代の教育・学生生活の満足度(n=620)

図表 83 高専本科時代の教育・学生生活の満足度別 卒業後の進路



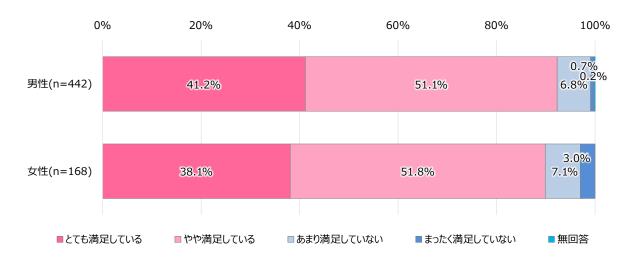
図表 84 高専本科時代の教育・学生生活の満足度別 入学時希望・進路



図表 85 参考 入学時希望・進路別 高専本科時代の教育・学生生活の満足度

	全任	本		している		やや満足し ている		まり満足 ていない	まったく満 足していな い		無回答	
全体		620		252		317		42		8		1
	(100.0%)	(40.6%)	(51.1%)	(6.8%)	(1.3%)	(0.2%)
大学希望⇒大学		62		27		28		7		0		0
	(100.0%)	(43.5%)	(45.2%)	(11.3%)	(0.0%)	(0.0%)
大学希望⇒大学以外		38		18		19		1		0		0
	(100.0%)	(47.4%)	(50.0%)	(2.6%)	(0.0%)	(0.0%)
専攻科希望⇒専攻科		25		11		13		1		0		0
	(100.0%)	(44.0%)	(52.0%)	(4.0%)	(0.0%)	(0.0%)
専攻科希望⇒専攻科以外		11		5		6		0		0		0
	(100.0%)	(45.5%)	(54.5%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)
進学考えていない⇒就職		268		97		144		20		7		0
	(100.0%)	(36.2%)	(53.7%)	(7.5%)	(2.6%)	(0.0%)
進学考えていない⇒進学	***********	216		94	Г	107		13		1		1
	(100.0%)	(43.5%)	(49.5%)	(6.0%)	(0.5%)	(0.5%)

図表 86 高専本科時代の教育・学生生活の満足度(性別)



4-2-4 高専本科卒業時、知識・能力をどの程度身につけていたか

高専本科卒業時に身につけていた知識・能力をみると、「専門分野の工学的知識・技術の基礎 基本」の割合が高く、8割強である(「十分身についていた」+「ある程度身についていた」)。 また、「英語力」は身についていた割合が低い。

20% 80% 100% 0% 40% 60% 0.2% 9.2% 5.0% 専門分野の工学的知識・技術の基礎基本 21.1% 63.5% 1.6%2% 9.2% 即戦力型の実践的技術 18.4% 48.5% 21.6% 豊かな教養や広い視野 7.392.1% 19.7% 52.9% 18.1% 9.2%3.9% 自主的に学習する力 42.1% 18.1% 26.8% 13.7% 1.5% 3.1% 問題解決能力 24.5% 57.3% 1.5% 5.6% 創意工夫する力 24.4% 47.9% 20.6% 0.3% 1.3% 15.6% 3.2% 論理的思考力 28.4% 51.1% 0.2% 英語力 6.8% 31.1% 21.0% 16.9% 24.0% リーダーとしての資質 11.5% 32.6% 31.9% 17.6% 6.5% 0.2% 協調性 31.8% 13.2% 4.8% 47.4% 勤勉性 24.2% 42.9% 18.2% 10.8%3.9% 責任感 30.2% 16.6% 6.8% 0.2% 43.5%

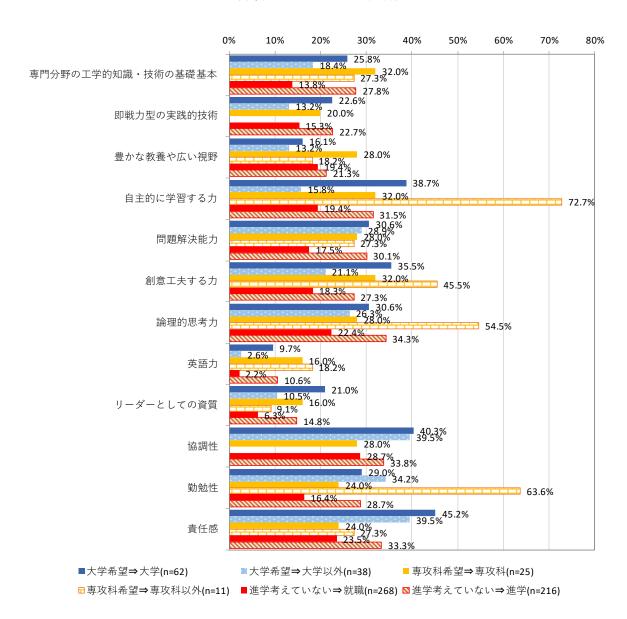
図表 87 高専本科卒業時に身につけていた知識・能力(n=620)

■十分身についていた■ある程度身についていた□どちらともいえない□あまり身についていなかった■まったく身についていなかった□無回答

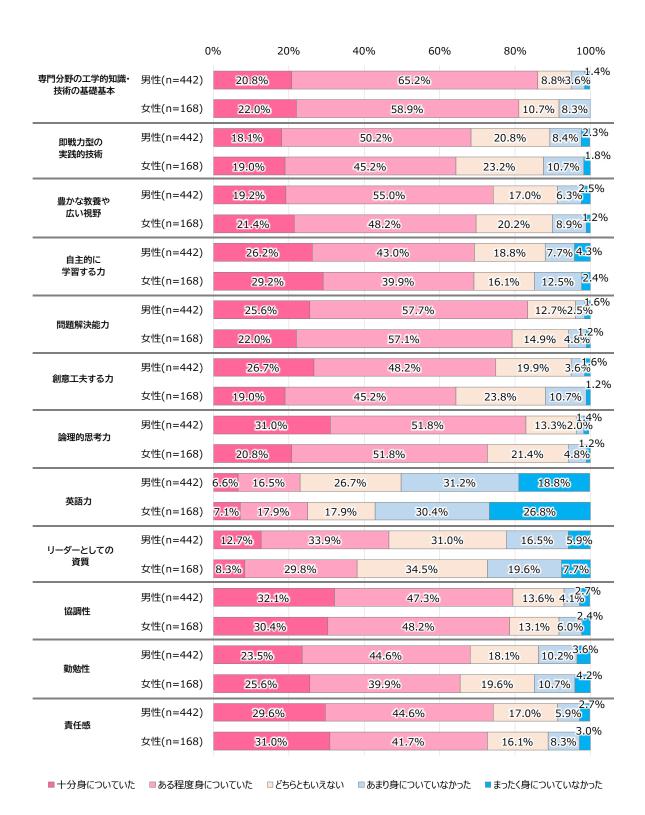
入学時希望と進路別にみると、「進学を考えておらず就職した」卒業生は、他と比べ各種能力が「十分身についていた」とする割合が低い。

入学時から大学進学を考えていた卒業生は「協調性」「責任感」が身についたとする割合が他 よりも高い。

図表 88 入学時希望・進路別 高専本科卒業時に身につけていた知識・能力 (十分身についていた割合)

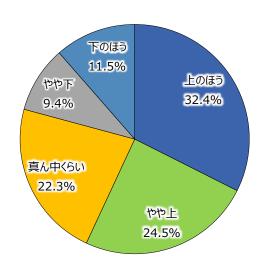


図表 89 高専本科卒業時に身につけていた知識・能力(性別)



4-2-5 本科在籍時の学科内での成績

高専本科時代の成績をみると、「上のほう(32.4%)」と「やや上(24.5%)」を合わせると半数強となる。「上のほう」と回答した卒業生は、本科卒業後に大学に編入している割合が半数近い。



図表 90 高専本科時代の成績(n=620)

図表 91 高専本科時代の成績×進路

			1	本科卒業	②本	科卒業	3本科	卒業
	全体		後	、企業に就	後、具	厚攻科に	後、大	学に編
			職		進学		入学	
全体		620		290		142		188
	(100.0%)	(46.8%)	(22.9%)	(30.3%)
上のほう		201		38		67		96
	(100.0%)	(18.9%)	(33.3%)	(47.8%)
やや上		152		62		39		51
	(100.0%)	(40.8%)	(25.7%)	(33.6%)
真ん中くらい		138		90		27		21
	(100.0%)	(65.2%)	(19.6%)	(15.2%)
やや下		58		35		9		14
	(100.0%)	(60.3%)	(15.5%)	(24.1%)
下のほう		71		65		0		6
	(100.0%)	(91.5%)	(0.0%)	(8.5%)

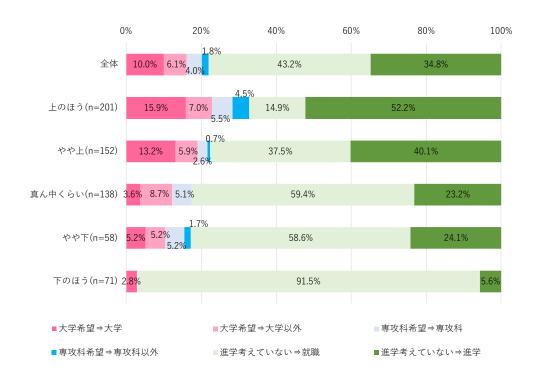
なお、高専選択時の理由として「大学への編入学」「専攻科を経由して大学院進学」をあげた 卒業生は、本科時代の成績が「上の方」の割合が高くなっている。

図表 92 高専選択の理由別 本科時代の成績

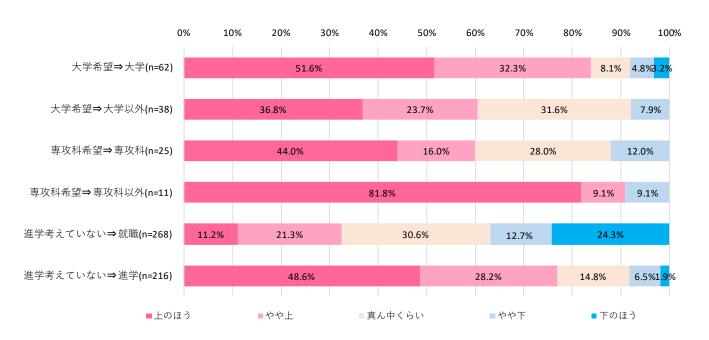
	全体	上のほう	やや上	真ん中くらい	やや下	下のほう	無回答
全体	620	201	152	138	58	71	0
	(100.0%)	(32.4%)	(24.5%)	(22.3%)	(9.4%)	(11.5%)	(0.0%)
大学編入のため	93	39	29	17	6	2	0
	(100.0%)	(41.9%)	(31.2%)	(18.3%)	(6.5%)	(2.2%)	(0.0%)
専攻科から大学院に行くため	29	17	4	5	3	0	0
	(100.0%)	(58.6%)	(13.8%)	(17.2%)	(10.3%)	(0.0%)	(0.0%)
大学編入または専攻科から大学							
院に進学するため	14	10	1	2	1	0	0
	(100.0%)	(71.4%)	(7.1%)	(14.3%)	(7.1%)	(0.0%)	(0.0%)
どちらでもない	484	135	118	114	48	69	0
	(100.0%)	(27.9%)	(24.4%)	(23.6%)	(9.9%)	(14.3%)	(0.0%)

高専本科時代の成績が「上のほう」において、「入学時から進学を希望していた」卒業生の割合が高く、また入学時には進学を希望していなくても進学した卒業生の割合が高い。

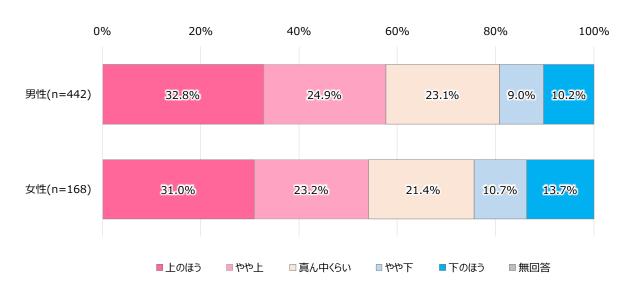
図表 93 高専本科時代の成績別 入学時希望・進路



図表 94 (参考) 入学時希望・進路別 高専本科時代の成績



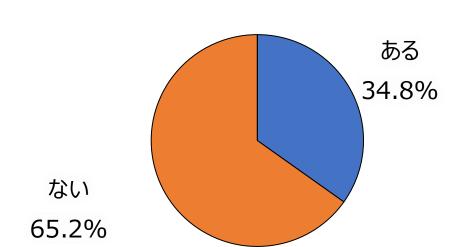
図表 95 高専本科時代の成績(性別)



4-2-6 学業成績の進路選択への影響

学業成績の進路選択への影響をみると、「ない」が 6 割を超える。影響が「ある」と回答した 卒業生は約半数が「大学に編入」し、影響が「ない」と回答した卒業生は 6 割強が「企業に就職」 している。

入学時希望と進路別にみると、入学時に専攻科を希望し、専攻科以外に進学した卒業生は6割強が影響が「ある」と回答している。



図表 96 学業成績の進路選択への影響(n=620)

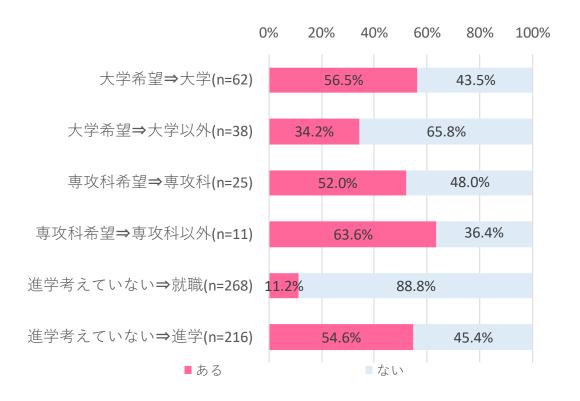
図表 97 学業成績の進路への影響×進路

	全体		\sim	本科卒業 企業に就	, – .			科卒業 大学に編
全体		620		290		142		188
	(100.0%)	(46.8%)	(22.9%)	(30.3%)
ある		216		32		73		111
	(100.0%)	(14.8%)	(33.8%)	(51.4%)
ない		404		258		69		77
	(100.0%)	(63.9%)	(17.1%)	(19.1%)

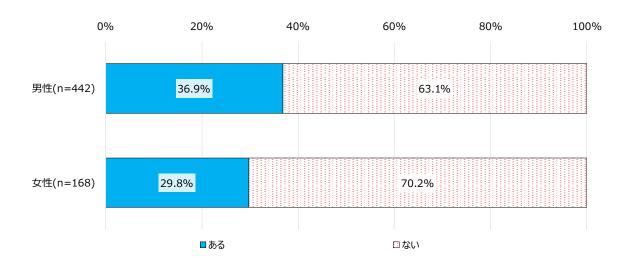
図表 98 高専選択の理由×学力の進路への影響有無

	全体	ある		ない		無回答	
全体	620		216		404		0
	(100.0%)	(34.8%)	(65.2%)	((0.0%)
大学編入のため	93		43		50		0
	(100.0%)	(46.2%)	(53.8%)	((0.0%)
専攻科から大学院に行くため	29		14		15		0
	(100.0%)	(48.3%)	(51.7%)	((0.0%)
大学編入または専攻科から大学							
院に進学するため	14		11		3		0
	(100.0%)	(78.6%)	(21.4%)	((0.0%)
どちらでもない	484		148		336		0
	(100.0%)	(30.6%)	(69.4%)	((0.0%)

図表 99 入学時希望・進路別 学業成績の進路選択への影響



図表 100 学業成績の進路選択への影響(性別)

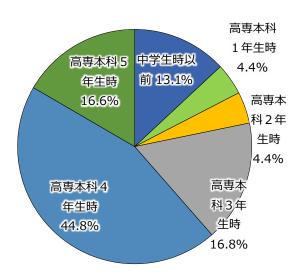


4-2-7本科卒業後のキャリアパスを決定した時期

本科卒業後のキャリアパスを決定した時期は、「高専本科4年生時」が4割強である。

入学時の希望と進路別にみると、「大学希望していたが大学以外」「進学を考えていなかったが 進学」と、入学時と進路に変更がある場合、進路決定の時期が遅い傾向にある。

図表 101 本科卒業後のキャリアパス (就職・進学 等) を決定した時期(n=620)



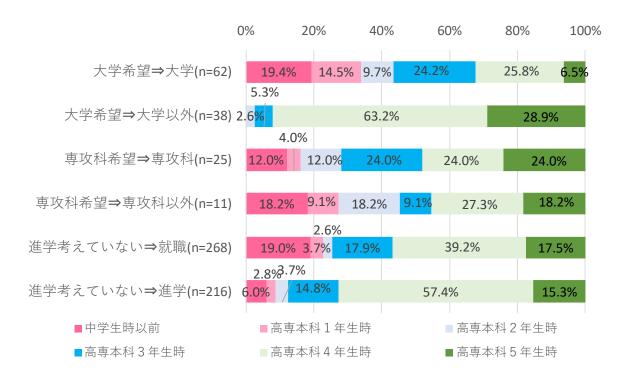
図表 102 本科卒業後の進路×キャリアパス決定時期

	全体		中学生時以 前			8	『専本科2 三生時	1		高専本科4 年生時	5	高専本科5 年生時
全体		620	:	81	27	nomen	27		104	27	78	103
	(100.0%)	(13.1	%)	(4.4%)	(4.4%)	(16.8%)	(44.8	%)	(16.6%)
①本科卒業後、企業に就職		290		51	10	moone	9		50	11	8	52
	(100.0%)	(17.6	%)	(3.4%)	(3.1%)	(17.2%)	(40.79	%)	(17.9%)
②本科卒業後、専攻科に進学		142		6	4		5		16	8	33	28
	(100.0%)	(4.2	%)	(2.8%)	(3.5%)	(11.3%)	(58.5	%)	(19.7%)
③本科卒業後、大学に編入学		188		24	13		13		38	7	77	23
	(100.0%)	(12.8	%)	(6.9%)	(6.9%)	(20.2%)	(41.0	%)	(12.2%)

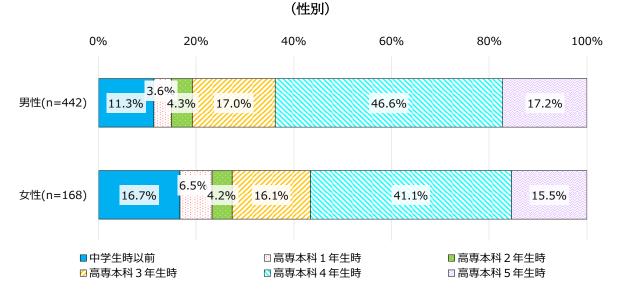
図表 103 キャリアパス決定時期×高専を選んだ理由

	全体	高専卒のほうが、就職率 が高いと聞い ていたから	国立大学等 の大学に編 入学するた め	専門性を高 め、専攻科を 経由して大 学院に進学 するため	その他	無回答
全体	620	392	107	43	188	1
	(1.18)	(63.2%)	(17.3%)	(6.9%)	(30.3%)	(0.2%)
中学生時以前	81	54	13	5	23	1
	(1.19)	(66.7%)	(16.0%)	(6.2%)	(28.4%)	(1.2%)
高専本科1年生時	27	14	9	4	5	0
	(1.19)	(51.9%)	(33.3%)	(14.8%)	(18.5%)	(0.0%)
高専本科2年生時	27	9	8	6	9	0
	(1.19)	(33.3%)	(29.6%)	(22.2%)	(33.3%)	(0.0%)
高専本科3年生時	104	67	18	9	31	0
	(1.20)	(64.4%)	(17.3%)	(8.7%)	(29.8%)	(0.0%)
高専本科4年生時	278	179	41	11	91	0
	(1.16)	(64.4%)	(14.7%)	(4.0%)	(32.7%)	(0.0%)
高専本科5年生時	103	69	18	8	29	0
	(1.20)	(67.0%)	(17.5%)	(7.8%)	(28.2%)	(0.0%)
無回答	0	0	0	0	0	0

図表 104 入学時希望・進路別 本科卒業後のキャリアパスを決定した時期

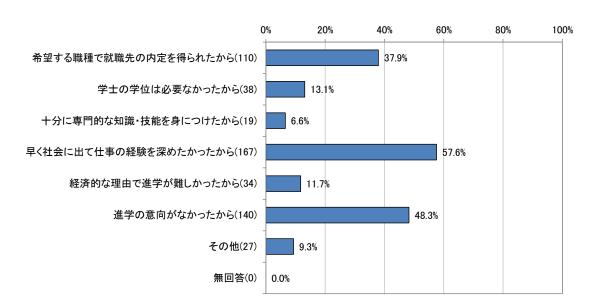


図表 105 本科卒業後の本科卒業後のキャリアパス (就職・進学 等) を決定した時期



4-2-8 進学ではなく就職を希望した理由

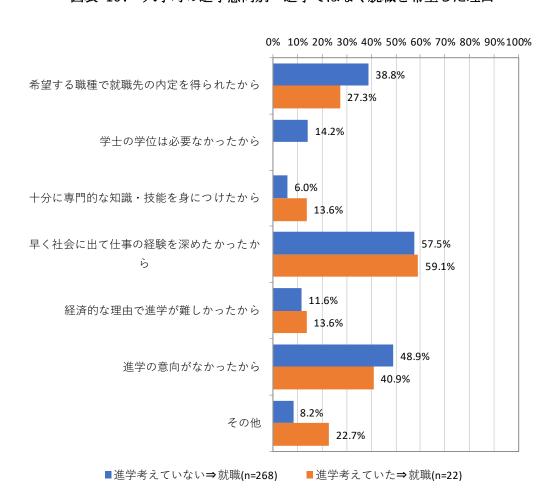
本科卒業後に進学ではなく就職を希望した理由は、「早く社会に出て仕事の経験を深めたかったから(57.6%)」の割合が最も高く、次いで「進学の意向がなかったから(48.3%)」「希望する職種で就職先の内定を得られたから(37.9%)」となっている。



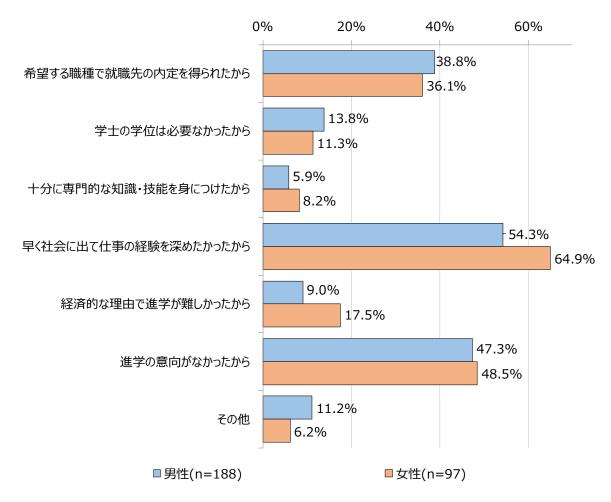
図表 106 進学ではなく就職を希望した理由(複数回答)

本科卒業後に企業に就職した卒業生の入学時の進学意向別に、進学ではなく就職を希望した 理由みると、進学を考えていなかった卒業生で「希望する職種で就職先の内定を得られたから」 の割合がやや高い。

図表 107 入学時の進学意向別 進学ではなく就職を希望した理由



性別でみると、女性の方が「早く社会に出て仕事の経験を深めたかったから」の割合が男性 よりもやや高い。



図表 108 進学ではなく就職を希望した理由(性別) (複数回答)

「入学時に進学を考えていたが、就職」した生徒のその他の理由をみると、学力不足や試験に 落ちたといった理由も見られる。

進学を考えていた卒業生の「その他の理由」

学力不足 希望する大学に落ちたから 専攻科に進学したかったが、担当の先生が海外に赴任する予定だったため 編入試験に落ちたため ロボコンの経験を即戦力で活かしたかったから

4-2-9 就職先を決定するうえで重視すること

本科卒で企業に就職した卒業生は、進学した卒業生に比べ「企業の安定性」を重視する割合が高い。一方で、進学した卒業生は「給与」「労働時間、休日数」など処遇・条件を重視する割合が高い。

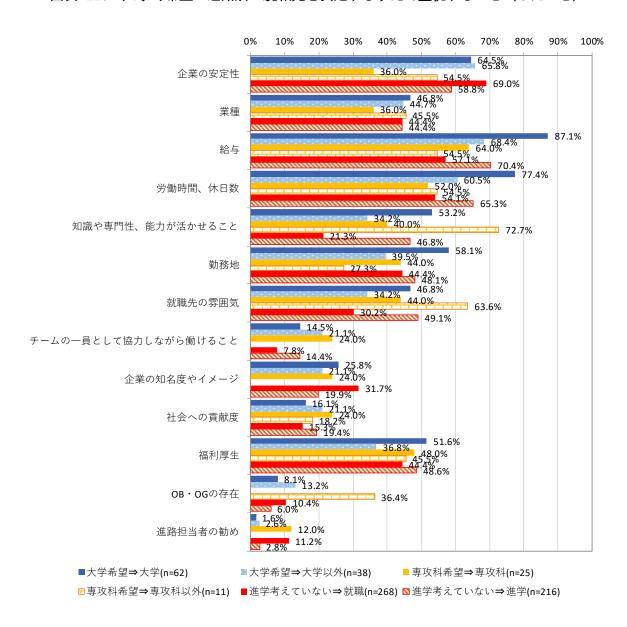
さらに「知識や専門性、能力が活かせること」については、専攻科進学者が 40.8%、大学進学者が 53.2%なのに対し、就職者は 22.1%に留まっている。

0% 20% 40% 60% 80% 100% 67.9% 企業の安定性 59.2% 59.0% 43.8% 業種 47.2% 43.1% 給与 73.9% 72.9% 53.8% 労働時間、休日数 65.5% 67.6% 22.1% 知識や専門性、能力が活かせること 40.8% 53.2% <u>43.</u>8% 勤務地 53.5% 45.2% 30.0% 就職先の雰囲気 45.1% 51.1% 8.3% チームの一員として協力しながら働けること 16.9% 14.4% 30.7% 25.4% 17.6% 企業の知名度やイメージ 15.9% 社会への貢献度 17.6% 20.2% 43.1% 54.2% 福利厚生 45.2% 11.7% OB・OGの存在 7.4% 10.7% 進路担当者の勧め 4.9% 1.6% 3.4% その他 2.8% 2.7% 0.7% 1.4% 無回答 ■本科卒業後、企業に就職(290) □本科卒業後、専攻科に進学(142) ■本科卒業後、大学に編入学(188)

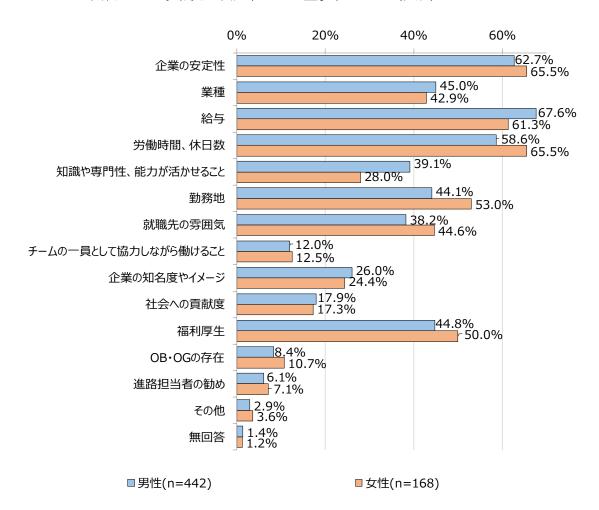
図表 109 就職先を決定するうえで重視すること

特に、入学段階から大学進学を希望し大学に進んだ卒業生は、「給与」を重視する割合が87.1%と高い。

図表 110 入学時希望・進路別 就職先を決定するうえで重視すること(したこと)

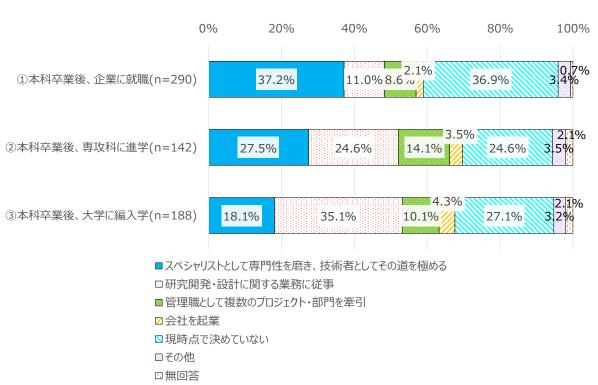


図表 111 就職先を決定する上で重視すること(性別)



4-2-10 将来のキャリアプラン

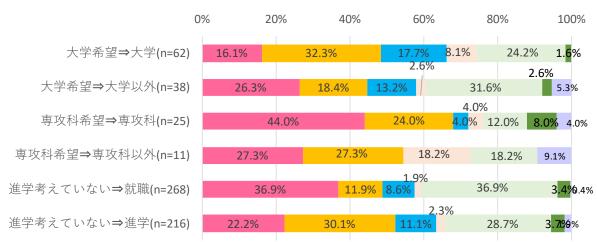
将来(10年後まで)のキャリアプランを進路別にみると、「本科卒業後、企業に就職」した学生は「スペシャリストとして専門性を磨き、技術者としてその道を極める」割合が高く、大学に編入学した卒業生は「研究開発・設計に関する業務に従事」の回答割合が高い。



図表 112 進路×将来のキャリアプラン

入学時希望・進路別にみると、「専攻科希望から専攻科進学」「進学考えておらず就職」の卒業 生は、「スペシャリスト」をキャリアプランとする割合が高い。また、「進学考えておらず就職」 の卒業生は、「まだ決めていない」割合も高い。「大学希望から大学」「進学考えておらず進学」 の卒業生は、「研究開発・設計」の割合が高い。

図表 113 入学時希望・進路別 将来(10年後まで)のキャリアプラン



- ■スペシャリストとして専門性を磨き、技術者としてその道を極める ■研究開発・設計に関する業務に従事 ■管理職として複数のプロジェクト・部門を牽引

- ■会社を起業
- ■現時点で決めていない
- ■その他
- ■無回答

性別では男性は「スペシャリストとして専門性を磨き、技術者としてその道を極める」割合が 女性よりも高い。女性は「現時点で決めていない」割合が男性よりも高い。

図表 114 将来のキャリアプラン (性別) 0% 20% 40% 60% 80% 100% 1.6% 男性(n=442) 31.2% 10.6% 3.2% 26.2% 2.7% 24.4% 1.2% 女性(n=168) 23.2% 14.3% 10.1%3.0% 42.9% 5.4% ■スペシャリストとして専門性を磨き、技術者としてその道を極める ᠍研究開発・設計に関する業務に従事 ■ 管理職として複数のプロジェクト・部門を牽引 ☑会社を起業 ■現時点で決めていない ⊠その他 ■無回答

105

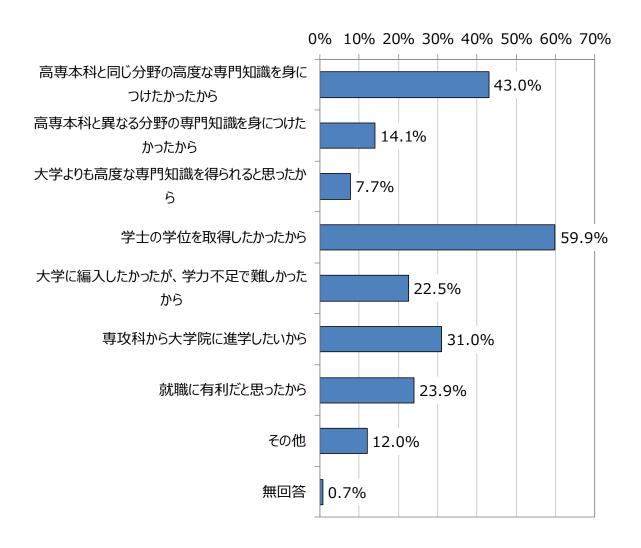
4-3 進学先の選択(専攻科と大学)

4-3-1 進学理由

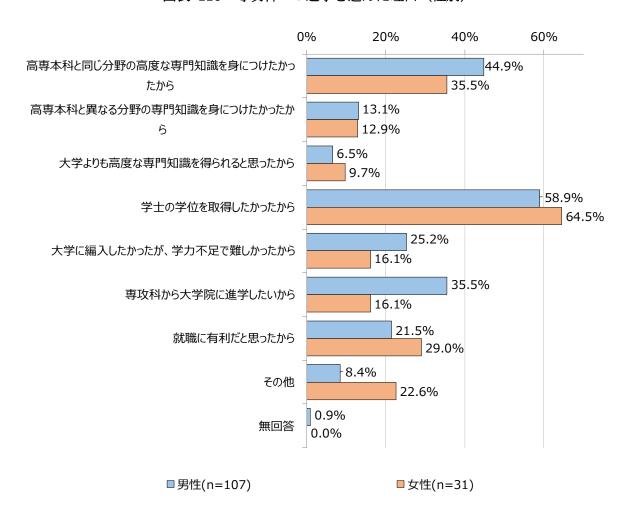
(1)専攻科を選んだ理由

本科卒業後に専攻科に進学した学生にその理由を聞くと、「学士の学位を取得したかったから」 が約 6 割である。

図表 115 専攻科への進学を選んだ理由 (n=142)



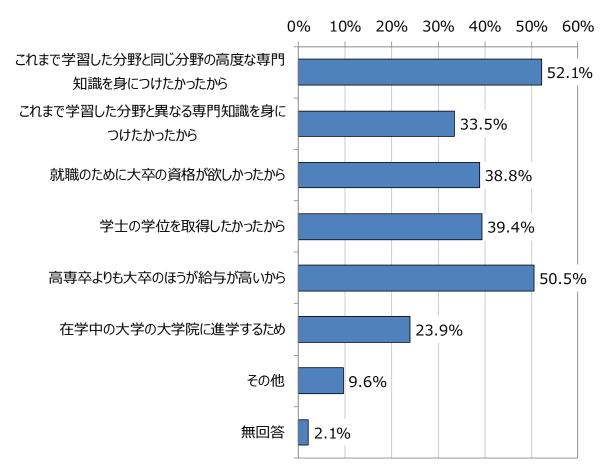
図表 116 専攻科への進学を選んだ理由(性別)



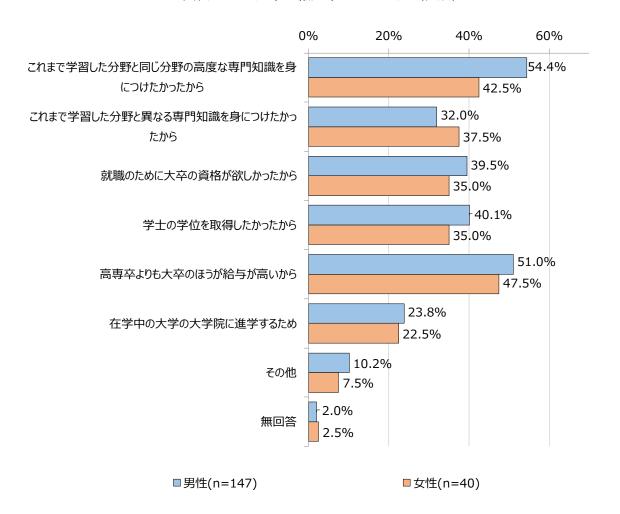
(2)大学に編入学をした理由

本科卒業後に大学に編入学した学生にその理由を聞くと、「これまで学習した分野と同じ分野 の高度な専門知識を身につけたかったから」「高専卒よりも大卒のほうが給与が高いから」が約 5割である。

図表 117 大学に編入学をした理由 (n=188)



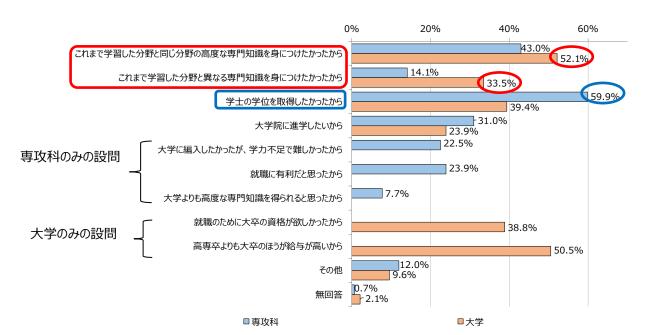
図表 118 大学に編入学をした理由(性別)



(3)専攻科に進学した理由・大学に編入学をした理由の比較

本科卒業後1年目の人の、専攻科に進学した理由と大学に編入学した理由を比較した。専攻科に進学した人のほうが「学士の学位を取得したかったから」と回答した割合が高い。また、大学に編入学した人のほうが「これまで学習した分野と同じ分野の高度な専門知識を身につけたかったら」「これまで学習した分野と異なる専門知識を身につけたかったから」の割合が高い。

専攻科に進学した人は学位を取得すること、大学に編入学した人は異なる分野における専門 知識の取得や、大卒のほうが給与が高いことを理由としている。

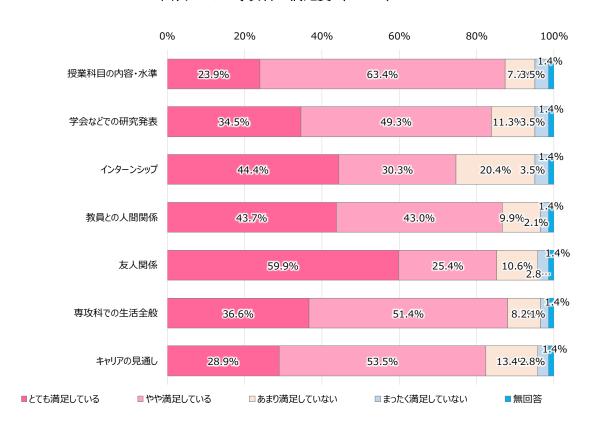


図表 119 専攻科に進学した理由・大学に編入学した理由の比較

4-3-2 学生生活の満足度

(1)専攻科の満足度

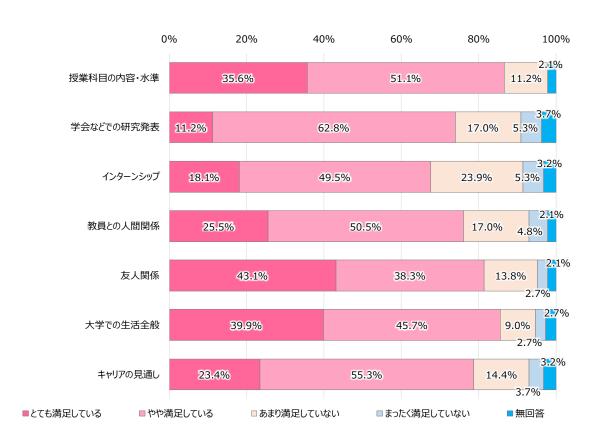
本科卒業後1年目の学生に専攻科での満足度を聞くと、「友人関係」は約6割が「とても満足している」割合が高い。



図表 120 専攻科の満足度 (n=142)

(2)大学の満足度

本科卒業後1年目の学生に大学生活の満足度を聞くと、「授業科目の内容・水準」「大学での生活全般」は満足している割合(「とても満足している」+「やや満足している」)が85%を超えて高い。

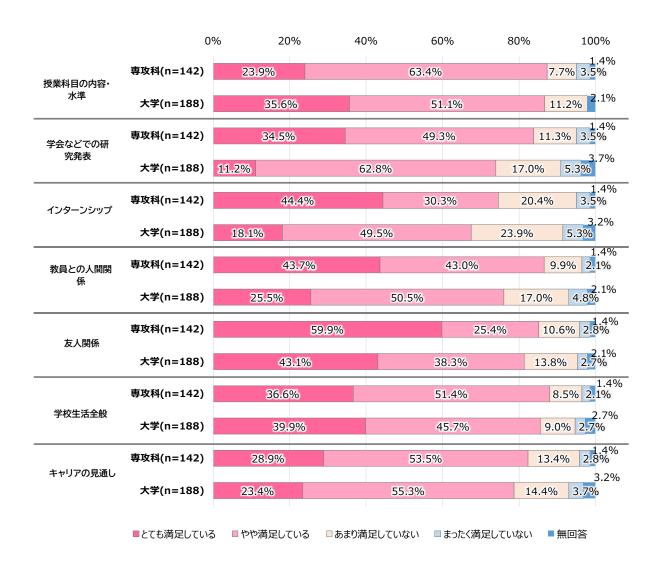


図表 121 大学の満足度(n=188)

(3)専攻科・大学の満足度の比較

本科卒業後に専攻科・大学に進学した人の満足度を比較すると、「友人関係」「インターンシップ」「教員との人間関係」「学会などでの研究発表」は専攻科の「とても満足している」割合が高く、「授業科目の内容・水準」は大学のほうが「とても満足している」割合が高い。

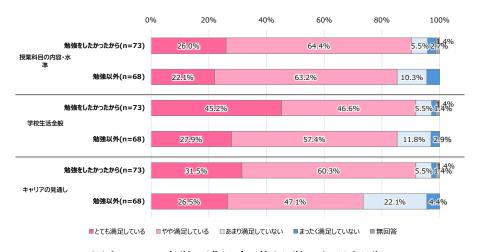
図表 122 専攻科・大学の満足度の比較



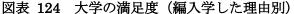
(4) 専攻科・大学の満足度の比較(進学した理由別)

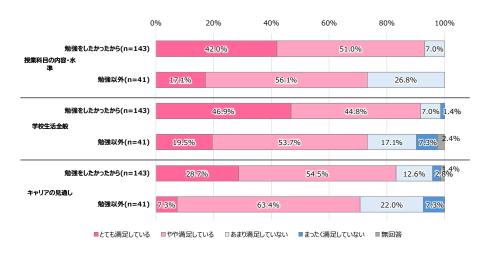
専攻科・大学に進学した理由について、「高専本科(これまで学習した分野)と同じ分野の高度な専門知識を身につけたかったから」「高専本科(これまで学習した分野)と異なる分野の専門知識を身につけたかったから」「大学よりも高度な専門知識を得られると思ったから(専攻科のみ)」を選択した場合を「勉強をしたかったから」、それ以外の選択肢のみ選択している回答を「勉強以外」とし、「授業科目の水準」「学校生活全般」「キャリアの見通し」の満足度とのクロス集計を行った。

その結果、勉強を目的に専攻科に進学・大学に編入学した人は満足度が高く、特に大学においてその傾向が顕著である。



図表 123 専攻科の満足度(進学した理由別)



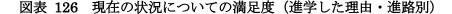


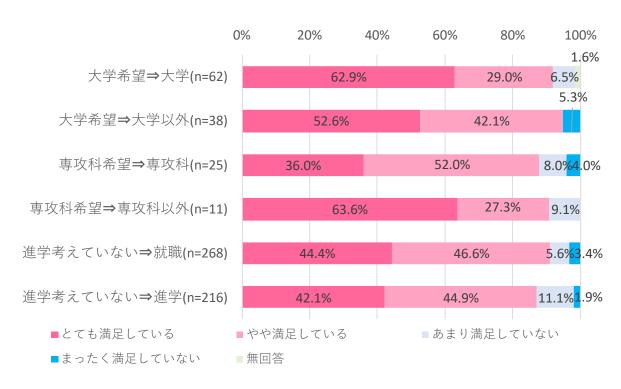
4-3-3 現在の状況についての満足度

本科卒1年目の卒業生に現在の満足度を聞くと、全体的に満足している割合が高い。 特に、「(サンプルは少ないが)専攻科希望で入学し、専攻科以外」へ行った卒業生、「大学進 学を希望し、大学に進学」した卒業生で、「とても満足している」割合が高い。

0% 80% 100% 20% 40% 60% 3.8% 5.5% ①本科卒業後、企業に就職(n=290) 44.8% 45.9% 2.8% ②本科卒業後、専攻科に進学(n=142) 37.3% 48.6% 11.3% 0:5% ③本科卒業後、大学に編入学(n=188) 54.3% 37.2% 7.4%0.5% ■とても満足している ■やや満足している ■あまり満足していない ■まったく満足していない ■無回答

図表 125 現在の状況についての満足度





4-4 専攻科について

本項では、専攻科卒業後1年目を対象とした卒業生調査の結果をみる。

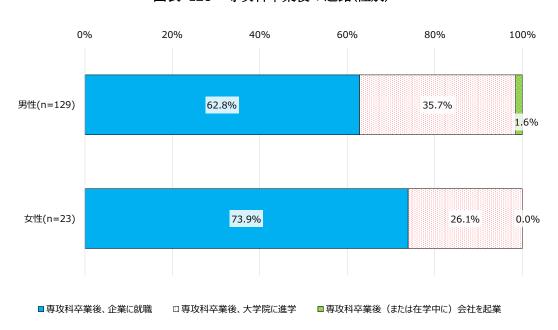
4-4-1 専攻科卒業後の進路

専攻科卒業後の進路をみると、「企業に就職」が64.7%、専攻科に進学が34%である。

図表 127 専攻科卒業後の進路(n=153)



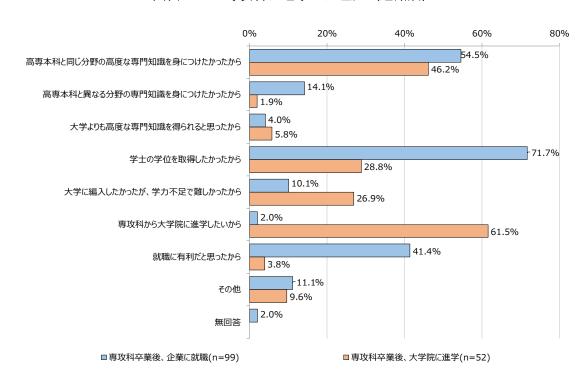
図表 128 専攻科卒業後の進路(性別)



4-4-2 専攻科に進学した理由

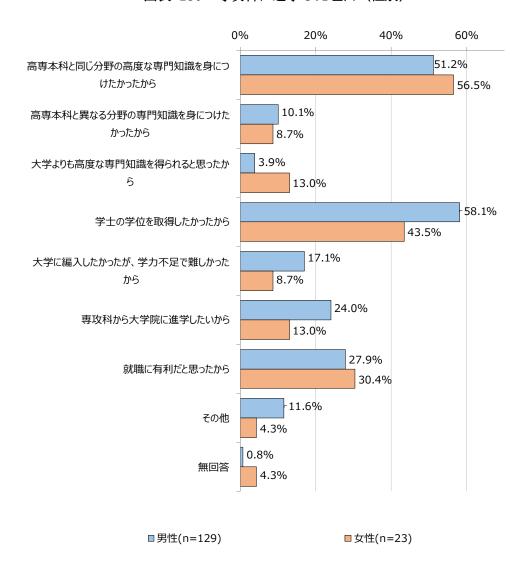
専攻科卒業後1年目の人の専攻科に進学した理由を進路別にみると、専攻科卒業後企業に就職した卒業生は「学士の学位を取得したかったから」が約7割と高い。

専攻科から大学院に進学した人は、約6割が「専攻科から大学院に進学したいから」と回答している。



図表 129 専攻科に進学した理由(進路別)

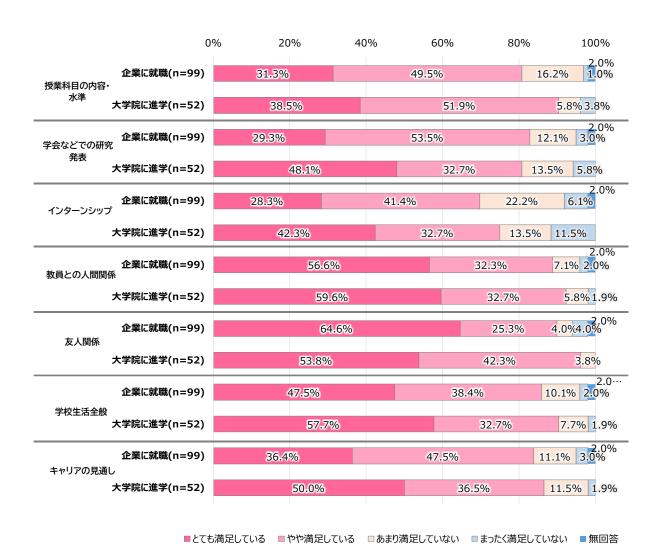
図表 130 専攻科に進学した理由(性別)



4-4-3 専攻科の満足度

専攻科卒業後1年目の人に進路別に専攻科時代の満足度を聞くと、大学院に進学した人は、満足している割合(「とても満足している」+「満足している」)がほとんどの項目で就職している人よりも高い。

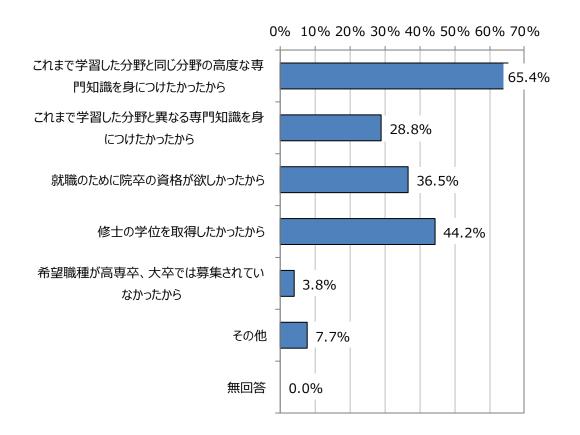
図表 131 進路別 専攻科の満足度



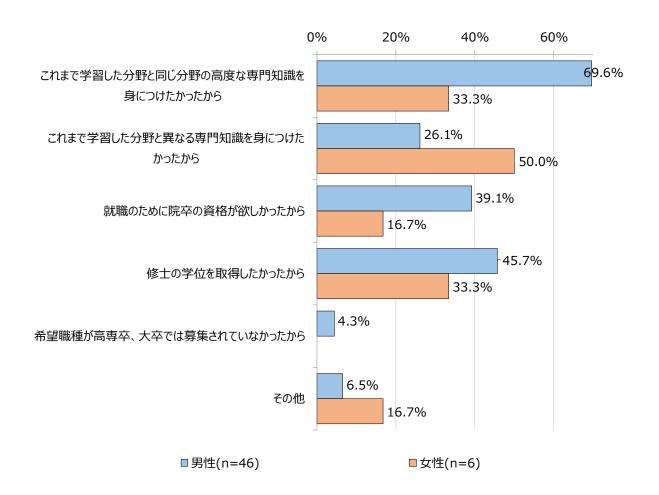
4-4-4 大学院に進学した理由

専攻科修了後に大学院に進学した学生にその理由を聞くと、「これまで学習した分野と同じ分野の高度な専門知識を身につけたかったから」の割合が6割強と高い。続いて、「修士の学位を取得したかったから」が4割強となっている。

図表 132 大学院に進学した理由(n=52)

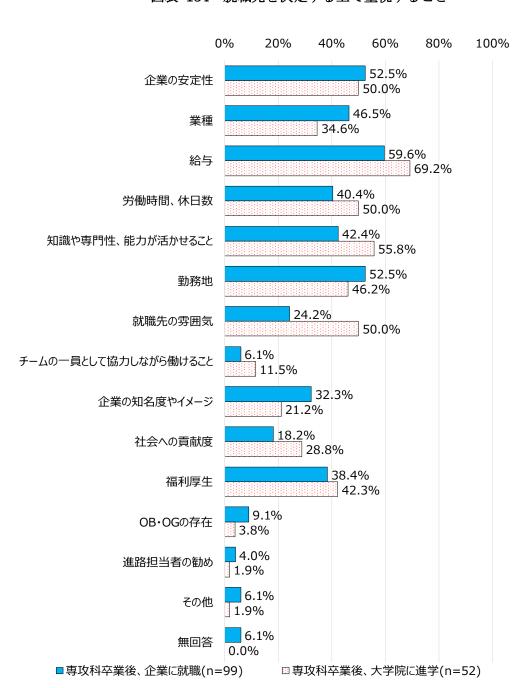


図表 133 大学院に進学した理由(性別)



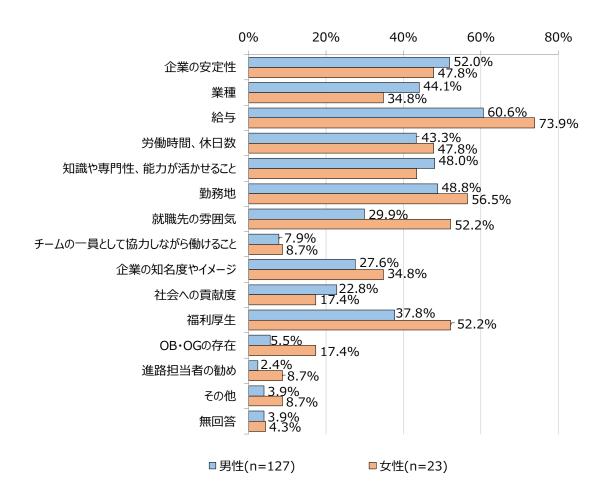
4-4-5 就職先を決定する上で重視すること

就職先を決定するうえで重視することについて進路別にみると、専攻科卒業後に大学院に進学した人は「給与(69.2%)」、「知識や専門性、能力が活かせること(55.8%)」の割合が専攻科卒業後に就職した人よりも高い。



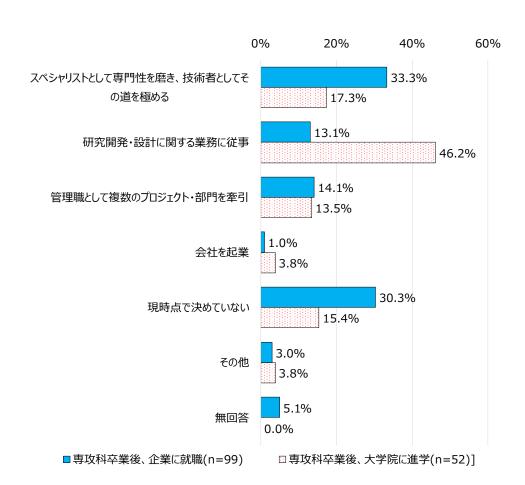
図表 134 就職先を決定する上で重視すること

図表 135 就職先を決定する上で重視すること(性別)



4-4-6 将来(10年後まで)のキャリアプラン

進路別の将来(10年後まで)のキャリアプランをみると、大学院に進んだ卒業生は「研究開発・設計に関する業務に従事」の割合が高い。一方で、専攻科卒業後に就職した人は「スペシャリストとして専門性を磨き、技術者としてその道を極める」の割合が高く、「現時点で決めていない」も3割存在する。



図表 136 将来 (10年度まで) のキャリアプラン

専攻科卒業後1年目の卒業生の将来(10年後まで)のキャリアプランを性別でみると、女性は「現時点で決めていない」割合が男性よりも高い。

0% 20% 40% スペシャリストとして専門性を磨き、技術者としてその道を 27.9% 極める 26.1% 27.1% 研究開発・設計に関する業務に従事 4.3% 14.0% 管理職として複数のプロジェクト・部門を牽引 13.0% 2.3% 会社を起業 4.3% 22.5% 現時点で決めていない 43.5% 3.1% その他 4.3% 3.1% 無回答 4.3%

■男性(n=129)

■女性(n=23)

図表 137 将来(10年度まで)のキャリアプラン(性別)

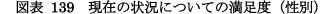
4-4-7 現在の状況についての満足度

■とても満足している ■やや満足している

現在の状況についての満足度を専攻科卒業後の進路別にみると、大学院に進学している人の満足度が企業に就職した人よりも高い。

9攻科卒業後、企業に就職(n=99) 46.5% 42.4% 10.1% 1.0% py科卒業後、大学院に進学(n=52) 67.3% 28.8% 1.9% 1.9%

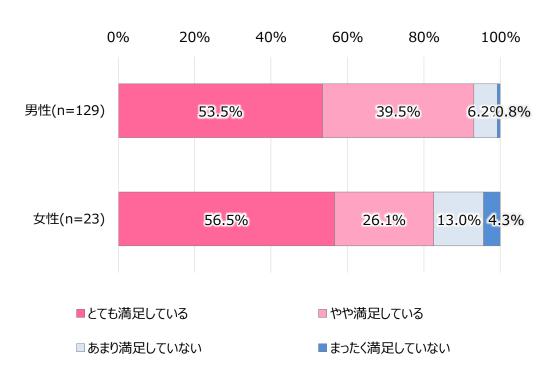
図表 138 現在の状況についての満足度



■あまり満足していない

■まったく満足していない

■無回答

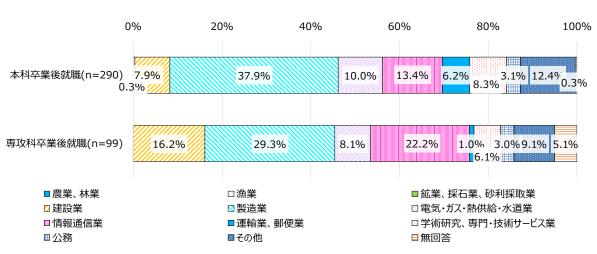


4-5 就職について

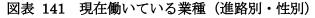
本項では、本科及び専攻科卒業後に就職した卒業生の就職1年目の状況を比較する。

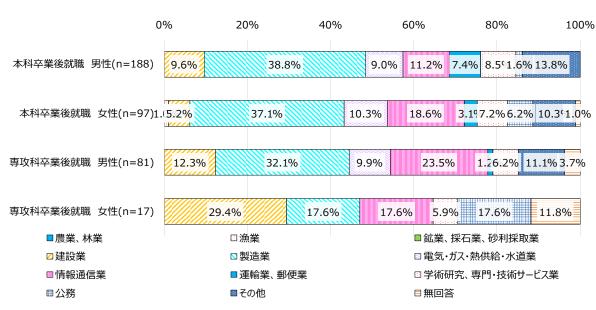
4-5-1 現在働いている業種

令和4年度に本科及び専攻科を卒業し、就職した人の現在働いている業種は、「製造業」の割合が最も高く、本科卒で37.9%、専攻科卒で29.3%である。次いで、「その他」を除くと「情報通信業」「建設業」の順に高い。

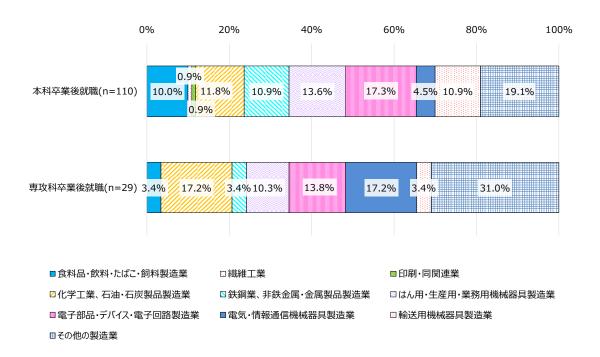


図表 140 現在働いている業種(進路別)





図表 142 製造業の分類(進路別)



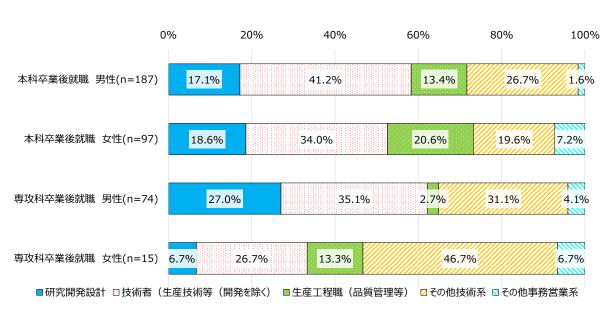
4-5-2 現在働いている職種

現在働いている職種は本科卒・専攻科卒ともに「技術者(生産技術等(開発を除く)」、「その他技術系」の割合が高い。専攻科卒は本科卒と比較すると「研究開発設計」の割合がやや高い。

0% 20% 80% 40% 60% 100% 本科卒業後就職(n=289) 17.6% 15.9% 24.2% 38.4% 3.8% 専攻科卒業後就職(n=90) 24.4% 33.3% 4.4% 4.4% 33.3%

図表 143 現在働いている職種

■研究開発設計 □技術者(生産技術等(開発を除く) ■生産工程職(品質管理等) 図その他技術系 図その他事務営業系



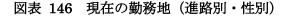
図表 144 現在働いている職種(進路別・性別)

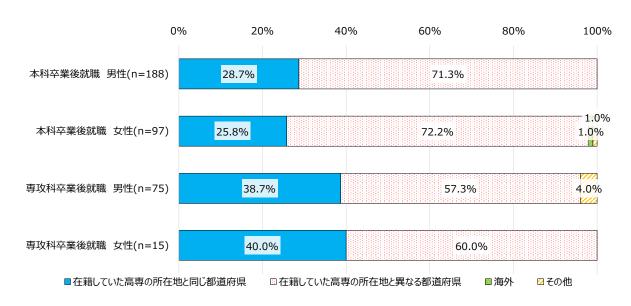
4-5-3 現在の勤務地

現在の勤務地は、本科卒業後就職した人のほうが「在籍していた高専の所在地と異なる都道府 県」の割合が高く、約7割である。

0% 20% 40% 60% 80% 100% 0.3% 本科卒業後就職(n=290) 27.9% 71.4% 0.3% 39.6% 専攻科卒業後就職(n=91) 57.1% 3.3% ■在籍していた高専の所在地と同じ都道府県 □在籍していた高専の所在地と異なる都道府県 ■海外 ☑その他

図表 145 現在の勤務地





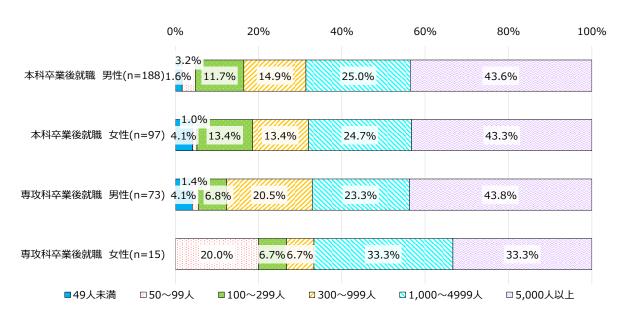
4-5-4 企業規模

現在働いている企業の規模は、本科卒・専攻科卒ともに「5,000 人以上」の大企業の割合が約4割と高い。「1,000~4,999 人(24.3%)」と合わせると 6 割強は大企業で働いている。

0% 40% 20% 60% 80% 100% 2.4% 本科卒業後就職(n=290) 2.4% 12.4% 14.5% 25.2% 43.1% 4.5% 専攻科卒業後就職(n=89) 3.4% 6.7% 24.7% 19.1% 41.6%

図表 147 企業規模

■49人未満 □50~99人 ■100~299人 □300~999人 □1,000~4999人 □5,000人以上

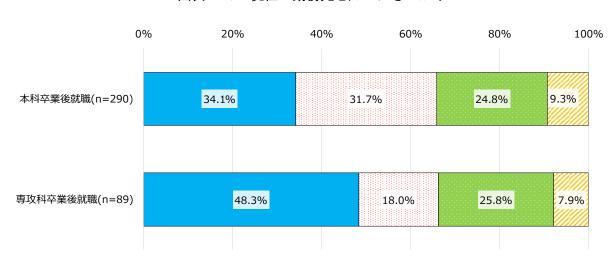


図表 148 企業規模(進路別・性別)

4-5-5 現在の勤務先をどのように知ったか

現在の勤務地を知ったきっかけは、専攻科卒業後就職した人は「就職活動を始める前から知っていた(43.3%)」の割合が本科卒業後就職した人よりも高い。

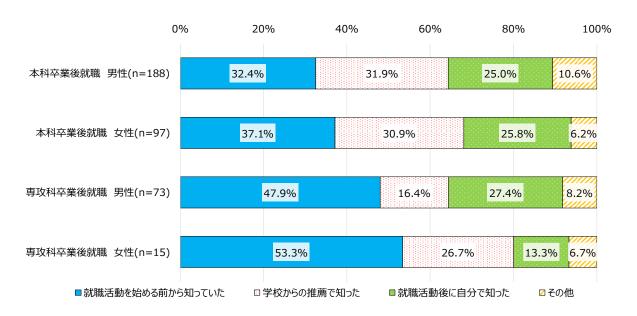
本科卒で就職した卒業生は、「学校からの推薦で知った」割合が 31.7%と、専攻科卒で就職した卒業生よりも高い。



図表 149 現在の勤務先を知ったきっかけ

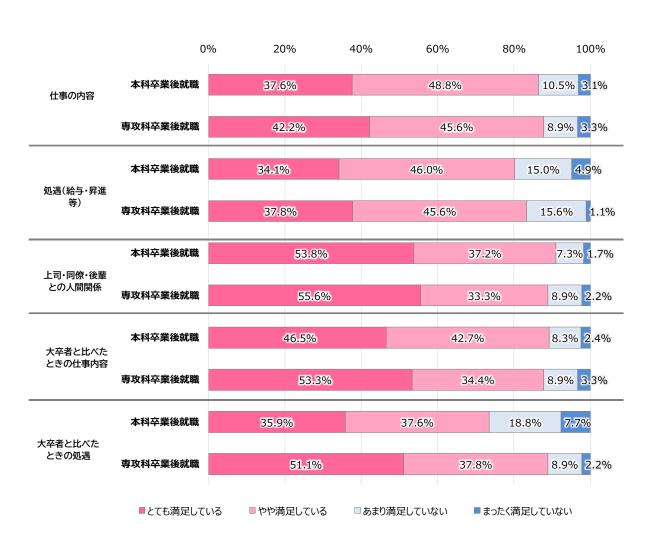
■就職活動を始める前から知っていた□学校からの推薦で知った■就職活動後に自分で知った□その他

図表 150 現在の勤務先を知ったきっかけ(進路別・性別)



4-5-6 現在の職場における仕事の満足度

現在の職場における仕事の満足度をみると、専攻科卒業後就職した卒業生は、「大卒者と比べたときの処遇」「処遇(給与・昇進等)」「仕事の内容」に満足している(とても満足している+やや満足している)割合が本科卒業後就職した卒業生よりも高い。

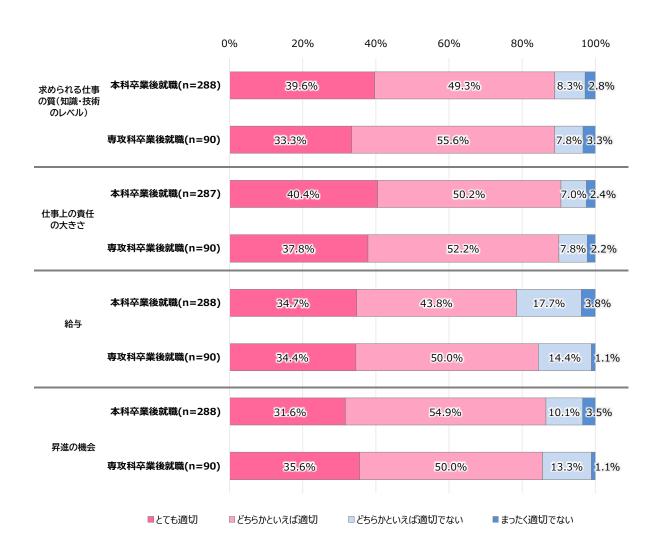


図表 151 現在の職場における仕事の満足度(n=389)

4-5-7 現在の職場における処遇の最終学歴に対する適切度

現在の職場における処遇の最終学歴に対する適切度をみると、本科卒業後就職した卒業生は、「給与」はほかの項目よりも適切(「とても適切」+「どちらかといえば適切」)と考える割合がやや低めである。

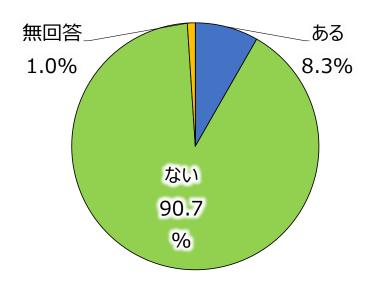
図表 152 現在の職場における最終学歴に対する適切度



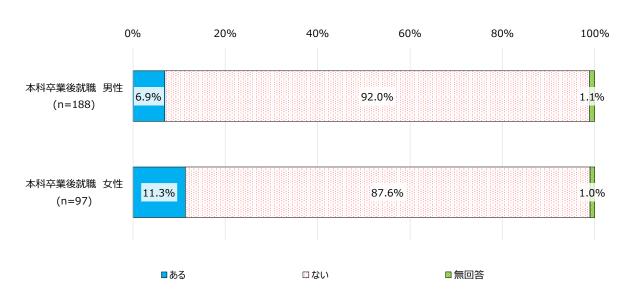
4-5-8 就職や就職後において、学位がないことで支障が生じたこと

本科卒業後に就職した卒業生に、就職や就職後において、学位がないことで支障が生じたことがあるかを尋ねたところ、「ない(90.7%)」が約9割であった。

図表 153 学位がないことで生じた支障の有無(本科卒業後就職した人のみ) (n=290)



図表 154 学位がないことで生じた支障の有無(本科卒業後就職した人のみ)



学位がないことで生じた支障は下記のとおり。

給与が等級分けされており、大卒未満は1等級、大卒は2等級、院卒は3等級というようになっており高卒と同じ区分けになっている(高専卒は技術職可、高卒は製造・営業職のみなどの制約はあり)

給料の差、受けられる企業の範囲、転職に不向きであること。

専門的なことをしっかり学んできたのに給料が少ない

基本給が2万円も違う

学校で習わなかったことが求められて困る

給料が低い。

準学士は学士と比べ、給与が低いこと。

ボーナスがない

開発系にはいけない

給料

電験の受験説明会が学卒以上で参加できなかった

学位の差は給料だけで仕事内容は全く一緒

昇進のタイミングが1年遅い

同じ仕事内容でも給与や処遇に差が出る

限られた所属先に配属される

給料が低すぎる

給与や待遇の差が激しい

高専卒の昇給できるタイミングが、大学卒、院卒と違う

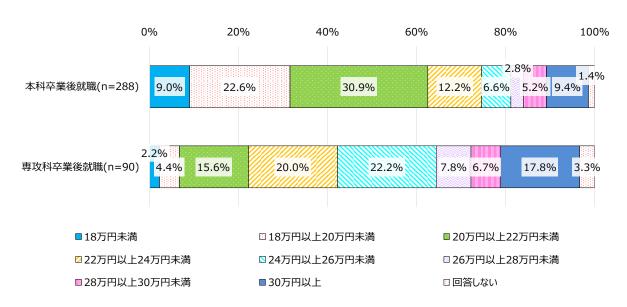
資格を取ろうとしたとき、学位があった方が受験資格を得やすい

昇格に大卒よりプラス2年かかること

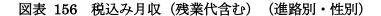
規模の大きい企業であるため同じ1年目でも学位によって任される仕事の規模が違うのが現 状であるが、致し方ないものだと思う。

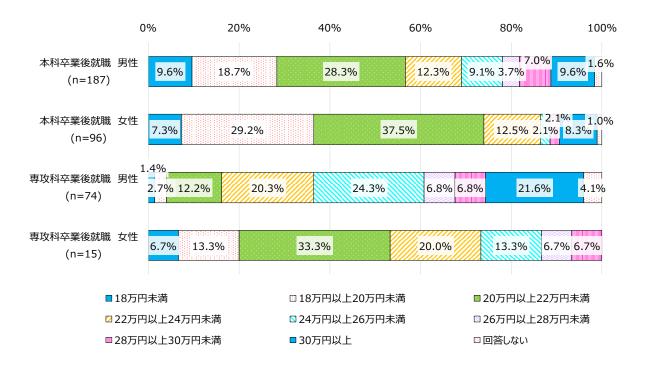
4-5-9 税込み月収 (残業代含む)

現在の月収(税込・残業代含む)は、本科卒業後就職した卒業生は「20万円以上22万円未満(30.9%)」の割合が最も高く、専攻科卒業後就職した卒業生は「24万円以上26万円未満(22.2%)」の割合が最も高い。



図表 155 税込み月収 (残業代含む)





第5章 大学へのアンケート調査

5-1 調査概要

5-1-1 調査対象

全国の国立大学 86件

5-1-2 調査方法

Excel 調査票の配付・電子メール回収

5-1-3 調査時期

令和5年11月27日(月)~令和5年12月15日(金)

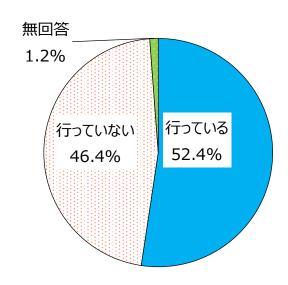
5-1-4 回収状況

回収数:84件(97.7%)

5-2 高専からの編入・進学について

5-2-1 編入を呼びかける取組の有無

国立大学において、編入を呼びかける取組の有無をみると、「行っている」は半数強の **52.4%** となっている。具体的な取組の内容としては、セミナーや説明会等の広報活動や、プログラムの 体験実習等が挙げられている。



図表 157 編入を呼びかける取組の有無(n=84)

【取組の具体的な内容】

セミナー・説明会等を

通じた広報 活動

- ・編入学・進学セミナーに参加
- ・ 本学教員が高等専門学校へ出向いて説明会や進学セミナーを実施
- ・ 高専へ訪問して、高専の教員に対し編入を受けてもらうよう呼び掛けたり、募集概要等について案内したりしている
- ・ 個別の高専訪問による広報活動(入試委員による入試制度の説明含む) 高専生向け編入学・大学院進学説明会:オンライン(3月、5月の大学 院進学説明会に併設して実施)
- ・ 編入学希望者向けミニオープンキャンパス
- ・ 第3年次編入学や大学院への入学を検討されている方を対象とした大学説明会の開催(オンラインまたは訪問)について、高等専門学校へ案内し、希望校に対し実施

	・ 工学部電気電子工学コースでは、毎週高専で授業を行っている教員が授
	業の一部で時間を設け、大学の PR を行っている
	・募集開始時に、全国の高専に募集要項を郵送し、周知
出前講座等	・ 高専生のキャリア形成支援として全国の高専を訪問するとともに、出前
プログラ	講義を通じて高専のキャリア教育をサポートしています。また、高専生
ム・体験機	を対象に本学で実習を行う体験実習を行っています。さらに、高専教員
会の創出	との共同教育並びに高専生を協働で教育するプロジェクトとして「高専
	連携教育研究プロジェクト」、「MILLA 高専連携教育研究支援プログラ
	ム」を実施しています
	・ 本学教員と交流のある高等専門学校との間で教育研究交流協定を締結
	し、高専生を実習生として受入れることで本学の教育研究を体験しても
	らう等の交流を行っている
インターン	・ 高専インターンシップ、高専の学生が1週間ほど工学部の研究室に通
シップ	い、研究等を行う

5-2-2 高専生を積極的に受け入れる目的

高専生を積極的に受け入れる目的をみると、一般の大学からの編入性と比較した場合、高専生の方がより専門的・実践的な教育を受けているため、教育の理解度が高いことや、他の学生への刺激、相乗効果などが挙げられている。

【高専生を積極的に受け入れる目的】

学習経験を	・ 他大学からの編入学者と高専からの編入学者を比較した場合、高専生の
活かした活	方がより高い教育を受けており、本学入学後の教育の理解度が高いと判
躍への期待	断できるため
	・ 専攻科出身者は、5年間の本科での実践的な専門教育に加え、2年間の専
	攻科でのより専門的で高度な教育を受けており、実践力や創造力等を兼
	ね備えた人材と言えることから、先端科学技術の研究開発能力とともに、
	学術的研究成果の事業化以降プロセスをデザインするアントレプレナー
	シップを兼ね備えた理系人材としての素養が期待できるため
<u> </u>	

・ 高専の卒業生は工学系の科目を履修していることと実験等の経験もある。	
ため、工学部への授業にも馴染みやすく、4年次の卒業研究や大学院へ	
の進んでの研究等でも活躍することが多い	
・ 専門性のある知識を取得しているので、さらに大学で学ぶことによって	
高度な人材育成に繋がるため	
専門教育をより多く履修してきている関係で、座学はもちろんのこと、	
特に実験実習等を多く経験していることから、手を動かすことに長けて	
いる	
・ 高専からの編入学生は、一般の高校からの入学者に比べ学力や修学に対	
する意識が高い	
・ データサイエンス学部の教育・研究リソースにより理工系の専門である高	
専生の潜在能力や将来の可能性をさらに高める	
・ 本学部は工学部であり、高専の専攻分野とは親和性・重複が大きく、学生	
の学究の継続性を維持しやすい	
・ 高専において実践的な学修や体験を経ており、他の学生にとって良い刺激	
となっている	
・ 一般選抜等の学生とは異なる経験・技能を有する高専生を受け入れること	
により、学生間の交流による相乗効果が期待できる	
・ 本学部の編入学生においては、その志願者のほとんどが高等専門学校出身	
者(受験時は在籍者)であり、地域における唯一の工学系学部として、社	
会へ高度な教育の場を提供することで地域への貢献を果たす役割を担っ	
ている	

5-3 本科から編入してきた学生の進路・就職

高専本科から編入してきた学生の進路・就職について、それ以外の学生と異なる特徴や傾向は、「大学院に進学する割合が高い」という進学意欲の高さが挙げられた。

【進路について、高専本科からの編入生とそれ以外の学生で異なる特徴や傾向】

進学意欲の高さ		他大学や他学部へ進路を変える学生が多いことが特徴と思われ
		3
		大学院に進学する割合について、学部全体の平均値と比較して高
		専本科からの編入生のみの数値の方が高い
		工学部の卒業生は9割が大学院に進学する。高専編入生について
		もその傾向は同じである
		理系の学生の進学率は、全体で4割程度であるが、高専本科から
		学部へ編入した学生の進学率は7割程度となっており、特に進学
		意欲が高いと考えられる
その他	•	異なる傾向や特徴は無い
		高専からの編入生とそれ以外の学生の就職率・進学率に大きな差
		は見られない

5-4 専攻科から大学院に進学してきた学生の進路・就職

高専専攻科から大学院に進学してきた学生の進路・就職の特徴や傾向としては、進学率の高さ、 フリーランスとして活動する割合が高いなどが挙げられた。

【就職先、進学先等の進路について、高専専攻科からの進学者とそれ以外の学生で異なる特徴や 傾向】

進学意欲の高さ・就		高専専攻科からの進学者の方が、進学率が高い傾向にある(高専
職後の活躍		専攻科からの編入者の進学率:23.5%、それ以外の学生の進学率:
		5.1%)
		該当者が所属している映像研究科では例年、民間企業等に就職す
		るものが約半数を占め、その他フリーランスとして活動する者が
		多い傾向にある
その他		高専出身とそれ以外の学生とで、異なった特徴や傾向は特に認め
		られない
	•	出身校別の比較分析を行っていないため、わからない

・ 数が少ない為特徴・傾向については確認できておりません

5-5 その他

その他、高専からの編入・就職について下記の意見が挙げられた。

【その他ご意見】

高い学習経	•	高専出身の学生はその専門性をいかし、学部及び大学院に進学後も工学
験への期待		分野で活躍している
	•	高専編入生は、大学院博士前期課程への進学率が高く高度専門職業人と
		しての学習意欲が高いと思われる
	•	高専出身者には、高等技術・知識の習得に高い意欲を持った学生の割合
		が多い
	•	高専出身の学生の方がどちらかというと進学率が高い傾向にある印象で
		ある
大学院進学	•	研究や、将来の進路ではなく、大学院に進学すること自身を目的として
後の課題		いる学生が多いように思われる
	•	就職志望の学生は、修士修了段階で研究活動に満足して就職しているの
		で、学部卒業生のように博士後期課程修了後、企業の研究者を志望する
		学生は少ない
	•	編入学して、卒業後に大学院進学者が多い点は良いが、博士後期課程を
		考える学生は一般の入学者と同様にほとんどいない
英語力への		高専出身の学生は実験スキル等の能力が比較的高い。一方で、英語の能
課題		力に課題が見受けられるケースもある
その他		特段の差異は見受けられない
		出身校別の比較分析を行っていないため、わからない
	•	

第6章 まとめ

6-1 調査結果からみる高専卒業生のキャリアパスに関する現状

高等専門学校、企業、卒業生、大学に対する調査結果から高専生のキャリアパスや進路選択に あたっての要因等の現状を把握する。

6-1-1 高専調査

(1)進路・就職先企業について

- ・アンケートに回答した高専における令和4年度卒業生のうち、本科卒業生の進路は「就職者」が全体の6割弱、「大学編入者」が2割強、「専攻科進学者」が1割強である。専攻科卒業生の進路は、「就職者」が7割弱、「大学院進学者」が約3割であった(図表1)。
- ・専攻科卒業生の就職先企業は「製造業」が5割弱である(図表2)。
- ・本科・専攻科ともに就職先の企業規模は1,000人以上大企業の割合が高く、職種は技術者の割合が高い。専攻科生は「研究開発設計」の割合が3割弱と本科生よりも高い(図表4、図表5)。
- ・就職した卒業生のうち、学校推薦で就職した割合が特に本科で8割近くと高い(2-2-7)。
- ・学校推薦については、約4割が「高専卒業生の給与水準が大卒と比較すると低い」「高専卒業 生の配属ポジションに大卒との差がある」など大卒との差を課題として挙げているが、課題が 「特にない」学校の割合も約4割である(図表8)。
- ・次世代産業分野で具体的な就職に繋がっている例としては、AI・IoT・データサイエンス分野、ロボット・航空機分野、半導体・デジタル産業分野、健康、医療分野などがある。

(2)学位のないことによる支障の有無

・高専の就職担当者の認識としては、<u>就職活動において学位がないことによる支障の有無は、「ない」が9割近い(</u>図表 9)。実際に支障が生じた事例としては、大卒または専攻科卒限定の求人があることが挙げられている。

(3)その他課題

- ・本科卒業生の進学に関する課題は、進学希望者の増加に伴う、編入学試験への対策と学業との 両立、進学先の編入枠が少ないことなどである。
- ・その他、高専卒業生のキャリアパスに関する意見として、大卒との待遇の差があることについて、学歴としては差があるが、高専卒業生のより専門的な学びやスキルを評価してほしい、などの意見があった。

・専攻科卒業後に大学院への進学者が少ないことを課題として挙げている学校があり、卒業生も 高専入学時に大学院への進学を意識している割合は少なかった。

6-1-2 企業調査

(1)高専卒社員の在籍状況

- ・回答企業のうち、高専卒社員(本科卒・専攻科卒合計)が「21人以上」在籍している企業が 全体の約2割を占める(図表 15)。また、従業員規模が大きいほど、高専卒社員の人数も多く、 非製造業より製造業で1社あたりの従業員数は多い(図表 16)。
- ・職種は「技術者(開発を除く、生産技術等)」と「その他技術系」が多い(図表 17)。業種・ 規模別では、製造業、従業員規模が小さいほど「研究開発設計」の割合が高い(図表 18)。

(2)採用

- ・令和5年4月の採用人数の平均は、本科卒3.9人、専攻科卒0.3人だが(図表20)、企業により人数のばらつきがある。0名(本年度採用なし)~2名で全体の半数以上を占めるが、20名以上の採用を行っている企業もある(図表21)。採用人数が3名以上の企業では、在籍人数も5名以上となっており、定期的な採用が行われていることが伺える(図表22)。また、採用数は、従業員規模が大きくなるほど増え、非製造業で多い(図表23)。
- ・300 人未満企業は高専生の「不定期採用(採用0-2名、人数5名未満)」、300 人以上の製造業では、「定期少数採用(採用0-2名、人数5名以上)」が中心となっている。非製造業では、1000人以上企業では「定期採用(採用3名以上)」の割合が高い(図表23)。
- ・採用にあたって重視する点は、大卒と高専卒で大きな傾向は同様である。<u>高専卒は、「専門分野の工学的知識・技術の基礎基本」「即戦力型の実践的技術」を重視する割合が大卒より高く、</u>大卒は「問題解決能力」「論理的思考力」等を重視する割合が高専卒より高い(図表28)。また、製造業では高専卒に「即戦力型の実践的技術」を重視する割合が高い(図表29)。
- ・企業の採用課題については、「高専生からの一般応募が少ない」「企業の需要に対し、学校側からの高専生の紹介が不足している」「企業が高専生にアピールする機会が少ない」などとなっており、特に製造業・300-1000人未満企業において課題とする割合が高い(図表 31、図表 32)。

(3)処遇・評価

- ・高専卒の処遇については、新卒時は「大学学部卒と同等」以上の企業は少ないものの、40歳 時にでは約4割に増加する(図表 34)。 ヒアリングでは、「入社時は学歴、学修歴による差 が出るが、入社後は当人の努力次第で給与に反映する」、「入社時のベースの給与は大卒との 差があるが、40代になると能力や資格によって個人差が出てくる」、などの回答が得られ た。
- ・一方で、大卒の方が本科卒より高い企業が 3-4 割程度存在する。<u>業種・規模別にみると、特に 1000 人未満の製造業において「大卒未満」の給与水準となっている割合が高く、5 割以</u>上となっている(図表 35)。
- ・大卒者と比較して高専本科卒者の給与が低い理由としては、半数以上の企業が「学修歴により 給与テーブルが異なるため」をあげており、成果等を理由とする企業はほとんどいない。一方 で、学位を理由とする企業も1割未満となっている(図表 43)。
- ・給与決定要素に学修歴・学位を含んでいる企業は、高専卒が大卒未満の給与水準となっている 企業の割合が高い。一方で、学修歴・学位を含んでいない企業では、入社時に高専卒が大卒と 同等、あるいは 40 歳時には差がなくなっている企業の割合が高い (図表 52)。
- ・昇進スピードや定着率は、大卒と高専卒で差がないとみる企業が多い。能力についても同等と考える企業が多く、小規模の製造業を中心に「高専卒の方が資質・能力が高い」と回答している企業も存在する(図表 66)。
- ・高専出身の大卒と院卒を一般と比較した場合、「同等」と考える企業の割合が高いが、ヒアリング調査では「大学生は資質にばらつきがあるが、高専を経て大学に編入した学生は一定の水準が保たれており、採用する側としては安心感がある」という意見もあった(図表 72)。

6-1-3 卒業生調査

(1)進路について

- ・<u>高専入学時に進学を意識していた卒業生のうち6割は、想定通りの進学先に進んでいる(</u>図表80)。専攻科進学を意識していた卒業生の3割は、大学進学をしている(図表83)。
- ・本科時代の学生生活の満足度は高い。ただし、あまり満足していない方が、就職している傾向がわずかではあるがみられる(図表 83、図表 84)。
- ・高専入学時から大学進学を意識する人も多く、大学進学を意識して高専に入学したうち、6割が実際に大学へ進学している。高専入学時に専攻科から大学院への進学を想定している学生

は少ないが、そのうち6割が専攻科に進学、それ以外は大学に進学している割合が高い。

- ・本科時代に「専門分野の工学的知識・技術の基礎基本」など各種知識・能力を身につけたと考える卒業生は多い(図表 87)。ただし、「入学時から進学を考えておらず就職した」卒業生は、他と比べ各種能力が「十分身についていた」とする割合が低い(図表 88)。
- ・成績上位者は、「入学時から進学を考えていた」と「進学した」卒業生の割合が高く、成績が真ん中から下では「入学時から進学を考えておらず就職した」卒業生の割合が高い(図表 93)。
- ・入学時には進学を考えていない生徒も、入学後の成績が良いと本科卒業後に進学する傾向にある。 る。
- ・進学した学生において「学業成績の進路選択への影響があった」と回答する割合が高い(図表 96、図表 97、図表 98、図表 99)。
- ・「大学希望していたが大学以外」「進学を考えていなかったが進学」と、入学時と進路に変更がある場合、進路決定の時期が遅い傾向にある(図表 104)。
- ・「入学時から進学を考えておらず就職した」卒業生の就職理由は、「早く社会に出て仕事の経験を深めたかったから」「進学の意向がなかったから」「希望する職種で就職先の内定を得られたから」。一方で、数は多くないものの、進学意向はあったが学力不足で就職した卒業生もいる(図表 107)。
- ・「入学時から進学を考えておらず就職した」卒業生は、「企業の安定性」を重視する割合が高い。 キャリアプランは、「スペシャリストとして専門性を磨き、技術者としてその道を極める」の 割合が高く、「まだ決めていない」割合も高い(図表 110、図表 113)。
- ・一方で、進学した卒業生は「給与」「労働時間、休日数」など処遇・条件を重視する割合が高い。キャリアプランとして「研究開発・設計」の割合が高い(図表 110、図表 113)。
- ・本科卒業後に就職した卒業生の就職理由は、「早く社会に出て仕事の経験を深めたかったから」「進学の意向がなかったから」「希望する職種で就職先の内定を得られたから」となっている(図表 106)。
- ・また、本科卒業後に就職した卒業生は、企業の安定性を重視する傾向にあり、高専本科卒業 に身につけていた資質・能力については自己評価が低めで、10 年後のキャリアイメージがまだ ない人も多い(図表 109 図表 112)。

(2)専攻科・大学について

・大学と専攻科の進学理由の比較をすると、大学へは異なる分野の専門知識の獲得と就職後の給

与、専攻科では学位取得、を理由とする傾向がある(図表 119)。

- ・大学生活と専攻科生活の満足度を比較すると、授業については大学の方がやや高いが、「友人 関係」「インターンシップ」「教員との人間関係」「学会などでの研究発表」は専攻科進学者の 満足度が高い(図表 122)。
- ・専攻科卒業生の進学状況は、「学士の学位を取得」を目的として進学し、卒業後に就職するケース、大学院進学までを視野に入れているケースがある(図表 129)。
- ・勉強を目的に専攻科・大学に進学した人はそうでない人よりも「授業科目の内容・水準」「学校生活全般」「キャリアの見通し」における満足度が高く、特に大学においてその傾向が顕著である(図表 123、図表 124)。
- ・卒業後の現在の状況への満足度はいずれも高いが、特に大学院進学者で高い(図表 138)。

(3)就職について(本科・専攻科の比較)

- ・本科及び専攻科卒業後に就職した卒業生の就職1年目の状況は、専攻科卒の方が「研究開発設計」「その他技術系」の割合が高く、給与も高めである(図表 143、図表 155)。
- ・本科卒は専攻科卒に比べて、学校推薦による就職割合が高い(図表 149)。
- ・本科・専攻科卒業生の就職1年目の現在の職場における仕事の満足度は、本科卒業生の「大卒者と比べたときの処遇」について満足している割合がやや低い(図表 151)。
- ・また、現在の職場における最終学歴に対する適切度は、本科卒業生は「給与」に対して満足している割合がやや低い(図表 152)。
- ・本科卒業生のうち、就職や就職後において、学位がないことで支障が生じたことは「ない」が 9割を占める(図表 153)。

(4)女性のキャリアパス (男女別の比較)

・本科卒業後の進路を性別でみると、満足度については大きな差はない。就職した割合は、女性は 57.7%と男性の 42.5%より高い (図表 77)。高専を選択した理由は「高専卒のほうが、就職率が高いと聞いていたから」の割合が女性のほうが高い(図表 81)。本科卒業後に進学ではなく就職を希望した理由は、「早く社会に出て仕事の経験を深めたかったから」の割合が女性のほうが高い(図表 108)。女性が就職先を決定する上で重視することは、「企業の安定性」「労働時間、休日数」「勤務地」「就職先の雰囲気」「福利厚生」などである(図表 111)。10 年後のキャリアプランは、女性は「現時点で決めていない」割合が高い(図表 114)。入社 1 年目の給与は女性の方が低めである(図表 156)。

6-1-4 大学調査

- ・国立大学において、高専生の編入を呼び取組は、「行っている」大学が全体の半数強である(図表 157)。具体的な取組の内容としては、セミナーや説明会等の広報活動や、プログラムの体験 実習等が挙げられている。
- ・高専生を積極的に受け入れる目的は、高専生のより専門的・実践的な教育を受けたことによる 理解度の高さ、他の学生への刺激・相乗効果などが挙げられていた。
- ・高専生は編入先の大学において高い専門性が評価されており、大学院進学者も多い。

6-2 まとめ

6-2-1 全体の結果から

(1)本科卒業生の企業における処遇と本科卒業時の進路選択について

高専制度発足時に高専本科卒者と大卒者が同等であるという議論があった。その際の根拠として、当時の新制大学における専門教育機関が、一般教育の導入によって3年から2年に短縮され、教育年数が足りないとされたことに対し、高専は一般教養部分は少ないものの、専門教育は後期中等教育段階からの5年間の一貫教育を通じて行われることから、大学と同等の専門教育が行われているとされた」。

本調査は、高専本科卒業生の就職時の初任給等が短大卒程度と位置付けられ、大卒者より入社後の処遇等が低い傾向にあると言われていることについて、その現状・要因を明らかにするために実施した。

調査の結果、学校・卒業生ともに就職等で課題があると考えている割合は少ないことがわかった。ただし、一部の高等専門学校では、大卒との処遇差や、学位がないことにより求人において 応募資格がない (専攻科・大卒以上募集) ことを課題として挙げている。また、一部の卒業生からも学位がないことによって支障が生じた例として給与の少なさなどが挙げられた。

企業アンケートによると、採用時には大卒と高専本科卒で給与額の差があるものの、入社後一定期間後は必ずしも大卒との差があるわけではないことがわかった。高専本科卒業生の入社時には、大卒者との2年間の学修歴の差から、給与に差がつくケースが多いが、主に能力・成果給の企業では、入社後に大卒と高専卒で差がなくなることがわかった。また、学歴・年齢給が残る企業においても、給与等の決定においては主に学修歴を要因としており、学位を理由とするケー

¹ 矢野眞和、濱中義隆、浅野敬一編(2018)「高専教育の発見―学歴社会から学習歴社会へ―」(岩波書店)

スは少なかった。なお、アンケート対象企業(高専卒業生採用企業)においては、従業員数 1,000 人未満の規模の製造業を中心に、入社後も高専卒業生が大卒未満の給与となっている割合が高かった。

男女別の結果については、満足度などは差があまりなかったが、女性のほうが男性に比べて就職傾向が強く、就職にあたって企業の条件等についてよく考えていることがわかる。就職1年目の給与については女性のほうが男性よりも低めである(残業代の影響なども考えられる)。将来のキャリアプランについては、女性は現時点でまだ決めていない割合が高く、女性技術者のロールモデルが少ないことなどから、キャリアの見通しが立てにくいことが予想される。

高専卒業生の資質・能力の評価、昇進状況においては、大卒者との差がないと考える企業の割合が高い。ヒアリング調査では、高専生卒業生は一定水準の質が保たれており、安心感があるという意見もあった。

このことから、高専本科卒業生が大学卒より給与が低くなるケースとして、①入社時に学修歴で差がついているケース、②給与制度として学歴・年功給が残るケースの2種類があり、①で能力・成果主義を導入している企業では、入社後に平均して大卒との差がなくなる傾向にあるとみられる。

以上のことから、高専本科卒者と大卒者の処遇の差において、学位として大学卒業程度の「学士」を取得していることが有意性は低く、入社時の年齢差、勉強してきた年数の差が影響しているものと考えられ、特に成果主義を導入している企業ではその差が入社後になくなっていくものと見受けられた。

一方、高専卒業生の進路選択についても課題が伺えた。高専本科卒業後、大学・専攻科への進学ではなく就職を選択する卒業生は、本科時代の成績が低めであり、また本科時代に獲得した知識・能力に対する自信が低めといった傾向がある。さらに、企業選択において安定性重視、かつ学校推薦で進路を決めるという傾向がある(十分な企業研究等を行っていない可能性もある)。このため、仮説ではあるが、(歴史が古く)安定性はあるが、学歴・年功給が残る企業に学校推薦ルートで就職し、結果として大卒よりも給与が低い、といったことが生じている可能性もある。

(2)本科卒業後の進学について(専攻科進学を中心に)

卒業生調査からは、高専入学時から進学を考えている生徒は、成績もよく、6割が想定通りの 進学先に進んでいることがわかった。また、入学時には進学を考えていなかった学生も、入学後 の成績が良いと進学を選択している傾向が強い。 本科卒業後に大学に進学した人と、専攻科に進学した人を比較すると、どちらも大学・専攻科在学中の満足度は高い。特に「友人関係」「教員との人間関係」「学会などでの研究発表」は専攻科進学者のほうが高く、学生生活が充実していることがうかがえる。また、勉強を目的に専攻科・大学に進学した人は、それ以外の人よりも満足度が高い傾向にある。特に大学においてその傾向が顕著であるため、大学への編入学を検討する場合はしっかりと学ぶ目的意識を持つことが重要である。

また、本科卒業後に就職した人と専攻科卒業後に就職した人を比較すると、専攻科卒業生のほうが給与なども高くなっており、専攻科に進学する効果があることがわかる。

一方で、高専へのアンケートにおいても課題として挙がっていたように、専攻科卒業後の進路 として、大学院へのルート定着が課題と想定される。高専入学時に大学院を意識していた卒業生 は少なく、高専入学時から専攻科進学後の大学院進学という選択肢の認知度を向上させること も必要である。

第7章 参考資料

7-1 企業アンケート調査項目(Web アンケート)

1 1	30日 1-(1) 本社の所在地をお選びください。 1-(2)-1 業種をお選びください。 (主なもの一つ)	選択肢 リストより選択 農林・林業 漁業 鉱業・採石業・砂利採取業 建設業 製造業 電気・ガス・熱供給・水道業 情報通信業
		農林・林業 漁業 鉱業・採石業・砂利採取業 建設業 製造業 電気・ガス・熱供給・水道業
		鉱業・採石業・砂利採取業 建設業 製造業 電気・ガス・熱供給・水道業
		建設業 製造業 電気・ガス・熱供給・水道業
		製造業 電気・ガス・熱供給・水道業
		電気・ガス・熱供給・水道業
		情報通信業
		運輸業·郵便業
		学術研究・専門・技術サービス業
		その他
1	1-(3) 従業員数をお選びください。※契約社員、パ	49 人以下
	ート、アルバイトを含んだ数でご回答ください。	50~99人
		100~299 人
		300~999 人
		1,000~4,999 人
		5,000 人以上
2	2-(1)-1 従業員のうち、高専卒社員の在籍人数を	数值
	お答えください。	
	[高専本科卒者(人)]	
	[高専専攻科卒者(人)]	
	[大学卒者のうち、高専出身者(人)]	
	[大学院修了者のうち、高専出身者(人)]	**L ++
2	2-(2)-1 高専卒社員の在籍人数を職種別にお答	数值
	えください。※本科卒・専攻科卒の合計でご入力くだ	
	さい。	
	[研究開発設計(企業)(人)]	
	「技術者(開発を除く、生産技術等)(人)]	
	「研究職(大学・研究開発法人等)(人)」	
	[生産工程職(品質管理等)(人)]	
	「その他技術系(人)」	
	[その他事務営業系(人)]	
2	2-(3)-1 高専卒社員の在籍者の年齢構成につい	数値
	高専卒の社員についてご回答ください。	
	[20代(人)]	
	[30代(人)]	
2	て、年代ごとに人数をお答えください。※最終学歴が高専卒の社員についてご回答ください。	\$Λ IIE

	[40 (+ ()]	
	[40代(人)]	
	[50代(人)]	
	[60代(人)]	
	[70 歳以上(人)]	****
2	2-(4) 従業員のうち、高専卒社員の女性の総人数	数值
	をお答えください。	**************************************
3	3-(1)-1 令和5年4月の採用人数を最終学歴別	数值
	にお答えください。	
	[高専本科卒者(人)]	
	[高専専攻科卒者(人)]	
	[大学卒者(人)]	
	[→上記「大学卒者」のうち、高専からの編入者	
	(人)]	
	[大学院(修士・博士)修了者(人)]	
	[→上記「大学院(修士・博士)修了者」のうち、高	
	専(本科·専科)出身者(人)]	
	[その他(人)]	
3	3-(2) -1 貴社において今後、高専の本科卒者の	採用したい
	採用の意向はありますか。(一つ選択)	良い人材がいれば採用したい
		採用の意向はない
3	3-(2) -2 貴社において今後、高専の専攻科卒者	採用したい
	の採用の意向はありますか。(一つ選択)	良い人材がいれば採用したい
		採用の意向はない
3	3-(3)-1((2)回答した方)大卒者及び高専卒者	専門分野の工学的知識・技術の基礎基本
	の採用にあたって特に重視する点について、あてはまる	即戦力型の実践的技術
	ものを全て選択してください。(複数回答可)	豊かな教養や広い視野
	【大卒】	自主的に学習する力
		問題解決能力
		創意工夫する力
		論理的思考力
		英語力
		リーダーとしての資質
		協調性
		勤勉性
		責任感
		その他
3	3-(3)((2)回答した方)大卒者及び高専卒者の	専門分野の工学的知識・技術の基礎基本
	採用にあたって特に重視する点について、あてはまるも	即戦力型の実践的技術
	のを全て選択してください。(複数回答可)	豊かな教養や広い視野
	【高専卒】	自主的に学習する力
		問題解決能力
		創意工夫する力
3	採用にあたって特に重視する点について、あてはまるものを全て選択してください。(複数回答可)	その他 専門分野の工学的知識・技術の基礎基本 即戦力型の実践的技術 豊かな教養や広い視野 自主的に学習する力 問題解決能力

		-ATP/HD = 2.1
		論理的思考力 *****
		英語力
		リーダーとしての資質
		協調性
		勤勉性
		責任感
		その他
3	3-(4)-1((2)回答した方) 高専卒採用における課	企業の需要に対し、学校側からの高専生の紹介が不
	題について、あてはまるものを全て選択してください。	足している
	(複数回答可)	企業の需要に対し、高専生の応募者が多い
		高専生からの一般応募が少ない
		企業が求める人材像に合う人材の応募がない
		高専生の辞退率が高い
		企業が高専生にアピールする機会が少ない
		採用段階で能力を見極めにくい
		 高専卒の採用実績がない、少ない
		 高専についてよく知らない
		 課題はない
		その他
4	4-(1)-1 高専卒社員の平均的な給与水準につい	- 高校卒と同等
	て、次の中からそれぞれあてはまるものを選択してくだ	高校卒と専門学校・短大卒の間
	さい。(一つずつ選択)	専門学校卒と同等
		短大卒と同等
	 【新卒採用時】	・・・・・・・・・ 専門学校・短大卒と大学学部卒の間
	①本科卒	大学学部卒と同等
	②専攻科卒	大学学部卒と大学院卒の間
	【40 歳時】	大学院卒と同等
	①本科卒	その他
	②専攻科卒	
4	4-(2)-1 高専卒社員の昇格基準について、あては	 高校立と同等
'	まるものをそれぞれについて選択してください。(一つ	南水平に向守 専門学校卒と同等
	ずつ選択)	短大卒と同等
	【本科卒】	左八平Cilig# 大学学部卒と同等
	【事攻科卒】	ヘチチ部 や C回寺 なし
		なし その他
1	4 (2) 1 京東森社昌東田の絵与ニ ブリけもりも	
4	4-(3) -1 高専卒社員専用の給与テーブルはありま	ある
4	すか。(一つ選択)	ない
4	4-(3) -2-1 (「専用の給与テーブルがある」) 高専	高校卒と短大卒・専門学校卒の間に相当
	卒社員の給与テーブルは、どこに相当しますか。それぞ	短大卒・専門学校卒と大学学部卒の間に相当
	れについてお答えください。(一つずつ選択)	その他
	【本科卒】	
	【専攻科卒】	
4	4-(3) -2-2(「専用の給与テーブルはない」) 高専	高校卒と同等

		専門学校卒と同等
	か。それぞれについてお答えください。 (一つずつ選	短大卒と同等
	报) 【大彩章】	大学学部卒と同等
	【本科卒】	学歴別の給与テーブルはない
	【専攻科卒】	その他
4	4-(3) -3((3) -2 をご回答いただいた方)(3)-2	自由記述
	でご回答いただいた給与テーブルとなっている理由をご	
	記入ください。	
4	4-(4)-1 貴社の給与を決める際、以下の要素はそ	数值
	れぞれ何%程度ですか。割合が合計 100%になるよ	
	うにお答えください	
	 [年齢・勤続年数(%)]	
	[学歴 (%)]	
	[能力・役割(%)]	
	[成果(%)]	
	「その他(%)]	
4	4-(5)-1 貴社の給与テーブルには、以下の要素が	 学修歴(学校に通った年数)
l .	考慮されていますか。あてはまる項目を全て選択してく	子は定く子はに過うた十数) 学位の有無
	ださい。(複数回答可)	ケロット派 仕事の内容(ジョブ型)
	/とことが。(後数四百号)	こずのから音(フュン主) その他
		その他記述
		学修歴(学校に通った年数)
		学位の有無
		仕事の内容(ジョブ型)
		その他
4	4-(6)-1 昇格を決定するうえで次の事柄は考慮さ	学修歴(学校に通った年数)
	れますか。あてはまるものを全て選択してください。	学位の有無
	(複数回答可)	仕事の内容(ジョブ型)
		その他
4	4-(7) -1-1 大卒者と高専本科卒者の給与の平均	ある(大卒者のほうが高い)
	に差はありますか。(一つ選択)	ある(高専本科卒者のほうが高い)
		ない
		その他
4	4-(7) -2-1 (「ある (大卒者のほうが高い)」) 大	学修歴により給与テーブルが異なるため
	卒者と比較して高専本科卒者の給与が低い理由と	 高専本科卒者は学士の学位がないから
	して次の事柄があてはまるかお答えください。(複数	大卒者と同等な職務を求めていないため
	回答可)	大卒者と比較して高専本科卒者の成果が低いため
		その他
4	4-(7) -3 (「ある(高専本科卒者のほうが高	自由記述
'	い)」)大卒者と比較して高専本科卒者の給与が	н н н н н н н н н н н н н н н н н н н
	高い要因として分析していることがあればお答えくださ	
	(\).	

4	4-(8)-1 高専卒社員の定着率・昇進状況について	大卒の社員よりも高い
	それぞれお答えください。(一つずつ選択)	大卒の社員と同程度である
	定着率	大卒の社員よりも低い
	【本科卒】	把握していない
	【専攻科卒】	
	昇進状況	
	【本科卒】	
	【専攻科卒】	
4	4-(9) -1-1 貴社の高専本科卒者と大卒者の資	専門分野の工学的知識・技術の基礎基本
	質・能力について、あてはまるものを選択してください。	即戦力型の実践的技術
	(一つ選択)	豊かな教養や広い視野
		自主的に学習する力
		問題解決能力
		創意工夫する力
		高型的思考力 論理的思考力
		英語力
		リーダーとしての資質
		協調性
		勤勉性
		責任感
		技術に対して相対的に安価な給与水準
		その他
4	4-(9) -2-1 (「大卒者のほうが資質・能力が高	専門分野の工学的知識・技術の基礎基本
	い」)大卒社員/高専卒社員のほうが資質・能力が	即戦力型の実践的技術
	高いと回答した理由について、あてはまるものを全て	豊かな教養や広い視野
	選択してください。(複数回答可)	自主的に学習する力
		問題解決能力
		創意工夫する力
		創意工夫する力 論理的思考力
		論理的思考力
		論理的思考力 英語力
		論理的思考力 英語力 リーダーとしての資質
		論理的思考力 英語力 リーダーとしての資質 協調性
		論理的思考力 英語力 リーダーとしての資質 協調性 勤勉性
		論理的思考力 英語力 リーダーとしての資質 協調性 勤勉性 責任感
4	4-(10) 貴社では、高専出身の大学卒業牛・大学	論理的思考力 英語力 リーダーとしての資質 協調性 勤勉性 責任感 技術に対して相対的に安価な給与水準 その他
4	4-(10) 貴社では、高専出身の大学卒業生・大学 院修了牛を採用したことがありますか。 (一つ選択)	論理的思考力 英語力 リーダーとしての資質 協調性 勤勉性 責任感 技術に対して相対的に安価な給与水準 その他 採用したことがある
4	4-(10) 貴社では、高専出身の大学卒業生・大学 院修了生を採用したことがありますか。(一つ選択)	論理的思考力 英語力 リーダーとしての資質 協調性 勤勉性 責任感 技術に対して相対的に安価な給与水準 その他 採用したことがある 採用したことがない
	院修了生を採用したことがありますか。(一つ選択)	論理的思考力 英語力 リーダーとしての資質 協調性 勤勉性 責任感 技術に対して相対的に安価な給与水準 その他 採用したことがある 採用したことがない わからない
4	院修了生を採用したことがありますか。(一つ選択) 4-(11) (「採用したことがある」と回答した方) 高	論理的思考力 英語力 リーダーとしての資質 協調性 勤勉性 責任感 技術に対して相対的に安価な給与水準 その他 採用したことがある 採用したことがない わからない 高専出身の大学卒業生・大学院修了生の方が優れ
	院修了生を採用したことがありますか。(一つ選択) 4-(11) (「採用したことがある」と回答した方) 高 専出身の大学卒業生・大学院修了生の資質・能力	論理的思考力 英語力 リーダーとしての資質 協調性 勤勉性 責任感 技術に対して相対的に安価な給与水準 その他 採用したことがある 採用したことがない わからない 高専出身の大学卒業生・大学院修了生の方が優れ ている
	院修了生を採用したことがありますか。(一つ選択) 4-(11) (「採用したことがある」と回答した方) 高 専出身の大学卒業生・大学院修了生の資質・能力 について、一般の大学卒業生・大学院修了生と比較	論理的思考力 英語力 リーダーとしての資質 協調性 勤勉性 責任感 技術に対して相対的に安価な給与水準 その他 採用したことがある 採用したことがない わからない 高専出身の大学卒業生・大学院修了生の方が優れ ている 一般の大学卒業生・大学院修了生の方が優れている
	院修了生を採用したことがありますか。(一つ選択) 4-(11) (「採用したことがある」と回答した方) 高 専出身の大学卒業生・大学院修了生の資質・能力	論理的思考力 英語力 リーダーとしての資質 協調性 勤勉性 責任感 技術に対して相対的に安価な給与水準 その他 採用したことがある 採用したことがない わからない 高専出身の大学卒業生・大学院修了生の方が優れ ている

	自由にご記入ください。	
6	6-(1) 本調査事業では、高専生のキャリアパスに関	はい
	する調査のため、ヒアリング調査(1 時間程度/オン	いいえ
	ラインまたは対面)を予定しております。ヒアリング調	
	査へのご協力	
7	7-(1) 貴社名をご記入ください。	記述
7	7-(2)-1 ご回答いただい方のご連絡先をご記入くだ	記述
	さい。	
	[部署名]	
	[ご役職]	
	[お名前]	
	[お電話番号(ハイフンなし)]	
	[メールアドレス]	

7-2 卒業生アンケート調査項目(Web アンケート)

問	設問	選択肢
1	(1) 在籍していた学校名をお選びください。	リストより選択
1		本科卒業後、企業に就職
		本科卒業後、専攻科に進学
		本科卒業後、大学に編入学
	 (2) あなたの卒業後の進路をお答えください。 (1つ	本科卒業後(または在学中に)会社を起業
	選択)	専攻科卒業後、企業に就職
		専攻科卒業後、大学院に進学
		専攻科卒業後(または在学中に)会社を起業
		その他
1		機械•材料系
		電気・電子系
		情報系
	 (3) あなたの所属していた学科系統をお答えくださ	化学・生物系
	い。(1つ選択)	建設・建築系
		複合系
		商船
		その他
1		男性
		女性
	(4) あなたの性別をお答えください。(1つ選択)	その他
		回答しない
2		高専卒のほうが、就職率が高いと聞いていたから
	(1) 中学卒業後の進路で高専を選択した理由とし	国立大学等の大学に編入学するため
	て、あてはまるものを全て選択してください。(複数回	専門性を高め、専攻科を経由して大学院に進学する
	答可)	ため
		その他
2		とても満足している
	(2) 高専本科時代の教育、学生生活にどの程度満	やや満足している
	足していますか。(1つ選択)	あまり満足していない
		まったく満足していない
2	(3) 高専本科卒業時に、次に示すような知識・能力	十分身についていた
	をどの程度身につけていたと思いますか。それぞれにつ	ある程度身についていた
	いてお答えください。(1つずつ選択)	どちらともいえない
		あまり身についていなかった
	専門分野の工学的知識・技術の基礎基本	まったく身についていなかった
	即戦力型の実践的技術	
	豊かな教養や広い視野	
	自主的に学習する力	
	問題解決能力	
	創意工夫する力	
	論理的思考力	

	英語力	
	リーダーとしての資質	
	協調性	
	勤勉性	
	責任感	
2		上のほう
	 (4) あなたの本科在学時(4~5 年生のとき)の成	やや上
	績は、学科の中でどのあたりでしたか。(1つ選択)	真ん中くらい
		やや下
		下のほう
2	(5) (4)と関連して、学業成績が卒業後の進路選	ある(自由記述)
	択に影響したことはありますか。ある場合、その内容も	ない
	ご記入ください。(1つ選択)	
2		中学生時以前
		高専本科1年生時
	 (6) 本科卒業後のキャリアパス (就職・進学 等)	高専本科2年生時
	を決定した時期を選択してください。(1つ選択)	高専本科3年生時
		高專本科4年生時
		高専本科5年生時
2		とても満足している
_	 (7) あなたは現在の状況(学業や就職)について、	やや満足している
	満足していますか。 (1つ選択)	あまり満足していない
	MACO CO OCO / 10 CT / 25/10	まったく満足していない
3		高専本科と同じ分野の高度な専門知識を身につけた
		かったから
		パラにパラ 高専本科と異なる分野の専門知識を身につけたかった
		から
	(1) あなたが、専攻科への進学を選んだ理由として、	^ ^ 大学よりも高度な専門知識を得られると思ったから
	あてはまるものを全て選択してください。(複数回答	学士の学位を取得したかったから
	可)	大学に編入したかったが、学力不足で難しかったから
		専攻科から大学院に進学したいから
		就職に有利だと思ったから
		その他
3	(2) 東内科表の学校生活の次の東極について、また	· -
٥	(2) 専攻科での学校生活の次の事柄について、あな	とても満足している
	たの満足度をそれぞれお答えください。(1つずつ選	やや満足している
	択) 授業科目の内容 水準	あまり満足していない
	授業科目の内容・水準	まったく満足していない
	学会などでの研究発表	
	インターンシップ	
	教員との人間関係	
	友人関係	
	専攻科での生活全般 	
	キャリアの見通し	

4	(1) 大学に編入学をした理由として、あてはまるものを全て選択してください。 (複数回答可)	これまで学習した分野と同じ分野の高度な専門知識を身につけたかったからこれまで学習した分野と異なる専門知識を身につけたかったから就職のために大卒の資格が欲しかったから学士の学位を取得したかったから高専卒よりも大卒のほうが給与が高いから在学中の大学の大学院に進学するためその他
4	(2) 大学での学校生活の次の事柄について、あなた の満足度をそれぞれお答えください。(1つずつ選 択) 授業科目の内容・水準 学会などでの研究発表 インターンシップ 教員との人間関係 友人関係 大学での生活全般 キャリアの見通し	とても満足している やや満足している あまり満足していない まったく満足していない
4	(3) 大学院に進学した理由としてあてはまるものを全て選択してください。(複数回答可)	これまで学習した分野と同じ分野の高度な専門知識を身につけたかったからこれまで学習した分野と異なる専門知識を身につけたかったから就職のために院卒の資格が欲しかったから修士の学位を取得したかったから希望職種が高専卒、大卒では募集されていなかったから
5	(1) 今後の進路予定について、現時点での希望を お答えください。(1つ選択)	就職する(学校推薦) 就職する(自由応募) 起業する 進学する まだ考えていない その他
5	(2) 現時点での希望職種をお答えください。 (1つ 選択)	研究開発設計(企業) 技術者(開発を除く、生産技術等) 研究職(大学・研究開発法人等) 生産工程職(品質管理等) その他技術系 その他事務営業系 その他
5	(3) 現時点での希望業種をお答えください。 (1つ 選択)	農業、林業 漁業 鉱業、採石業、砂利採取業

	T	
		建設業
		製造業
		電気・ガス・熱供給・水道業
		情報通信業
		運輸業、郵便業
		学術研究、専門・技術サービス業
		公務
		その他
5		企業の安定性
		業種
		給与
		労働時間、休日数
		知識や専門性、能力が活かせること
		勤務地
	(4) 就職先を決定する上で重視することは何です	
	か。あてはまるものを全て選択してください。(複数回	就職先の雰囲気
	答可)	チームの一員として協力しながら働けること
		企業の知名度やイメージ
		社会への貢献度
		福利厚生
		OB・OG の存在
		進路担当者の勧め
		その他
5		スペシャリストとして専門性を磨き、技術者としてその道
		を極める
	 (5) あなたの将来(10年後まで)のキャリアプラン	研究開発・設計に関する業務に従事
	にもっとも近いものを選択してください。(1つ選択)	管理職として複数のプロジェクト・部門を牽引
	にもっても近いものを選択して行るい。(1)選択)	会社を起業
		現時点で決めていない
		その他
6		農業、林業
		漁業
		鉱業、採石業、砂利採取業
		建設業
		製造業
	(1) -1 現在働いている業種をお答えください。(1	電気・ガス・熱供給・水道業
	つ選択)	情報通信業
		運輸業、郵便業
		学術研究、専門・技術サービス業
		公務 Zouth
		その他
6	(1) -2 ((1) -1 で「製造業」を選択した方にお聞きします。)現在働いている「製造業」について、分類をお答えください。(1つ選択)	食料品・飲料・たばこ・飼料製造業
		繊維工業
		印刷・同関連業
		化学工業、石油·石炭製品製造業

		社会への貢献度
		社会への負制を
		OB・OG の存在
		進路担当者の勧め
		その他
6	上記で選択した項目のうち、もっとも重視することは何	上記で選択した選択肢
	ですか。(1つ選択)	
6		スペシャリストとして専門性を磨き、技術者としてその道
		を極める
	 (9) あなたの将来(10年後まで)のキャリアプラン	研究開発・設計に関する業務に従事
	にもっとも近いものを選択してください。(1つ選択)	管理職として複数のプロジェクト・部門を牽引
	Teopeoper violation (1)	会社を起業
		現時点で決めていない
		その他
6	(10) あなたは現在の仕事において、次の事柄につい	とても適切
	て満足していますか。それぞれについてお答えください。	どちらかといえば適切
	(1つずつ選択)	どちらかといえば適切でない
	仕事の内容	まったく適切でない
	処遇(給与・昇進等)	
	上司・同僚・後輩との人間関係	
	 大卒者と比べたときの仕事内容	
	 大卒者と比べたときの処遇	
	求められる仕事の質(知識・技術のレベル)	
	 仕事上の責任の大きさ	
	 給与	
	昇進の機会	
6	(12) 就職や就職後において、学位がないことで支	ある
	障が生じたことがありますか。ある場合、その内容もご	ない
	記入ください。(1つ選択)	
6	(12) 就職や就職後において、学位がないことで支	
	障が生じたことがありますか。ある場合、その内容もご	
	記入ください。(1つ選択)「※ある場合は、具体的	
	な事例もご記入ください	
6	9.3 %30eBBX (4cecv.)	18 万円未満
~		18 万円以上 20 万円未満
		1077
		20 万円以上 22 万円未満 22 万円以上 24 万円未満
	(13) あなたの税込み月収(残業代含む)はおおよ	24 万円以上 24 万円未満 24 万円以上 26 万円未満
	そどれぐらいですか。(1つ選択)	26 万円以上 28 万円未満
		28 万円以上 28 万円未満
		30万円以上
_	(,) ====================================	回答しない
7	(1) 高専卒業後の大学や社会における高専に対す	自由記述

	る評価や待遇について、感じている点がありましたらご	
	記入ください。	
7	(2) その他、高専についてご自由にご意見をご記入く	自由記述
	ださい。	

7-3 高等専門学校アンケート調査票

文部科学省 先導的大学改革推進委託事業 「高等専門学校卒業者のキャリアパス等に関する調査研究」調査票 (高等専門学校)

【ご協力のお願い】

ご回答が複数の部署に関わる場合は、本調査票を関連部署にご確認の上、取りまとめていただくようお願い申し上げます。

このたび、文部科学省高等教育局では令和5年度 先導的大学改革推進委託事業「高等専門学校卒業者のキャリアバス等に関する調査研究」を実施することになりました。本調査結果は、今後高等専門学校の関連施策検討の参考とさせていただく予定です。つきましては、調査の趣旨をご理解いただき、何本で協力くださいますよう宜しくお願い申し上げます。なお、アンケート集計等取りまとめについては、民間の調査研究機関「株式会社リージルタス・コンサルティング」が実施いたします。ご記入が終わりましたら、12月15日(金)までに、下記のメールアドレスまでご返信ください。

メールアドレス: kousen@libertas.co.jp

※提出ファイル名について、「【高専調査票】●●高等専門学校xlsx」と、ご変更をお願いいたします。

<回答上の注意>

- ○四台上の注思マ・シート名の変更、行・列の追加・削除、セルの結合等の変更は、一切行わないようお願いいたします。
 ・令和5年5月1日時点の状況をご回答ください。
 ・回答データはすべて統計的に処理し集計・分析いたしますので、個人情報については一切公開いたしません。
 ・本調査は、厳重な個人情報管理のもと、回収及び集計を、株式会社リベルタス・コンサルティング(Pマーク取得事業者 取得番号10822382)が行います。



1. 貴校のご回答者情報(ご回答をとりまとめて頂いた方のご連絡先)をご記入ください

学校名		※ブルダウンでご選択ください。
CO	答者情報	
	部署名	ご記入ください
Ca	ご役職	ご記入ください
について	お名前	ご記入ください
て者	お電話番号	ご記入ください
	メールアドレス	ご記入ください

2. 本科生・専攻科生の就職についてお尋ねします

(1) 昨年度(令和4年度)の学生の進路状況についてお答えください。

3000						
昨年	度(令和4年度)	の学生の進路状況				
	就職者	人数をご記入ください	人			
本	大学編入者	人数をご記入ください	人			
科	専攻科進学者	人数をご記入ください	人	▼以下に合計人数が表示	されます。	
	その他	人数をご記入ください	人	本科合計人数	0	一人
専	就職者	人数をご記入ください	人			
攻	大学院進学者	人数をご記入ください	人	▼以下に合計人数が表示	されます。	
科	その他	人数をご記入ください	人	専攻科合計人数	0	一人

(2) 昨年度(令和4年度)の学生の就職先について、職種別の人数をお答えください。

	研究開発設計	ご記入ください	人
	技術者(開発を除く、生産技術等)	ご記入ください	人
本科	生産工程職(品質管理等)	ご記入ください	人
1000	その他技術系	ご記入ください	人
	その他事務営業系	ご記入ください	人
	研究開発設計	ご記入ください	人
専	技術者(開発を除く、生産技術等)	ご記入ください	人
攻	生産工程職(品質管理等)	ご記入ください	人
科	その他技術系	ご記入ください	人
	その他事務営業系	ご記入ください	人

本科合計人数	0	
		_
▼以下に合計人数が表示	iされます。	

(3) 昨年度(令和4年度)の学生の就職先企業の規模について、おおよその割合をお答えください。 ※把握していない場合は、空欄のまま次の設問にお進みください。 49人未満 ご記入ください 50~99人 ご記入ください 100~299人 ご記入ください 300~999人 ご記入ください 1,000~4999人 ご記入ください ▼以下の合計が100%となるよう左欄にご記入ください。 5,000人以上 ご記入ください 本科合計 0.0 % 49人未満 ご記入ください ご記入ください 50~99人 100~299人 ご記入ください 300~999人 ご記入ください ご記入ください ▼以下の合計が100%となるよう左欄にご記入ください。 1,000~4999人 ご記入ください 専攻科合計 0.0 (4) 学生の就職先企業の勤務地について、おおよその割合をお答えください。 ※把握していない場合は、空欄のまま次の設問にお進みください。 貴校の所在地と同一の都道府県の企業 ご記入ください ▼以下の合計が100%となるよう左欄にご記入ください。 貴校の所在地と異なる都道府県の企業 本科合計 ご記入ください 海外の企業 貴校の所在地と同一の都道府県の企業 ご記入ください 貴校の所在地と異なる都道府県の企業 ご記入ください ▼以下の合計が100%となるよう左欄にご記入ください。 海外の企業 ご記入ください 専攻科合計 0 (5) 昨年度(令和4年度)の企業へ学校推薦で就職した人数をお答えください。 本科 ご記入ください 専攻科 ご記入ください (6) 昨年度(令和4年度)求人のあった企業数についてお答えください。 ※本科・専攻科の合計人数をご記入ください。 求人企業数 ご記入ください 上記のうち、学生を推薦した企業 ご記入ください (7) 昨年度(令和4年度)、求人のあった企業数を業種ごとにお答えください。 ※本科・専攻科の合計人数をご記入ください。 農業、林業 ご記入ください 漁業 合計社数 ご記入ください 社 鉱業、採石業、砂利採取業 ご記入ください 建設業 ご記入ください 社 製造業 ご記入ください 社 電気、ガス、熱供給、水道業 ご記入ください 情報通信業 ご記入ください 汁 運輸業、郵便業 ご記入ください 社 学術研究、専門・技術サービス業 ご記入ください ご記入ください その他についてご記入ください その他 (8) 学校推薦にあたっての課題(実際に生じた事項)について、あてはまるものを全て選択してください。 企業のニーズに合う人材が供給できていない 2 高専生の希望職種に合った求人が得られない 3 高専卒業生の給与水準が大卒と比較すると低い 高専卒業生の配属ポジションに大卒との差がある 5 特になし 6 その他 その他についてご記入ください

(9) 昨年度(令和4年度)の<u>車攻科生の就職先企業の業種</u>について、それぞれ就職者数をご記入ください。 また、製造業への就職者がいる場合は、業種の内訳についてご記入ください。 ※把握していない場合は、空欄のまま次の設問にお進みください。 <専攻科生> 就職先企業の業種 人数記入欄 ▼以下に合計人数が表示されます。 合計人数 0 人 農業、林業 ご記入ください 漁業 ご記入ください 鉱業、採石業、砂利採取業 ご記入ください 建設業 ご記入ください 製造業 ▼以下に製造業の内訳の合計人数が表示されます。 食料品・飲料・たばこ・飼料製造業 繊維工業 合計人数 ご記入ください 印刷·同関連業 ご記入ください 化学工業、石油・石炭製品製造業 ご記入ください 鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業 ご記入ください はん用・生産用・業務用機械器具製造業 ご記入ください 電子部品・デバイス・電子回路製造業 電気・情報通信機械器具製造業 ご記入ください 輸送用機械器具製造業 ご記入ください その他の製造業 ご記入ください 電気、ガス、熱供給、水道業 ご記入ください 情報通信業 ご記入ください 運輸業、郵便業 学術研究、専門・技術サービス業 ご記入ください ご記入ください その他 (その他についてご記入ください (10) 貴校で育成に力を入れている次世代産業分野のうち、具体的な就職に繋がっている例があればご紹介ください。例: 毎年10人ほどAI を研究した学生が、AIに力を入れている企業に就職している。等 ご記入ください 3. 学位についてお尋ねします (1) 高専生の就職活動において、学位がないことで支障が生じた事例を把握していますか。 (→(2) へお進みください。) 1 はい 2 いいえ (→「4.進学についてお尋ねします」へお進みください。) → 回答欄 (2) (1)において把握状況を「はい」と回答した方にお聞きします。 把握している具体的な内容をご記入ください。 例:海外における就職の際に学位がないためエンジニアとして採用されなかった。等 ご記入ください 4. 進学についてお尋ねします (1) 本科卒業生の進学に関して、課題だと感じることをご記入ください。 ご記入ください (2) <u>専攻科修了生の進学</u>に関して、課題だと感じることがあればご記入ください。 ご記入ください

1 高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業(文部科学省)への参加 2 高等年の起業家OB・OGによる講義 3 アントレプレナーション教育の実施 4 起業家工房(気作スペース)の設置 5 起業家・専門家による起業支援 6 インキュペーション推進室(起業支援)の設置 7 実施していない 8 その他 ((1) 菌専出身の学生のキャリアパス(就職・進学)等についてのご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。 ご記入ください 7. □事務連絡 (1) 専調査事業では、高事生のキャリアパスに関する調査のため、ご担当者へのヒアリング調査(1時間程度/オンラインまたは対面)を予定しております。ヒアリング調査へのご協力が可能でしたら、「はい」をご選択ください。 1 はい (一別途弊社からご連絡させていただくことがございます。) 2 いいえ □ 図客欄 (2) 【卒業生アンケート】の配布方法について、ご対応いただいた方法をお知らせください。 1 全数配布 (ーアンケートは終了です。) 2 抽出による一部配布(→(3)に配布人数をご記入ください。) ■ 回客欄	5. 曽生の起業についてお尋ねします
2 いない 3 わからない	(1) 貴校の在校生または卒業生で起業した人はいますか。
3 わからない ■ 図書欄 (2) 起業に対する支援等について、実施している内容を全て選択してください。(複数回答可) 1 高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業(文部科学省)への参加 2 高等中の起来家でB・へのによる誘導 3 アントレプレナーシップ教育の実施 4 起業家工房(気作スペース)の設置 5 起業を、専門等なよる起業支援 6 インキュペーション推進室(起業支援)の設置 7 実施していない 8 その他 (() その他についてご記入ください)) 6. Lその他 (1) 商専出身の学生のキャリアバス(就職・進学)等についてのご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。 ご記入ください 1 はい (→ 別途弊社からご連続させていただくことがございます。) 2 いいえ ■ 留書欄 (2) 【卒業生アンケート】の配布方法について、ご対応いただいた方法をお知らせください。 1 全級配布 (一アンケートは終了です。) 2 抽出による一部配布 (一(3)に配布人数をご記入ください。) ■書欄 (3) (2)で「2 抽出による一部配布 (一(3)に配布人数をご記入ください。	1 118
(2) 起業に対する支援等について、実施している内容を全て選択してください。(複数回答可) 1	2 いない
(2) 起薬に対する支援等について、実施している内容を全て選択してください。(複数回答可) 1 高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業(文部科学省)への参加 2 高等やの起業なの8・〇名による構験 3 アントレブレナーシップ教育の実施 4 起業ま工房(試作スペース)の設置 5 起業・専門窓による起業支援 6 インキュペーション推進室(起業支援)の設置 7 実施していない 8 その他 (1) 菌専出身の学生のキャリアパス(就職・進学)等についてのご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。 こ記入ください こ記入ください 1 はい (一別途弊社からご連続させていただくことがございます。) 2 いいえ 回答欄 (2) [卒業生アンケート]の配布方法について、ご対応いただいた方法をお知らせください。 1 全数配布(ーアンケートは鎖了です。) 2 抽出による一部配布(一〇3)に配布人数をご記入ください。) 回答欄 (3) (2)で「2 抽出による一部配布」を選択した場合、ご配布いただいた人数をご記入ください。	3 わからない
(2) 起薬に対する支援等について、実施している内容を全て選択してください。(複数回答可) 1 高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業(文部科学省)への参加 2 高等やの起業をOB・OGによる構験 3 アントレプレナーシップ教育の実施 4 起業ま工房(試作スペース)の設置 5 起業・専門窓による起業支援 6 インキュペーション推進室(起業支援)の設置 7 実施していない 8 その他 (1) 菌専出身の学生のキャリアパス(就職・進学)等についてのご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。 こ記入ください こ記入ください 1 はい (一別途弊社からご連絡させていただくことがございます。) 2 いいえ 回答欄 (2) [卒業生アンケート]の配布方法について、ご対応いただいた方法をお知らせください。 1 全数配布(ーアンケートは鎖了です。) 2 抽出による一部配布(一〇)に配布人数をご記入ください。) 回答欄 (3) (2)で「2 抽出による一部配布」を選択した場合、ご配布いただいた人数をご記入ください。	
1 高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業 (文部科学省) への参加 2 高専卒の起業家のB・OSCLよる構養 3 アントレプレナーシップ教育の実施 4 起業変工房 (ばれてペース) の股階 5 起業家・専門家による起業支援 6 インキュペーション推進室 (起業支援) の股階 7 実施していない 8 その他 (1) 曹専出身の学生のキャリアパス(就職・進学)等についてのご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。 こ記入ください こ記入ください 「記入ください 「記入ください 「記れ (一別遊弊社からご連続させていただくことがございます。) 2 いいえ 「自然服布 (一アンケート は終了です。) 2 抽出による一部配布 「法について、ご対応いただいた方法をお知らせください。 「全数配布 (一アンケートは終了です。) 2 抽出による一部配布 (一(3)に配布人数をご記入ください。) 「国客機	□─────────────────────────────────────
2 高専卒の起業家でB・OGによる議義 3 アントレブレナーション教育の実施 4 起業家工房(試作スペース)の設置 5 起業家・専門家による起業支援 6 インキュペーション推進室(起業支援)の設置 7 実施していない 8 その他 (1) 曹専出身の学生のキャリアパス(就職・進学)等についてのご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。 こまさ入ください 7. □事務連絡 (1) 魯調査事業では、高専生のキャリアパスに関する調査のため、ご担当者へのヒアリング調査(1時間程度/オンラインまたは対面)を予定しております。ヒアリング調査へのご協力が可能でしたら、「はい」をご選択ください。 1 はい (一別途弊社からご連絡させていただくことがございます。) 2 いいえ 回答欄 (2) 【卒業生アンケート】の配布方法について、ご対応いただいた方法をお知らせください。 1 全数配布 (一アンケートは終了です。) 2 抽出による一部配布 (一(3)に配布人数をご記入ください。) 回答欄 (3) (2)で「2 抽出による一部配布」を選択した場合、ご配布いただいた人数をご記入ください。	(2) 起業に対する支援等について、実施している内容を全て選択してください。(複数回答可)
3 アントレプレナーシップ教育の実施 4 起業家工房(試作スペース)の設置 5 起業家・専門家による起業支援 6 インキュペーション推進室(起業支援)の設置 7 実施していない 8 その他 (() 画専出身の学生のキャリアパス(就職・進学)等についてのご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。 こ記入ください 7. □事務連絡 (1) 摩調査事業では、高専生のキャリアパスに関する調査のため、ご担当者へのとアリング調査(1時間程度/オンラインまたは対面)を予定しております。とアリング調査へのご協力が可能でしたら、「はい」をご選択ください。 1 はい (→別途弊社からご連絡させていただくことがございます。) 2 いいえ	
4 起業家工房(試作スペース)の設置 5 起業家・専門家による起業支援 6 インキュペーション推進室(起業支援)の設置 7 実施していない 8 その他 (1) 簡専出身の学生のキャリアパス(就職・進学)等についてのご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。 ご記入ください ご記入ください こ記入ください こ記入ください。 「記入ください。 「記い (→ 別途弊社からご連絡させていただくことがございます。) 2 いいえ 「会数配布 (→アンケート]の配布方法について、ご対応いただいた方法をお知らせください。 「全数配布 (→アンケートは終了です。) 2 抽出による一部配布 (→(3)に配布人数をご記入ください。) 「国答権 「図」で「2 抽出による一部配布」を選択した場合、ご配布いただいた人数をご記入ください。	
5 起業家・専門家による起業支援 6 インキュペーション推進室(起業支援)の設置 7 実施していない 8 その他 ((1) 窗専出身の学生のキャリアパス(就職・進学)等についてのご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。 こ記入ください 7.	
6 インキュペーション推進室 (起業支援) の設置 7 実施していない 8 その他 (その他についてご記入ください) 8 その他 (その他についてご記入ください) 6. Lその他 () 商専出身の学生のキャリアバス(就職・進学)等についてのご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。	en believen and continue to the continue of th
7 実施していない 8 その他 (その他についてご配入ください) 6. □その他 (1) 簡専出身の学生のキャリアパス(就職・進学)等についてのご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。 「記入ください) 7. □事務連絡 (1) 卑調査事業では、高専生のキャリアパスに関する調査のため、ご担当者へのヒアリング調査(1時間程度/オンラインまたは対面)を予定しております。ヒアリング調査へのご協力が可能でしたら、「はい」をご選択ください。 1 はい (→別途弊社からご連絡させていただくことがございます。) 2 いいえ □答欄 (2) 【卒業生アンケート】の配布方法について、ご対応いただいた方法をお知らせください。 1 全数配布 (→アンケートは終了です。) 2 抽出による一部配布(→(3)に配布人数をご記入ください。) □答欄 (3) (2)で「2 抽出による一部配布」を選択した場合、ご配布いただいた人数をご記入ください。	31 - 41 3 3 - 42 - 42 - 42 - 42 - 42 - 42 - 42
6.	
(1)	8 その他 (その他についてご記入ください)
(1)	
7. □事務連絡 (1) 専調査事業では、高専生のキャリアパスに関する調査のため、ご担当者へのヒアリング調査(1時間程度/オンラインまたは対面)を予定しております。ヒアリング調査へのご協力が可能でしたら、「はい」をご選択ください。 1 はい (→ 別途弊社からご連絡させていただくことがございます。) 2 いいえ 回答欄 (2) 【卒業生アンケート】の配布方法について、ご対応いただいた方法をお知らせください。 1 全数配布 (→アンケートは終了です。) 2 抽出による一部配布 (→(3)に配布人数をご記入ください。) — 回答欄 (3) (2)で「2 抽出による一部配布」を選択した場合、ご配布いただいた人数をご記入ください。	6. 口その他
7. 「事務連絡 (1) 専調査事業では、高専生のキャリアパスに関する調査のため、ご担当者へのヒアリング調査(1時間程度/オンラインまたは対面)を予定しております。ヒアリング調査へのご協力が可能でしたら、「はい」をご選択ください。 1 はい (→ 別途弊社からご連絡させていただくことがございます。) 2 いいえ 回答欄 (2) 【卒業生アンケート】の配布方法について、ご対応いただいた方法をお知らせください。 1 全数配布 (→アンケートは終了です。) 2 抽出による一部配布 (→(3)に配布人数をご記入ください。) — 回答欄 (3) (2)で「2 抽出による一部配布」を選択した場合、ご配布いただいた人数をご記入ください。	(小春本山もの光水のよう)(京) (李琳、朱本) 第一のロッので乗りいで不相がもりましょう。 ごうしにごうり パギル・
(1)	
(1)	7 「事務連絡
2 いいえ → 回答欄 (2) 【卒業生アンケート】の配布方法について、ご対応いただいた方法をお知らせください。 1 全数配布 (→アンケートは終了です。) 2 抽出による一部配布 (→(3)に配布人数をご記入ください。) → 回答欄 (3) (2)で「2 抽出による一部配布」を選択した場合、ご配布いただいた人数をご記入ください。	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(2) 【卒業生アンケート】の配布方法について、ご対応いただいた方法をお知らせください。 1 全数配布 (→アンケートは終了です。) 2 抽出による一部配布 (→(3)に配布人数をご記入ください。) ■ 回答欄 (3) (2)で「2 抽出による一部配布」を選択した場合、ご配布いただいた人数をご記入ください。	
(2) [卒業生アンケート]の配布方法について、ご対応いただいた方法をお知らせください。 1 全数配布 (→アンケートは終了です。) 2 抽出による一部配布 (→(3)に配布人数をご記入ください。) ■ 回答欄 (3) (2)で「2 抽出による一部配布」を選択した場合、ご配布いただいた人数をご記入ください。	
2 抽出による一部配布 (→(3)に配布人数をご記入ください。) □答欄 (3) (2)で「2 抽出による一部配布」を選択した場合、ご配布いただいた人数をご記入ください。	(2) 【卒業生アンケート】の配布方法について、ご対応いただいた方法をお知らせください。
2 抽出による一部配布 (→(3)に配布人数をご記入ください。) □答欄 □(3) (2)で「2 抽出による一部配布」を選択した場合、ご配布いただいた人数をご記入ください。	1 全物配布(→アン/ケートは終了です)
(3)(2)で「2 抽出による一部配布」を選択した場合、ご配布いただいた人数をご記入ください。	
	→ 回答欄
ご記入ください	(3)(2)で「2 抽出による一部配布」を選択した場合、ご配布いただいた人数をご記入ください。
	ご記入ください

一 ご協力ありがとうございました。-

7-4 大学アンケート調査票

	「高等	専門学	校卒業者のキャリフ	大学改革推 アパス等に間 大学)	進安託事業 引する調査研究」調査票
			【ご協力	のお願い】	
ご回答が複数の部署	暑に関わる場合	は、本調	関査票を関連部署にご	確認の上、耳	なりまとめていただくようお願い申し上げます。
査研究」を実施するこ ては、調査の趣旨をこ	」とになりまし 『理解いただき 【計等取りまと	た。本調 、何卒ご めについ	査結果は、今後高等 「協力くださいますよう いては、民間の調査研究	厚門学校の関 う宜しくお願 に機関「株式	(業」高等専門学校卒業者のキャリアバス等に関する 連施策検討の参考とさせていただく予定です。つきま い申し上げます。 会社リベルタス・コンサルティング」が実施いたしま までご返信ください。
	ールアドレス: 是出ファイル名(1000000	enêlibertas.co.jp 「【大学調査票】●●大:	】 学.xlsx」と、こ	で変更をお願いいたします。
<回答上の注意> ・シート名の変更	(年、別の泊	fn · 尚险	カルの紅人等の亦可	# #	りないようお願いいたします。
・令和5年5月1・回答データはす	日時点の状況 べて統計的に な個人情報管	をご回答処理し集	ください。 計・分析いたしますの	で、個人情	級については一切公開いたしません。 レタス・コンサルティング(Pマーク取得事業者 取
【調查実施】 調查事務局(株 担当者:栗田 E-mail: kouse TEL:0120-5 安付:平日16	大式会社リベル (くりた) 傍島 n @libertas.c 575-332 (フリ 0:00~17:00	タス・コ (そばじ o.jp ーダイヤ (土・日	'ル) ・祝を除く)		751/10
※ なるべくメー	ルでのお問合え	わせをお願	重いいたします。		10822382(09)
# ## @ let +0		tr +m /^r			
1. 黄学の情報・	こ回答者が	育報(こ)	回答をとりまとめて	頂いた万	のご連絡先)をご記入ください
学校名					※ブルダウンでご選択くださ
部局名					にださい
に回 ご役職 つ答 お名前					(ださい
て者お電話番号					にださい
メールアドレス				ご記入ぐ	(ださい
		L . M.			
2. 層専から編え	(・進字して	きた字	生についてお尋ね	1 まる	
				.067	
	度)、高専か				ください。
				数をご記入	ください。 声は、学等学生数をご回答ください。
(1) 昨年度(令和4年	82年次に編入		入学してきた学生の	数をご記入	
(1) 昨年度(令和4年 ①高専本科から、学音	第2年次に編入 第3年次に編入		入学してきた学生の ご記入ください	数をご記入 人 ※大:	生は、学華学生数をご回答ください。
(1) 昨年度(令和4年 ①高専本科から、学音 ②高専本科から、学音 ③高専専攻科から、ナ	那2年次に編入 那3年次に編入 大学院へ入学 学学部に編え	ら編入・	入学してきた学生の ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください	数をご記入	さは、学等学生数をご回答ください。 対は、学等学生数をご回答ください。
(1) 閏年度(令和4年 ①高専本科から、学き ②高専本科から、学き ③高専専攻科から、プ (2) 高専本科から大 握されている範囲で	那2年次に編入 那3年次に編入 大学院へ入学 学学部に編え	ら編入・	入学してきた学生の ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください	数をご記入	対は、学等学生数をご回答ください。 対は、学等学生数をご回答ください。 対後のある大学のみご回答ください。
(1) 酉年度(令和4年 ①高専本科から、学き ②高専本科から、学き ③高専専攻科から、学 ②高専本科から大・ 握されている範囲で	82年次に編入 83年次に編入 大学院へ入学 学学部に編え 、主なものを	ら編入・	入学してきた学生の ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください	数をご記入	料は、学等学生数をご回答ください。 料は、学等学生数をご回答ください。 半険のある大学のみご回答ください。 こ進学してきた学生が所属する研究室について
(1) 酉年度(令和4年 ①高専本科から、学き ②高専本科から、学き ③高専専攻科から、学 ③高専専攻科から大・ 握されている範囲で ① 学部名 こ 82 ② 学部名 こ 82	第2年次に編入 第3年次に編入 大学院へ入学 学学部に編り 、主なものを	ら編入・ してきが 最大5つ 学科名	入学してきた学生の ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください こごれください こご記入ください。	数をご記入	料は、学等学生数をご回答ください。 対は、学等学生数をご回答ください。 学院のある大学のみご回答ください。 こ進学してきた学生が所属する研究室について ご記入ください
(1) 酉年度(令和4年 ①高専本科から、学き ②高専本科から、学き ③高専専攻科から、大 (2) 高専本科から大 担されている範囲で ① 学部名 こまる ② 学部名 こまる	第2年次に編入 第3年次に編入 大学院へ入学 学学部に編え 、主なものを 込ください	ら編入・ してきが 最大5つ 学科名 学科名	入学してきた学生の こ記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください	数をご記入 人 ※大: 人 ※大: 人 ※大: から大学院 講座名 講座名	料は、学等学生数をご回答ください。 料は、学等学生数をご回答ください。 単版のある大学のみご回答ください。 二進学してきた学生が所属する研究室について ご記入ください ご記入ください
(1) 節年度(令和4年 ①高専本科から、学 ②高専本科から、学 ③高専専攻科から、グ (2) 高専本科から大 提されている範囲で ① 学部名 こ ② 学部名 こ ③ 学部名 こ 3 学部名 こ 3 学部名 こ 3 ご	第2年次に編入 第3年次に編入 本学院へ入学 学学部に編え 、主なものを 入ください 入ください	ら編入・ 人してきか 最大5つ 学科名 学科名 学科名	入学してきた学生の ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください	数をご記入	は、学等学生数をご回答ください。 対は、学等学生数をご回答ください。 地域のある大学のみご回答ください。 こ進学してきた学生が所属する研究室について打 こ記入ください ご記入ください
(1) 韓年度(令和4年 ①高専本科から、学き ②高専本科から、学き ③高専本科から大・提 はたれている範囲で ① 学部名 こま ② 学部名 こま ② 学部名 こま ⑤ 学部名 こま	82年次に編入 83年次に編入 *学院へ入学 学学部に編 、主なものを 、人ください 入ください 入ください 入ください 入ください 入ください 入ください 入ください	ら編入・ してきた 最大5つ 学科名 学科名 学科名 学科名 学科名 学科名	入学してきた学生の ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください こ記入ください こ記入ください ご記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください	数をご記入	は、学等学生数をご回答ください。 は、学等学生数をご回答ください。 は、学等学生数をご回答ください。 に進学してきた学生が所属する研究室についてす こ記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください
(1) 韓年度(令和4年 ①高専本科から、学き ②高専本科から、学き ③高専本科から大・提 はたれている範囲で ① 学部名 こま ② 学部名 こま ② 学部名 こま ⑤ 学部名 こま	82年次に編入 83年次に編入 *学院へ入学 学学部に編 、主なものを 、人ください 入ください 入ください 入ください 入ください 入ください 入ください 入ください	ら編入・ してきた 最大5つ 学科名 学科名 学科名 学科名 学科名 学科名	入学してきた学生の ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください こ記入ください こ記入ください ご記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください	数をご記入	は、学等学生数をご回答ください。 は、学等学生数をご回答ください。 世様のある大学のみご回答ください。 二進学してきた学生が所属する研究室についてす ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください
(1) 即年度(令和4年 ①高専本科から、学き ②高専本科から、学き ③高専専攻科から、学 (2) 高専本科から大機を力している範囲で ① 学部名 ご記で ② 学部名 ご記で ⑤ 学部名 ご記で ⑤ 学部名 ご記で ⑤ 学部名 ご記で	82年次に編入 83年次に編入 *学院へ入学 学学部に編 、主なものを 、人ください 入ください 入ください 入ください 入ください 入ください 入ください 入ください	を編入・ 最大5つ 学科名 学科名 学科名 学科名 学科名	入学してきた学生の ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください	数をご記入	は、学等学生数をご回答ください。 は、学等学生数をご回答ください。 は、学等学生数をご回答ください。 に進学してきた学生が所属する研究室についてす こ記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください
(1) 韓年度(令和4年 ①高専本科から、学き ②高専本科から、学き ③高専事攻科から、学 (2) 高専本科から大・ 振されている範囲で ① 学部名 ごおび ② 学部名 ごおび ⑤ 学部名 ごおび ⑤ 学部名 ごおび ⑤ 学部名 ごおび	82年次に編入 83年次に編入 学院へ入学 学学部に編え 、主なものを 入ください 入ください 入ください 入ください (一(4) へま	を編入・ 最大5つ 学科名 学科名 学科名 学科名 学科名 学科名	入学してきた学生の ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください	数をご記入 人 ※大・ 人 ※大・ から大学院 ・ 講座名 講座名 講座名 講座名 講座名 講座名 講座名	は、学等学生数をご回答ください。 は、学等学生数をご回答ください。 は、学等学生数をご回答ください。 に進学してきた学生が所属する研究室についてす こ記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください
(1) 昨年度(令和4年 ①高専本科から、学き ②高専本科から、学き ③高専事攻科から、大 (2) 高専本科から大 (2) 高専本科から大 (3) 学部名 こ (4) 学部名 こ (5) 学部名 こ (6) 学部名 こ (7) 学部名 こ (7) 学部名 こ (8) 大学として、高専 フ選択)	82年次に編入 83年次に編入 学学部に編え ・ 主なものを ・ 入ください ・ 入ください ・ 入ください ・ 入ください ・ (→ (4) へま ・ (→ (を編入・ 最大5つ 学科名 学科名 学科名 学科名 学科名 学科名	入学してきた学生の ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください こ記入ください こ記入ください こ記入ください	数をご記入 人 ※大・ 人 ※大・ から大学院 ・ 講座名 講座名 講座名 講座名 講座名 講座名 講座名	料は、学等学生数をご回答ください。 料は、学等学生数をご回答ください。 は、学等学生数をご回答ください。 に進学してきた学生が所属する研究室について対 ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください の記入ください の記入ください の記入ください
(1) 即年度(令和4年 ①高専本科から、学き ②高専本科から、学き ③高専専攻科から、学 ③高専専攻科から大 (2) 高専本科から大 援されている範囲で ① 学部名 ご記 ② 学部名 ご記 ③ 学部名 ご記 ⑤ 学部名 ご記 ⑤ 学部名 ご記 ⑤ 学部名 ご記 ⑤ 学部名 ご記 ② 大学として、高専 つ選択)	82年次に編入 83年次に編入 第3年次に編入 学学部に編奏 、主なものを 入ください 入ください 入ください (一(4) へよ (一「3、 酒	ら編入・ ・	ス学してきた学生の ご記入ください こ記入ください こ記入ください	数をご記入 人 ※大・ 人 ※大・ 人 ※大・ から大学院 調座名 調座名 調座名 調座名 調座名 調座名 調座名 調座名	料は、学等学生数をご回答ください。 料は、学等学生数をご回答ください。 は、学等学生数をご回答ください。 に進学してきた学生が所属する研究室について対 ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください の記入ください の記入ください の記入ください
(1) 即年度(令和4年 ①高専本科から、学部 ②高専本科から、学部 ②高専本科から大 振されている範囲で ① 学部名 ご記 ② 学部名 ご記 ③ 学部名 ご記 ③ 大学として、高専 つ選択) 1 行っている 2 行っていない 回答欄 (4) (3)において取組	82年次に編入 83年次に編入 第3年次に編入 学学部に編奏 、主なものを 入ください 入ください 入ください (一(4) へよ (一「3、 酒	ら編入・ ・	ス学してきた学生の ご記入ください こ記入ください こ記入ください	数をご記入 人 ※大・ 人 ※大・ 人 ※大・ から大学院 調座名 調座名 調座名 調座名 調座名 調座名 調座名 調座名	料は、学等学生数をご回答ください。 料は、学等学生数をご回答ください。 は、学等学生数をご回答ください。 に進学してきた学生が所属する研究室について対 ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください の記入ください の記入ください の記入ください
(1) 即年度(令和4年 ①高専本科から、学部 ②高専本科から、学部 ②高専本科から大 振されている範囲で ① 学部名 ご記 ② 学部名 ご記 ③ 学部名 ご記 ③ 大学として、高専 つ選択) 1 行っている 2 行っていない 回答欄 (4) (3)において取組	82年次に編入 83年次に編入 第3年次に編入 学学部に編奏 、主なものを 入ください 入ください 入ください (一(4) へよ (一「3、 酒	ら編入・ ・	入学してきた学生の こ記入ください	数をご記入 人 ※大・ 人 ※大・ 人 ※大・ から大学院 調座名 調座名 調座名 調座名 調座名 調座名 調座名 調座名	料は、学等学生数をご回答ください。 料は、学等学生数をご回答ください。 は、学等学生数をご回答ください。 に進学してきた学生が所属する研究室について対 ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください の記入ください の記入ください の記入ください
(1) 即年度(令和4年 ①高専本科から、学部 ②高専本科から、学部 ②高専本科から大 振されている範囲で ① 学部名 ご記 ② 学部名 ご記 ③ 学部名 ご記 ③ 大学として、高専 つ選択) 1 行っている 2 行っていない 回答欄 (4) (3)において取組	82年次に編入 83年次に編入 第3年次に編入 学学部に編奏 、主なものを 入ください 入ください 入ください (一(4) へよ (一「3、 酒	ら編入・ ・	入学してきた学生の こ記入ください	数をご記入 人 ※大 人 ※大 ・ ※大 ・ ※大 ・ ※大 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	料は、学等学生数をご回答ください。 料は、学等学生数をご回答ください。 は、学等学生数をご回答ください。 に進学してきた学生が所属する研究室について対 ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください の記入ください の記入ください の記入ください
(1) 即年度(令和4年 ①高専本科から、学部 ②高専本科から、学部 ②高専本科から大 振されている範囲で ① 学部名 ご記 ② 学部名 ご記 ③ 学部名 ご記 ③ 大学として、高専 つ選択) 1 行っている 2 行っていない 回答欄 (4) (3)において取組	82年次に編入 83年次に編入 第3年次に編入 学学部に編奏 、主なものを 入ください 入ください 入ください (一(4) へよ (一「3、 酒	ら編入・ ・	入学してきた学生の こ記入ください	数をご記入 人 ※大 人 ※大 ・ ※大 ・ ※大 ・ ※大 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	料は、学等学生数をご回答ください。 料は、学等学生数をご回答ください。 は、学等学生数をご回答ください。 に進学してきた学生が所属する研究室について対 ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください の記入ください の記入ください の記入ください
(1) 昨年度(令和4年 ①高専本科から、学き ②高専本科から、学き ③高専専攻科から、グラックを (2) 高専本科から大 撮きれている範囲で ① 学部名 こ記さ ② 学部名 こ記さ ③ 学部名 こ記さ ③ 大学として、高専 つ選択) 1 行っている 2 行っていない 回答欄 (4) (3)において取組 実施している具々	82年次に編入 83年次に編入 学学部に編え 学学部に編え 大工なものを 入ください 入ください 入ください (一(4) へよ (一(3) 不 (一(4) へよ (一(5) 不) 不 (一(5) 不 (一(5) 不) 不 (一(5) 不 (一(5) 不) 不 (一(5) 不 (一(5) 不) 不 (一(5) 不	ら編入・ 「一・「一・「一・「一・「一・「一・「一・「一・「一・「一・「一・「一・「一・「	ス学してきた学生の ご記入ください こ記入ください こ記入ください。	数をご記入 人 ※大学院 講座名 講座名 講座名 講座名 講座名 講座名 講座名 講座名	料は、学等学生数をご回答ください。 料は、学等学生数をご回答ください。 は、学等学生数をご回答ください。 に進学してきた学生が所属する研究室について対 ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください ご記入ください の記入ください の記入ください の記入ください

ご記入ください

就職者	ご記入ください	人 ▼以下に合計人数が表示さ
進学者	ご記入ください	人合計人数
就職準備中	ご記入ください	
進学準備中	ご記入ください	
死亡•不詳	ご記入ください	
その他	ご記入ください	人(その他についてご記
、進学先等の進路について、高	<u> </u>	学生で異なる特徴や傾向はあり
	ご記入ください	
		- Maria - Albania - Albani
専攻科から大学院に進学	してきた学生の進路・就職につい	いてお尋ねします。
攻科から大学院に進学し、昨年 ない場合は、空欄のままで次の設問に 就職者	手度(令和4年度)に修了した学生の お進みください。 ご記入ください	・進路状況についてお答えください 人 ▼以下に合計人数が表示さ
進学者	ご記入ください	人合計人数
就職準備中	ご記入ください	Д.
進学準備中	ご記入ください	
死亡•不詳	ご記入ください	
	ご記入ください	人(その他についてご記
その他		
	高専専攻科からの進学者とそれ以外	の学生で異なる特徴や傾向はあ
	高専専攻科からの進学者とそれ以外 ご記入ください	の学生で異なる特徴や傾向はあ
		の学生で異なる特徴や傾向はあ

一 ご協力ありがとうございました。 —